

特35

559

芥無第1季
師範学校編輯

女比志のけ
巻の二

明治十四年九月七日編付益智館

東京女子高等師範学校

女子の儀禮

の儀禮乃次第

は

種々由りて古儀式

は大率今の世に著し行を

是れ

は

は

は

は

は

類教育
類教育
冊二
函冊
七母の巻序

女子の儀禮

用ゐるものありきと通常は一汁五菜一汁三菜を
 用ゐるものありきと今阿けつゝあるは二汁五菜は
 ちとちたれを以て配膳の事也と句くさるる也し
 二汁五菜は配膳の順序は古持最初本膳を出し
 次二の膳次小向膳引之飯を進免又汁
 を進免盃を出し之向膳引之飯子を出し之酒を
 進免次盃を出し之重引を出し又飯子を出し之
 酒を進免次之吸物を出し之膳引之飯又飯子
 を中へ湯を進免吸物を出し湯と水と持出之
 湯を進免茶侍を出し之本膳引之飯次之湯茶

飯茶を出し之茶侍と引之又菓子を出し之湯
 茶と碗と引之魚又魚茶先之濃茶を出 出之終
 之菓子を出し之湯茶汁の時は二膳は次之三膳
 を中へ吸物を出し之前之これを出し之又二汁五
 菜の時は膳を合厚物又は厚物と煮物を合膳 飯子吸物
 飯子湯口取湯茶菓子魚茶の順序は三
 菜は之きは茶と菓子とは煮茶何れものあり
 人を招く惣膳は之は自物を進むるを本意
 とす之と款待方よりを以ては之を以て持する
 之は是を配膳といふ給り之は古に加用を長とす

の稱阿室加用ハ座敷乃次此間上居客前ハのり
をまじりとのり即給事のまじりも長は縁を
まじり縁部ハのり受取其のまじり給事ハ縁をまじり
客加用の数は客をまじり此ハのりまじり
ハのりまじりまじりまじりハのりまじり
焼物又引菜重引の類ハ其のまじり或ハ親
族此人のまじりまじりハ親睦厚意を表せむの
り

四方三方は右手を胸のまじり形より内ハ丸魚盤脚乃
類は脚の間をまじり丸裏杖書ハ受け丸手を丸縁此
まじりのまじり下より仰け添ハ大指を縁のまじり
けまじりまじり足打ハ寸此類もむハ同ハ越や
此のまじりハ丸手を仰け大指を縁ハかけ中
程をまじり或良とまじり
配儀此まじりの縁をまじりハ縁ハ引足まじり
まじりまじりまじりハ上まじりまじり
其膝をつま下まじり縁或ハ膝上ハ揃ハまじり
足乃爪先をまじりまじり

正座して物を客あたまにすゑみよすゑくつを引く付らぬ
の居らぬまゝすゑは居急あつてまづんを懸けしゑ先下座
乃このまゝ斜に向ひ居坐のゑは居た座此付きたの
縁取れ其品又ハ其品のよむし地味をぬく物とよ腕
ふまのよ必得ん

腕をぬくまゝあつてこの付はけつてはよ下座此
方上下の方此縁を厚くし甲右へ四つよはたれおりの膝をたののり人
右へまづまづ左の
このまゝなりその足とるまゝあつて歩みよこのなり

本膳の進名様

膳をとり出さすう急まゝあつてひまより美之を下よ急ま

高座人へ配膳するときは皆
飯見し汁椀の物をもつて 南縁をとり客あたまがし出さす居
急まゝあつてまづあつてあつて

二の膳れを急ま

本膳のあつて持出さす客地味このまゝあつて前よ
言記たまに左縁をとり居急まあつて左縁取れ持出さす
かし押出さす居急ま退さすの急ま総て客のたま
あつてこれのり方は此ふ反すゑ必得ん

向詰の進め様

持出さす本膳此向さすう急まゝあつて前縁よ急ま
あつて

亭主或は親族より進免をうけ首を打出し之を添へ
肩へ添へたは是れ者坐此首をうけ下へ蓋
き向を改免亭主首をうけられたる四車してまつり

飯ののらるるを免ぬ

飯はかけりきをむしりては餅を臺へすき物子或物を
取して左へ蓋を拵持出し座敷乃下坐此のて或ハ
次のふれ出りて足討ひ踏きあまの爪先下へ向ふ
身は婦人取て足仰けり足討ひ右へ左の脇へ蓋
蓋した身を洗ふ女は物子取取し餅の腹へあそり以れ
あまは蓋を拵立出りてお前ふが餅は踏きたの

方小あし二の儀此向より九寸の櫛をうけ女を添

つ餅の方に向ひ女はよあやしの物れ中程儀とあ
しつ二寸をうけ集りて女をよそ又客の方に向ひ櫛
を添へ女を洗ひさく餅ののらるる蓋を拵らるる
はやく此客へ移りたりさく蓋は取らるるさく
編り女を向ふ人足あそり拵出さく蓋の細お踏き
身を仰けぬが儀のをくつらり

客敷向の時を神はころよころと出ひくのうれはま
續きゆく解きはまを第一此客を人の第二の客り
進免第一と申第二へ移り第三より第四へ移り

幾箇して此順序より或常より凡そ初めを
如ゆりつて順してと若し一より凡そ初めを凡そ
神より凡そ初めは凡そ初めより凡そ初めより
方の第一上の方此第二より次の方乃第二より移り初め
凡そ初めより凡そ初めより凡そ初めより凡そ初め
つて凡そ初め第二凡の第一より凡そ初め第二
凡そ初め

凡そ初めより凡そ初めより凡そ初めより凡そ初め
凡そ初めより凡そ初めより凡そ初めより凡そ初め
凡そ初めより凡そ初めより凡そ初めより凡そ初め
凡そ初めより凡そ初めより凡そ初めより凡そ初め
凡そ初めより凡そ初めより凡そ初めより凡そ初め
凡そ初めより凡そ初めより凡そ初めより凡そ初め

凡そ初めより凡そ初めより凡そ初めより凡そ初め
凡そ初めより凡そ初めより凡そ初めより凡そ初め
凡そ初めより凡そ初めより凡そ初めより凡そ初め
凡そ初めより凡そ初めより凡そ初めより凡そ初め
凡そ初めより凡そ初めより凡そ初めより凡そ初め
凡そ初めより凡そ初めより凡そ初めより凡そ初め
凡そ初めより凡そ初めより凡そ初めより凡そ初め
凡そ初めより凡そ初めより凡そ初めより凡そ初め
凡そ初めより凡そ初めより凡そ初めより凡そ初め
凡そ初めより凡そ初めより凡そ初めより凡そ初め
凡そ初めより凡そ初めより凡そ初めより凡そ初め
凡そ初めより凡そ初めより凡そ初めより凡そ初め

汁のつてりて

凡そ初めより凡そ初めより凡そ初めより凡そ初め
凡そ初めより凡そ初めより凡そ初めより凡そ初め
凡そ初めより凡そ初めより凡そ初めより凡そ初め
凡そ初めより凡そ初めより凡そ初めより凡そ初め
凡そ初めより凡そ初めより凡そ初めより凡そ初め
凡そ初めより凡そ初めより凡そ初めより凡そ初め
凡そ初めより凡そ初めより凡そ初めより凡そ初め
凡そ初めより凡そ初めより凡そ初めより凡そ初め
凡そ初めより凡そ初めより凡そ初めより凡そ初め
凡そ初めより凡そ初めより凡そ初めより凡そ初め
凡そ初めより凡そ初めより凡そ初めより凡そ初め
凡そ初めより凡そ初めより凡そ初めより凡そ初め

前小踏を程を交けり立ちり程で持出ては時程を
おれり人踏を基の右縁にのけり依る御座るは基
成しと集りて家より一歩初程を基を以て後
し時を基を以てのり物を取里仰けり家の右縁に
さき基を以て立ちりてはるりてはるりてはるり
飯にあり

盃乃出りやう

盃を三方より打よのを持出さる向後北上の方へ斜小
おま向後をとり下北方に斜小を以て基を以て
本儀の向後踏の小を以て重し移りてはるりてはるり

り返りたり

中酒乃酌のさやう

控子のけりをおもひ立ち口の下北方も程れたる添
へ立出りたの添をりま右の添はつりぬ程りて踏ま
置成出さるり時右添を着きりてはるり立ちりて移り
たり

客身まゝと酌二三人の出り初り出りては第一望
の客次は第二望と出り第三望と第四望に移り
第二望は第四望ハ第五望を良とされり時首よ
と望形給ありてはるりてはるりてはるり

酒を注ぐ時十をよとせしはあつたしとあるものなりハ
右様七公をよとせし又右様成りけりし時を強ひて
注ぐるものなり

盃に盃引き様

立出さるる盃の前より跪き盃乃右縁をた右のより
立ちがたり引き出さるる持出さるるなり

重引のなきなり

中酒に着は重よといふ三方は是れおよのき著者
重よもあよとせし持出さるる度敷の台よを次は
乃出はし跪き下は重よ飯神なるなり

若我重の内よも前乃右角にまてのけに重よ
重よもあよとせし持出さるる度敷の台よを次は

右出り客の出さるる物もたもよとせし持出さるる
重よの方に出り重よた角にまてのけに重よ

先我著のわよかけし持出さるる重よもあよとせし持出さるる
持出さるる物もたもよとせし持出さるる度敷の台よを次は
右出り客の出さるる物もたもよとせし持出さるる
重よの方に出り重よた角にまてのけに重よ

は飯神のなり

多續して液一足針ひ下望し抄人短く復時をく時更
取ら返るる

又二人あり多む時と紙師の時をく一とくふまをく
盤より

二度目の酌此を中

此度は程多を抽出し時お乃出さしん行りおに引取
をつましく抄居おれ指子城思て多を注ぎて立の位なり

吸物の進み様

吸物を多む時は三方又は是れより居る例のよきく抽出
二種のたれ方と斜お動起たも二種のたれ縁を待たる

お多分の縁をとりかゝ引出しあきと持りて本様の
向斜より起さく吸物の量を二種を抽出す時と同
多續して二種は然よきなり

三度目の酌の志様

此度は二度目と同しこれより注ぎて後再び出さし
居る量の割合より多を抽出し立出さし注ぎ居る
蓋紙納をくしを待たるなり

吸物の引き中

立出さし吸物出さし如く壺より多を引く
中しあきと持りて立の位なり

湯の道め程

湯をさすは二人のさすは一人のさすより湯の
さす持たな手銭をさす出へ上は此家へさす
さ進を率さすさすのさすは次回乃出さ
扱今人ハ湯を同時さ水はさす持出さ最初さ
居家家のさあささ湯をさす扱めさり家此
著を細さささささささささささささ

又湯はさすさ三方さ打さささ持出ささ
ささ下ささ湯のさ銭持ささ又元のさ三方
ささ次入物ささあり

湯の道め程

萬子を縁さ又ハ陶器ささ三方さ打さ居湯
を扱縁さの扱は縁此金ををさささ
家の向は持出さ本縁の上此方さの扱本縁さ引扱さ
乃さ上蓋と向扱さの引扱ささ縁の金ををさ
前ささささは是打さささ縁さささ

湯の道め程

湯茶の第一巻は縁ささ持さささ湯の
物を引さささ引さの蓋さささ

二度月乃萬子進さ様

菓子と陶器類よと上巻よすは善を附けて最初
とあり一付のよとて多きを陶器の碗を引くやうに
初めは第一巻よ述ぶるやうに

又茶碗をいふ改をく菓子とをいふことあり

無茶の進め指

総て第一巻よ述ぶるやうに自指あり

○飲食乃次第

飲食をいふことありとは先を身体を整ふを肝要と
すなり故に人に情をくれては善なり今時は民間の
令るるを程なきに存りては昔ハ茶碗と

たき丸茶をいふことありは今は直茶を
いふ事ははくことあり

総て人よをいふことありは心よをいふことあり

られたるものははくことありは料器乃

組合を茶碗といふことありは味を知りたるは

形をいふことありは心よをいふことありは世物乃

のむねの味ははくことありは心よをいふことありは

免茶をいふことありは心よをいふことありは

時は茶をいふことありは心よをいふことありは

飯汁はくことありは心よをいふことありは

まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

飯のつくり方
のつくり方
のつくり方

おの志

おの志
おの志
おの志

おの志
おの志
おの志

おの志

おの志
おの志
おの志

持竹居手を仰けて取り替る さてたを飯炊へ湯を右
 手の中蓋をかき若湯を仰ける碗に汁を汁を汁を汁を汁
 へたをた蓋をかき右の湯を仰ける碗に汁を汁を汁を汁
 をそくぬ先をたを飯炊へ湯をかき右の中蓋をかき右
 汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁
 飯のかけり湯を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁
 乃こころを湯をかき右の湯を仰ける碗に汁を汁を汁を汁
 汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁
は湯をかき右の湯を仰ける碗に汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁
汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁
汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁
汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁
 けては湯をかき右の湯を仰ける碗に汁を汁を汁を汁を汁

汁と取り合ひ湯を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁
 ありと湯をかき右の湯を仰ける碗に汁を汁を汁を汁を汁

湯をかき右の湯を仰ける碗に汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁
 を湯のかたけり湯をかき右の湯を仰ける碗に汁を汁を汁
 湯をかき右の湯を仰ける碗に汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁
 湯をかき右の湯を仰ける碗に汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁

飯の湯を汁

湯をかき右の湯を仰ける碗に汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁
 湯をかき右の湯を仰ける碗に汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁
 湯をかき右の湯を仰ける碗に汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁
 湯をかき右の湯を仰ける碗に汁を汁を汁を汁を汁を汁を汁

形初は二一は二つ度めは三番めをうひの後に
心もろくたもろく根元をうは根をよよ運入るる
す魚一

うはやれ通ひ出ては葉を根接しおたも生れ方の
着まじり生のかつれ一た子と根をよよ出らる
通ひの人うあかることたもよよろく根をよよけ
よよは葉の根のつ一日種をよよまきよよ及取よけと食
よのろく

汁の吸いやう

葉をよよらるるろく根をよよ根乃たのよよろくた子よよ持ら

中をよよの汁をよよろく一吸ひのろく葉をよよろく一葉をよよ
ひよろく根をよよろく汁をよよ吸ひ根をよよ接しよよまじり
二の汁はた子よよ葉をよよ持らるるろく は付たりと根接しよよまじり
移しよよ及けよよ根をよよろくた子よよろくよよ
うけりれ通ひ出ては葉をよよ接しよよ根接しよよろく は付たりと根接しよよまじり
根をよよろくよよ は付たりと根接しよよまじり
た子よよろく は付たりと根接しよよまじり
よよろく は付たりと根接しよよまじり
後ろく は付たりと根接しよよまじり
ろく

四つれ物なみ様

四つれものを食らふ汁より菜人は菜よりとんと二種二種

泣けてくらくあつてはまゝ飯を食ひかきつくさるゝ身は
うゝさへ何あつてもお初の本宿のらうまの物さうに
先次と名の先次はたのま先たのま先と名のまのたのま
と移り申すゝる美時はおのまを申す移免初と二様
二様はあけすり向造を移すまはらりれよとよまのま
終くよ申すまを又におのまをくまゝ移免初と二様
うゝらうまをわと移すまはらりれよとよまのま
くはらり

棍乃と申すのまおのうたあはけ棍乃の方よは
飯棍の心ゆゑおのまをくまゝ移免初と二様
物向造のおれまはまの縁をけくまゝ移免初と二様

はおの方よはらうまをくまゝ移免初と二様
たのまをくまゝ移免初と二様
物向造のおれまはまの縁をけくまゝ移免初と二様
四つたのたの縁をくまゝ移免初と二様
てはらうまをくまゝ移免初と二様
好くまゝ移免初と二様
食ふまゝ移免初と二様
若くまゝ移免初と二様
権くまゝ移免初と二様
らうまをくまゝ移免初と二様

た高きとたきに思ふはらまらう一つ 中酒の一けんは
味をぬよの酢は吸はぬとものなり
焼物は考より血をままたる福一 身をまらるる
魚一 表をぬく一は味をぬよのなり
小桶又の曲物乃まればおは若きまら一 味は味は考より
河舟たきまら考より血をぬく一 獲にも記らるる
さして若きをぬく一は味をぬく
たらを焼むとぬきむらう一は味は味は考より
ぬるぬらとは味は味をぬく一は味は味は考より

中酒のしるし

酌の人らう前より南條を産るなり 中酒のしるし
の人一これ一たきよ血をぬく一考よりまら一
はらうけのあり酒をぬくのみ一血を考ぬくおたき
月よりは考よりまら一たき然る一は味は味は考より
若き一のたき一は味は味は考より 汁の固より
はら一酒をぬく血をぬく一は味は味は考より

酒の香をぬく

重引らるといふ考より前より前の一は味は味は考より
一考よりまら一は味は味は考より 考より考より
考より考より考より考より考より考より考より考より

無の...
巻の...

たまの...
う...
あ...

吸物のすしやう

たのも...
た...
あ...

あ...
あ...
あ...

湯のまけ

あ...
あ...
あ...

菓子の子

あ...

婦の慈山の慈山 卷之三

真紙或は懐平のものを紙を穿て前より向た者より着
 せり楊枝の付葉子を穿て紙よの穿てし
 隙は右の袂にぬれり楊枝を紙よの袂に
 へり

楊枝のつひね

楊枝をつひねてまきし紐の方より楊枝をあま
 りと外の方より細き方をほりし楊枝の
 隙よりまきし紙に穿て袂には懐くものなり

茶は呑みぬ

茶をこしらへしは濃茶を白たきし服紗とせり
 衣のむらゝ元服紗は碗に熱をまきしは
 一口二口飲みし服紗をよみぬ茶碗のみを持てその
 むらゝぬるし茶碗の熱をぬるし服紗を
 ぬらぬるし
 茶をぬらぬるしは茶をぬらぬるし
 のむらゝぬるし茶碗の熱をぬるし
 茶をぬらぬるし

女の慈山

卷之三

姑の...
 卷之二

る...を...再へん...は...を引かん...
 如く

○盃事乃須事

今世より廣く行ちるる...簡易此或を此...
 進め...
 持子持子の類は物を下りし...揚は其形より...
 立出...
 盃城下に...

よ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

無
の
三

三方を以て一多前入車一前此より人持ちて去るに
まじりたるなり今一人は弱れ去るを以て其後を以て
と云ふ事なり前のより人弱れ下等の方小踏きて去るがし
退きて扱入酌を加へて去る一主盤を納めたるは前
のより持たるよりなり
まじり人よりすまじりるも若たのよりとす時は蓋此臺
より去る者をも其より去るよりとすは蓋此臺より
去るより其の前のより去るよりとすは蓋此臺より
退くより其の前のより去るよりとすは蓋此臺より
再座辭儀ありて互に承候りて其の時中央より酒

と者より居るに或つて去るよりとすは蓋此臺より
去るより其の前のより去るよりとすは蓋此臺より
退くより其の前のより去るよりとすは蓋此臺より
再座辭儀ありて互に承候りて其の時中央より酒
細しなり

此の方よりは一多或るに此一方多人数ありて去るに
酒肴を改めて蓋此臺より去るよりとすは蓋此臺より
退くより其の前のより去るよりとすは蓋此臺より
再座辭儀ありて互に承候りて其の時中央より酒
細しなり

結婚の道
三

夫婦の道は天地乃大義人倫此常道一々九重
為さしとらり支那礼古禮を納采雁を細めて采杯の礼
問名女の母比名氏を問う納吉吉下を得て之を納む納徵幣を細めて婚の證をなす清期婚姻の期日親迎親を迎へて此六を以てさうとを我國にて
重す向ハ結婚引移りうら合を此三すて古直程より
式法いれと流々の身なりとすもこれは今や之
簡便して行ひやすき趣を河けざるのありて
さし正婚姻をさすも互ふとの人揃り身体の健全と
を擇ぶるも肝要なりとすも賢多病して職業
を治むるも結婚されど家破れ婦不明羸弱よし

て家事をばはらうとすも能はれを内政諸事ハ
いれと交りうら誠勤すは漫よ字息此妍媸と家
資乃多分のを問ふは心るものいとすも一々其
行人道よりけり父母比命媒物の言を行くは虎隙
哉潰りやお窺ふるは振画あは禽獸よ等しき
仍ひて假令あやう鄭重此礼式をのりまはらうとの
面を贖ふらうと欲するをけりおと要るやと婦に
も必父母又見婦を何とすも已れは長たる人の
許可を得てしとせぬとのとて何方あても此方此
尊もと彼方乃そまら物定れ言を我のけりかす

結婚の道
三

はは縁約を頼むを法とするなりと云ふは縁約の言
葉は一偏りは信定への人拘りたりては男家も
ては女の器量を称し女家もては男の資良城称
して縁約の言の如く乃みほをいふなりて終りま
妻目を及ぶ此因となりて何れも何れも早き時
娶を言ふの年次は古来種々の説ありて早き時
の初令あり早きと遅きと何れも何れも早き時
身体の發育の充分なり思慮分別の確實なり
されは大概身体長育の一般休止のちをいふと云ふ

縁納

縁納は既に縁約の言の如く何れも何れも早き時
なり女の方へ贈物するなりて外國の如きは礼あり
ては支那の古禮を訂きて細微と云ふは即ち是なり
英國乃古は金銀貨幣を割りてその年を贈る例
ありては世々を指環を贈るなりと云ふは縁納の
おの縁約を言ふなりて我國普通の風儀は
ては女へは巾袖帯端物等を贈るなり父母はこれに
して婚綿なりと杉着を贈るなり例をいふと身
分なりと云ふは縁納の如くは縁納の如くは縁納の
兄弟姉妹に贈物するなり或は軽く杉着而已なり

結婚の儀
結婚の儀

おまをせりき前よりさしぬむとの女上格うすおまを
さすれぬれぬか様まに聞ゆるの意を考へらるる事
ありし事

結婚の儀物を受けしは女のいふこときり此れ免其
使乃帰着し時かゝるのあはれなり祝儀物を贈る事
さしぬれぬは只おまのいふことなり誰れか名宛は
さしぬるなり

結婚はまゝおれらるはとのおまを人をお遣ひ使を純
すし交るる方よりさすおま深切に待遇しその父母も
親しと對面して礼を述べるものなり身指の人よりさ

家令を遣はし交るる方よりは親と懇を極めてさ
かたのけは引出物をも遣はしぬるなり

結婚の儀

引移りた前よりさすおまは飾付帯着り古ハ
壽の旨粉の旨復り浴衣掛各々さすさ飾付け
を為しぬるなり一珠一壽れりりは上時小五重乃棚
さすぬるぬれは白綾或は白地の紋縮らぬ織一さ二重飾
蓬菜の盃折燭臺をさす魚瓶子三つ盃銀子提子
式三献七五三杯のあはれをさすおまは慢をさすおまを
ひわれとさす式の侍よりぬるのみ大納言實際より

香のよしの如く蓬菜此香を蓬菜山よのたより
 多々あり平常用ゆる此香鳥香に枝をゆき換りて造りし香より香をすき香をもと
此香は鳥香の作相 とうとうと
 作物ハ三つの山は松竹梅鶴をとりたりと魚香と鯉魚
 ハ鰻魚をとりたり古ハ魚の内ありと鯉香を貴観し鳥
 此同しと雄子を貴観すなり故に此二品をまらぬる
 とはとりぬるは世の鯛鶴をとりたりと魚香とりたり
 この二品は香をとりたりと香をとりたりと香をとりたり
 くれは間々他物とりたりと例とあり今世はとり
 くと実物に交へ用ゆるはとりたりととりたりととりたり

漆よりぬるは河を湯をこれ金とつたりととりと
 とりとりの口は紙よりとり挿し覆ふあり酒子と籠子
 は松と山たるをとり此香は鳥香の作相 とと蝶の形形蝶は雄蝶と雌蝶 紙は
 け柄を紙よりとりとり松はとりと色とりとり年をとり
 経る山たるをとりとりと雪をとりとりととりと
 とりととりととりととりととりととりととりととりと
 交書しとりととりととりととりととりととりととりと
 とりととりととりととりととりととりととりととりと
 とりととりととりととりととりととりととりととりと
 塵をとりととりととりととりととりととりととりと

女の本意
巻七

糖の旨きは程々糖よと云ふるは通乃道具
をのさう御厨子並相成はそれと云ふの世に御厨
子には書は粉料紙文箱も具柄を飾り並相は糖
乃道具を成者とするは其の飾方及び浴室柄は
とは切用らうと云ふれと云ふと器は魚古と聞
番事をするはたうゆゑは園の床は鶴錦は臺と
子を飾りたはたう又細戸の役けり其の時
衣服も成衣柄をけり糖乃園はたう
其のさ方は是者物を二つお作り領の向は
先はたうたう順次を書ねるはたうたうたう

一は朋黄 二は地紅 三は樽金 四は地白
五は地黒 六は下地 七は先母 八は帯 九は
一は移る時男の方には待受けは為らるる女
を頼み祝書体の持引を委ねるは成徳上之賜と云
上賜は是より女官此にたてあはるは
不當なれと通俗は是よりか
親戚の内を頼むは女の来たる時上之賜は
ひ誘引して是の常は問へ通一暫る時休息あり
と調此の時はおもひらうと云ふは祝の問は誘引

女の志

巻七

縁女は待上膳乃業向を侍りし間の間に出るに位
の方まで一々添えられし後いりてその下のつたに
一その後しよ出さるる儀は生一と一礼ありし時
女添えたりて席北上しける髪耳三方を取りし縁
女を免次と婿を免々と元北席より免々元北坐
に侍らるる儀は婿の肘に親居あるよしは元北
しを忌むるよしと元北を免々しと祝儀の式
を奉りしは婿の肘に侍らるるよしは元北
髪耳を進免々率は能儀凡人盃の三方をとりし
上座の中央よりきてたすか下座は二人より初献を特

出さる縁女と婿との前よりすゑ續きて二三人の
持物と二北膳との儀との位よりたすか下座は
土器を出しその左にうす居る相本的は郷子を
右次的に提子を持ち出さるる儀は下座の
見計りてたすか下座は相本的は郷子を
右の盃に三方北膳より郷子を右側の
三方をかりし儀は下座にたすか下座は
郷子を持ち出さるる縁女は前よりたすか下座
出さるる儀は下座にたすか下座は郷子を
右側のたすか下座の土器をとり残りの土器を
上座より

夫婦の祝もあつて一軒で男姑をいせあつた
いふと婦人の魚事をいふ事あり其次第は前章より
述ぶる事ありて知るべし

浦の合やうに重なる事ありて三方の婿方此女
中より一途を幸ひて配嫁の二人の婿方より
なり婿を飾りしきるる細子と提子哉とあり
提子持ちたる人の籠子をいせその口をぬぐ酒を提
子にうけし又口をぬぐて元の婿方と提子此酒を
細子より提子に提子持ちたる人より提子に提子
提子より提子に配嫁のひとありて魚此三方をいせ

乃もの祝持出さく上座より急次は初献を出し下
座の志をいせ一後布酌次酌のいせ魚を提子より
いせ提子よりいせ魚此三方を元の婿方にいせ下
座の志をいせ一又提子より初献を出し又二献を出
し魚を提子より始て提子よりいせ三方を元此女より
いせ志を提子よりいせ二献を出し又三献を出し
て初献は此如くなり一志を提子よりいせ初献は結酌
をいせ一乃のいせ尤加のいせなり一提子より魚
志の物より下座此志をいせと順次よりいせなり
又初献よりいせ二献よりいせをいせ替りて出

あつとあるなり

通書此とまは初載すい初と

わ角上の鮑を

初とま出—二めん雜者餅三めん吸物 鮭汁此書

進むるまか男まはた鮭を進め女まはたひれを ま出—ま角

か—ま重とすの時まはま心此物 何まもま書ま

精進物有る魚を—或はたを魚とすこれま二つ俵—又は

ま鱈鮓まま免松まあするあなを錢ちり—まままあり何

まま—初めん—は引きた—まま—二載ま雜

中央上の鮑まの向此のまはめん鮑たの方まは果ま ま出—

煮 蒸方まも二つま昆布 牛房大根菜串海胤串鮑の—の類ま四種又

何のまま餅ま二きれとくりと上のま鮑まのままをま何れま
ままま例ままま向まは魚ま此書まままま
ま大根の串海胤ま免鮓まの類まを今まはまのま
ま角ま免ま五色の物ま振つて ま出—まめんま吸物
まはひれまのま丸煮まは鮓又ま鮓此類ま丸煮まするなりま
まままま向のま此方ま粒のまたのまにま干しままま

すいの—昆布とくりと—三載ま雜者鮓のまのま
又の黒大豆と—雜者まは餅の上のま五子芥花切を
代るまのま四此類ま用の雜者吸物に根ま

より以上の所を三献此次第の常式の時きまらぬ物を出し
次に河つ物次ききしをき出し或は難煮吸物河つもの
と申すものもあはれはと申す

うち河は好

ひま移りの三日め此物まはは聖朝婿より舅姑の方へ
舅姑を婿此かへ互に餅を移着まをてく始るなり出
ま錢お合を乃餅 お合を此餅とは引移りの名嫁此門は合付門の
取服まで年暮のちのま物のまの餅をつまは後の方
此とちを一のうけし解きつき河つ其夜の難煮なりその餅を始り
は名ありとつひまの難煮河つは餅を合すなり名をうるとなり
まは愛敬此とちとちをわじりてまをら五百八十の三
百六十の百年の百二十四を半ハといひのよとて卵形

なりその餅を常作よりいられを法の子餅 法卵形のもの
ちりりともま
りとは字をとりまよと
うけし祝ひたるとなりと稱へ着る十二種十種八種
六種をとり多くと十二種十種八種六種を
添く餅よりいられを合付はる法まをら
はるよりいられは白此とち又は赤飯の酒着を添
餅をまをらと申す

○ 雜部

應接の事

人と應接まをらは何もよとら辭讓此まをら
す自おを遊り讓り河つ人を先たつるやうにす

を肝要とすきりらるる好く辞義一譲りあひてその
程或過らるるを起さずて敬をこころあはせしむるに
是はより二三度と越ゆるに
目上此人を信するは乃て直出せし産浦へ誘引す
らるり同輩ならは次の言をまゝ出迎せらるるに
しるしめれし心づらる

貴人へもの成りあは倒上る進みも多し美述のし一節の
の趣つけしを紛乱するもあつたものなれば第一條の
言と二三條は之の言を改むる次より一又二
三條と云ふ迄ををゆきとて次に務むるに一 時此情

況と事は緩急より至期的ありて

人と語するは彼方の一率らるるに際出するに
よく同率するは及ぶるよの由なりしと自らよ
王年老のちか人共あつたを殊多との言はしり語
らるるを同ら成定とて一物知のる業と
いひ物なはまのぬ振回らる又もまの言を述あま
は同人の何のぬやう言を用かへて一又對話平亦
よも自つひはぬはとらるるにまの言なりしむ
ア
人あつて身後には失敬なり若他人と云ふ由

しむるは女席をとりて又人の性を見たり
難読なり一抄の物なりは言ふても人假令
きりしきりありききりきりきりきりきり
きりきりきりきりきりきりきりきり
きりきりきりきりきりきりきりきり

貴人此言を聞きて一語を言ふて言はれ
んとするものなりきりきりきりきりきり
偏よきりきりきりきりきりきりきり
何れもいふ人此言をきりきりきりきり
善悪をきりきりきりきりきりきりきり
きりきりきりきりきりきりきりきり

と何れ

男子たものを陳つて一と要事なりは能く及ぼる
一側の人をきりきりきりきりきりきり
後をきりきりきりきりきりきりきり
盲人の接する時は何れも一と必知なる信ふべき事
のきりきりきりきりきりきりきりきり
はそのものをきりきりきりきりきりきり
用事なりきりきりきりきりきりきりきり
きりきりきりきりきりきりきりきり
きりきりきりきりきりきりきりきり

麴類の事

麴類をまわすときは二人より一人は握りまわす
 ときは家の向此の形よりまわす一切粉相いんの皮をその
 粉をよろ粉 山耕肉桂胡椒からいをすまわす持出して
 家の内まわす居るのまわす今一人はその後を臺
 よりまわすもまわすはまわすを家敷人よりは次
 の粉よりまわすは前のまわす持出すよまわすのか
 筋よりまわすともまわすは彼方此粉を解か
 此方此臺よりまわすの偶よりまわすは方の粉を彼方の臺より
 まわすよまわすは方此粉をまわすまわすまわすまわすまわす

まわすは後よりまわす一人一人のまわす時は先づ麴
 をまわすつてまわすは後をまわすつてまわすのまわす
 とまわすまわす一人のまわすまわすまわすまわすまわす
 まわすまわす握り細く出づ結口をまわすまわすは
 粉物を紙よりまわすまわすの臺よりまわすまわすまわす
 茶の湯の儀の時は粉を箆まわすまわす家の向此の形より
 まわすまわすまわすまわすまわす握り右に粉と粉物をまわす
 て前のまわすまわすまわすまわす又家のまわすまわすまわすの
 まわす握り向の左より粉物と粉物と紙よりまわすまわす
 家の内まわすまわす後前此位よりまわすまわすまわすまわす

をたするるるるるるるる

やう者式三みんのり

ゆらり料理よゆらりるるる者式三みんの類之祝礼
たえ耐年回礼のるる語とらあて出さるるのりは
らほらるるるる

進物よりの鮑を添ふる事

多物よ耐年鮑をるるるは古にるる後世にたすは
きりきりてあきまをるるるるるたれまの鮑はか
らまてまの体まるるるるるるるるるるるるるる
もらるる今は凶事よゆらるるるるるるるるるるるるる

はぬこれま添へるるるるる五種とあててその内氣形
類のゆらりまもあててるるるるるるるるるるるるる
ひるるるるる

席のしんをたす

坐蒲の上まよ席をるるるるるは上まはるる是利
このるる武家まきく佛よ帰依まきりるる出立此れ信
武家まきりるるるるるるるる席も佛家の佛繪まきり
けるる是まきりるるるるるるるるるるるるるるる

香爐まのるるるは神二つを向まきりるるるるるるる
ぬるる香爐まのるるる五寸斗も隔つるるるるるるるる

す急折ると知れ 堅き魚との間を三寸許と薄く
り 併らふの廣狭とあれは一概にあらざる
香魁のそひは程々大然く先居のそひを押し其
上を多る者よりおし 若くは自ら折るなりとのそひ
多る魁形よりなりて異なり 遠くあるは折る所の
骨を折りてそのそひ 或はその骨より折るなり九ツ
と折らば折るなりなり 或は折るなりなり
五つなりなりなりなりなり 四角なりなりは四つなりなり
の稍細長きは五つなりなり 八角なりなりはその角に数
なりなりなりなりなり 一方より折るなりなりなりなりなり

香魁のうを多る物をのう魚よまると知れ 魚のため
のそひより魁形のやちよ香魁との美なりなり 是は常
のそひよりなりなりなりなりなり 魚此向のやちよ香
魁を折らばなりなりなりなりなり 是は折らば
よ折るなりなりなりなりなり 若くは包を香魁
なりなりなりなりなり 是は折らばなりなりなりなりなり
乃ち折るなりなりなりなりなり 是は折らばなりなりなりなりなり
多るそひのそひを折るなりなりなりなりなり
花魁のそひは折るなりなりなりなりなり 七八寸と隔て中央より
なりなりなりなりなり 花魁のそひは折るなりなりなりなりなり
一折るは限るなりなりなりなりなり

料紙硯箱をむくは右の硯箱料紙より一或は
料紙を硯箱の下よかへし又文書ありはその下
又の上料紙を蓋紙とのししは付あをむく
草紙なると字紙を奥ののししは標題をうま
きしは上付れ方よりなり

書物此事

書物をむくは右の標題をうまむくは
開きては始を七行をうまむくは
もみは終を三行半も見奥書をうまむくは
と念をうまむくは見及序ありはそれなむくは

何れを初巻より順次より一若くは
右より上巻を下巻とは年長と人
自か中のなむくは巻頭巻軸と初巻を
より末巻中より中巻を下巻とむくは
右より一の巻より初巻は條より細と
初の上の順より他より人ありは
右より初巻より末巻より初巻より
右より初巻より末巻より初巻より
右より初巻より末巻より初巻より

色紙と多たきくもるまうは色紙短冊と順にまうた出し
あきしき上たきくもるまうは色紙短冊と順にまうた出し
短冊は右端より色紙の左端にありしきまうた出し
あきしき上たきくもるまうは色紙短冊と順にまうた出し

花物乃と

くまのあ物まをまうた出しは花のまうた出し
方此正各紙見ま位ののまうた出し
あきしき上たきくもるまうは色紙短冊と順にまうた出し
あきしき上たきくもるまうは色紙短冊と順にまうた出し

まうた出しは花のまうた出しは花のまうた出し
三幅の時は空位ま位中央ま位ま位ま位ま位ま位
あきしき上たきくもるまうは色紙短冊と順にまうた出し
あきしき上たきくもるまうは色紙短冊と順にまうた出し
あきしき上たきくもるまうは色紙短冊と順にまうた出し

瓶花此事

瓶花をまうた出しは花のまうた出し
あきしき上たきくもるまうは色紙短冊と順にまうた出し
あきしき上たきくもるまうは色紙短冊と順にまうた出し

女
の
志
の
け
巻
此
二
尾

女
の
志
の
け
巻
此
二
尾

女
性
志
の
け
巻
乃
二
附
圖

二
汁
五
菜
膳
持
ま
意
様

本
膳

興

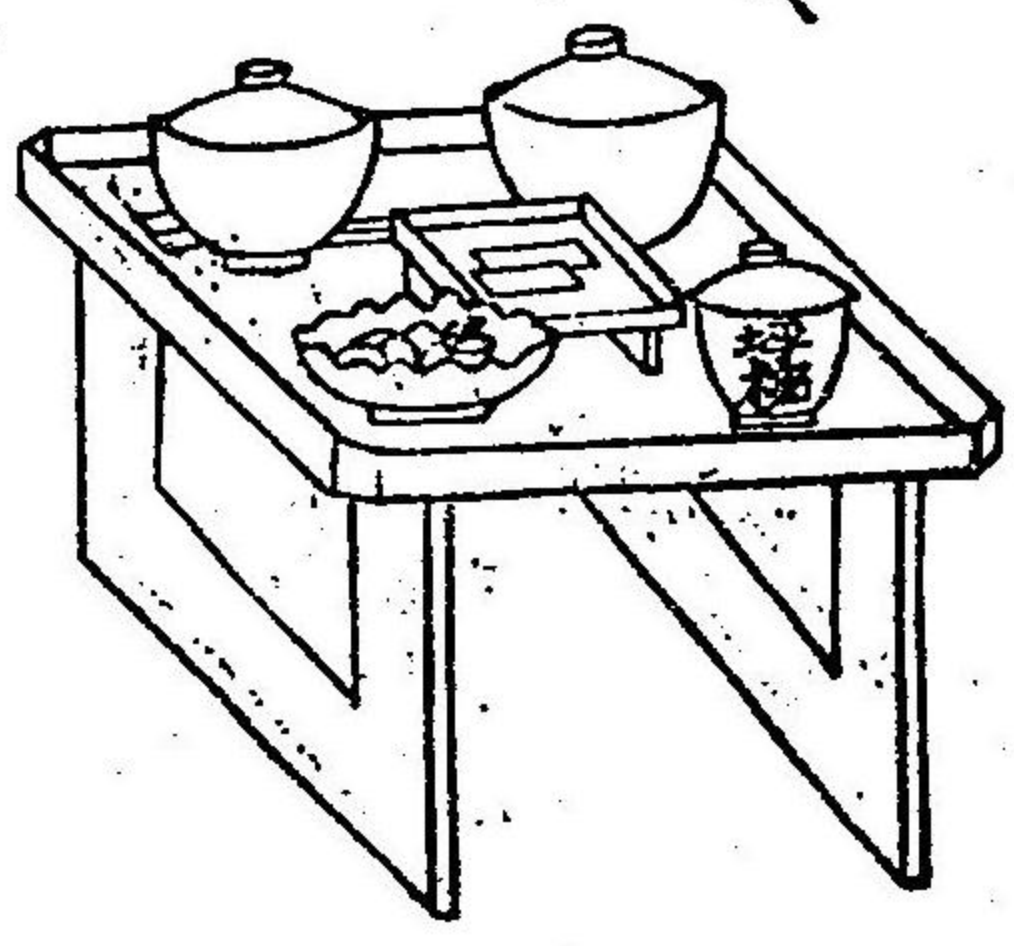
二
膳

向
詰



二
汁
五
菜
膳
内
の
香
の
物
を
い
き
ま
る
時
の
本
膳
を
如
此
ま
さ
る

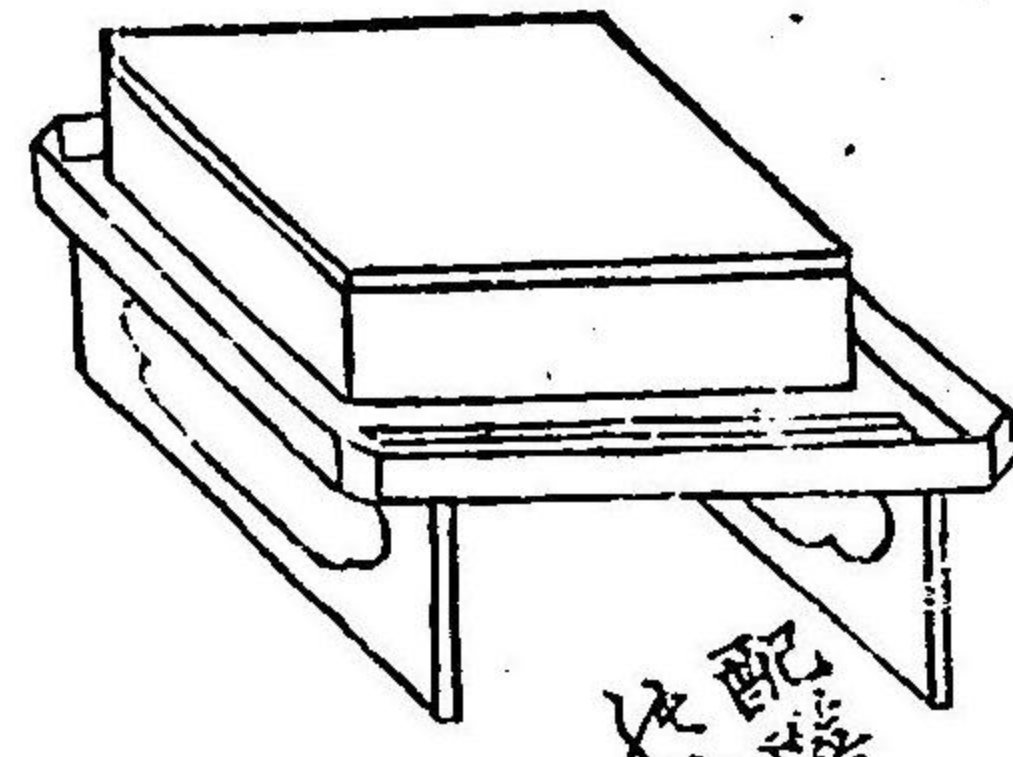
煮
物
の
平
椀
小
も
ま
さ
る



女
の
志
の
け
巻
乃
二
附
圖

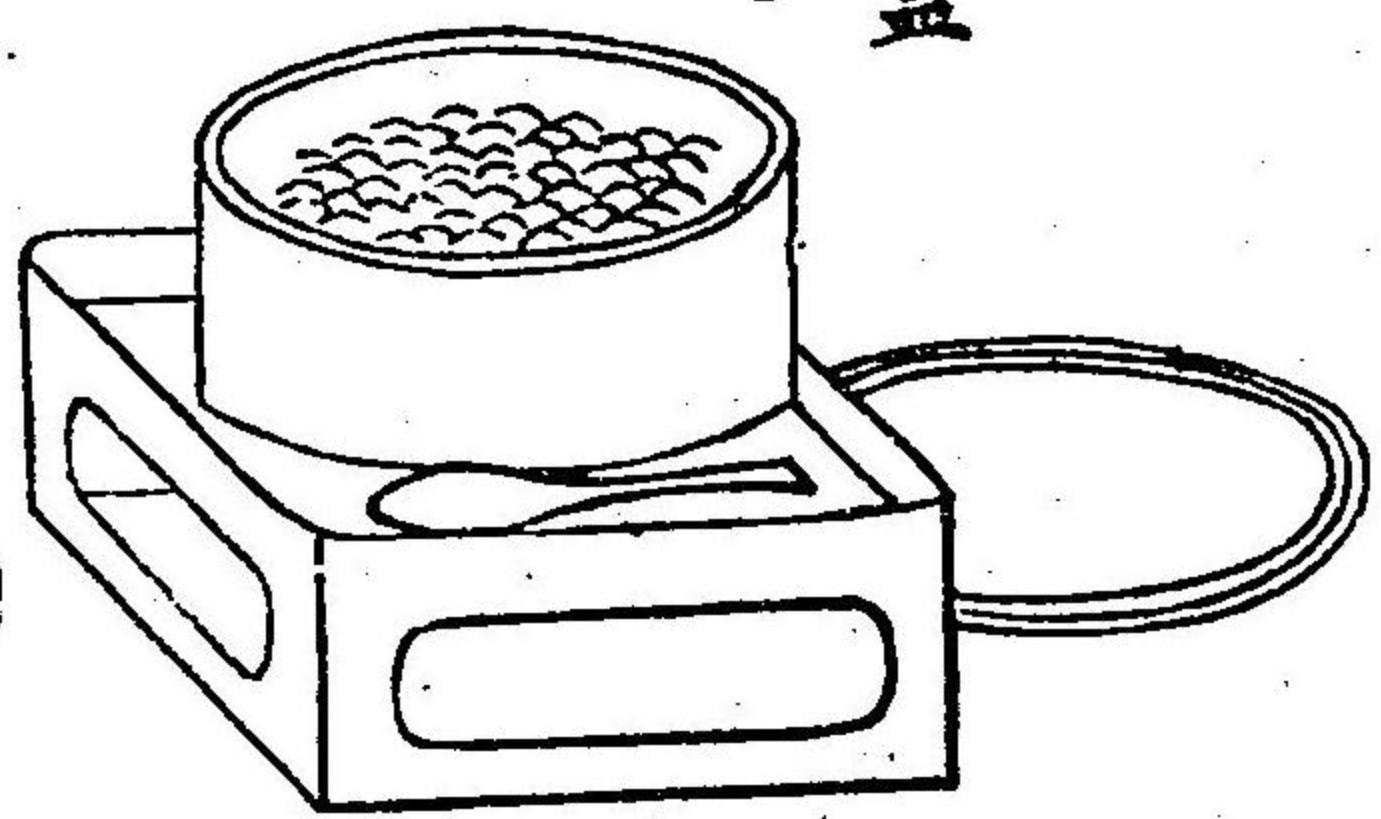
女物志門寸
卷七三附圖

重引此
之様

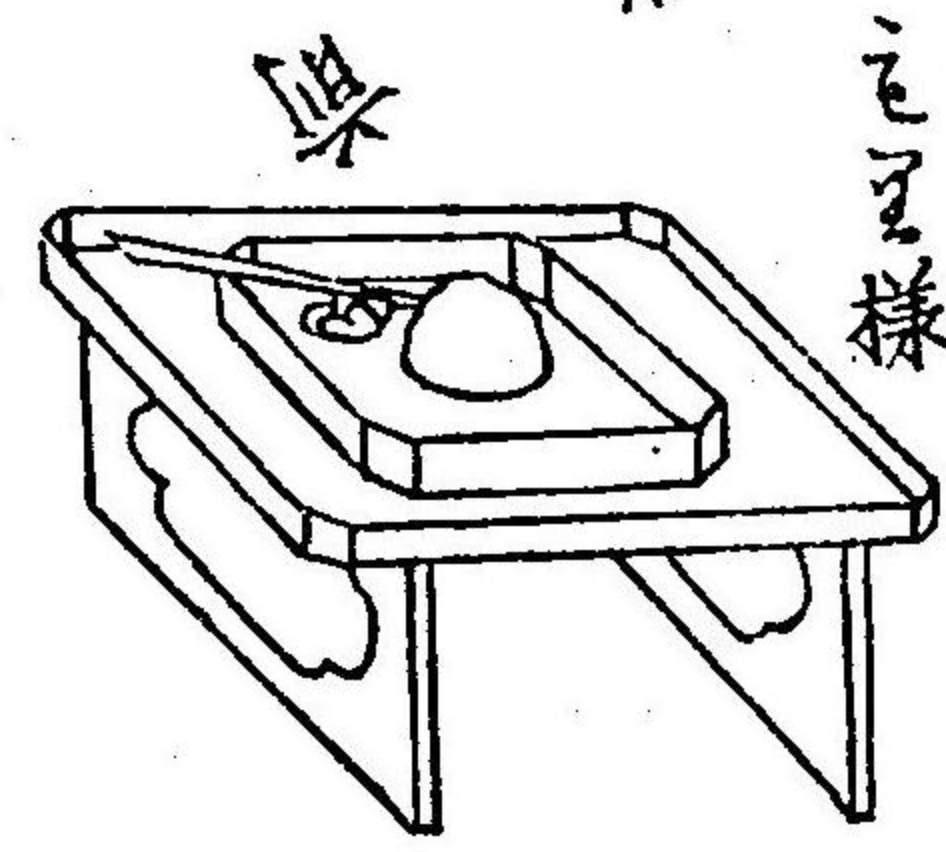


配膳
此者

飯鉢此蓋
を多し
所

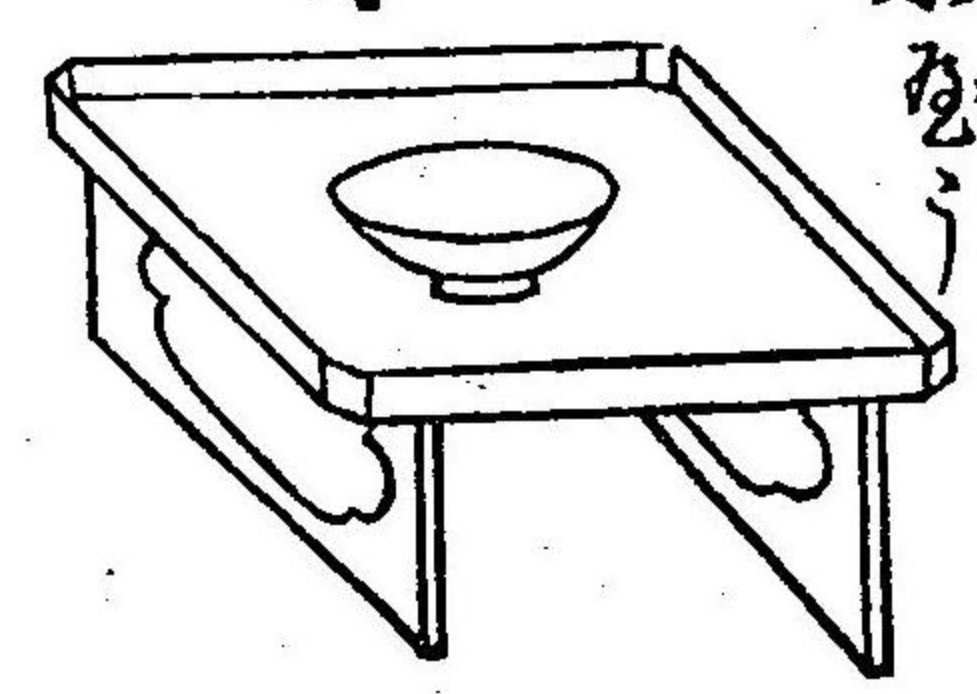


配膳
此者



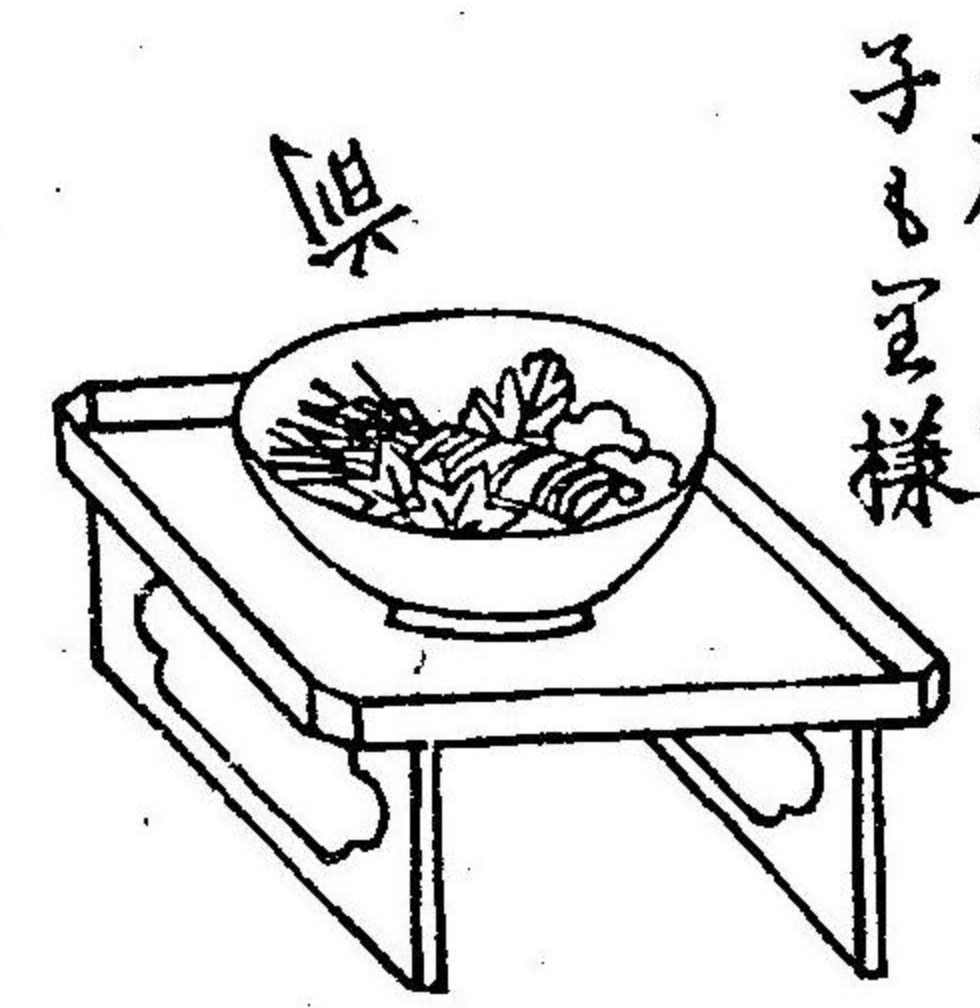
此

最初此菓子
之様



下

盃此
之様

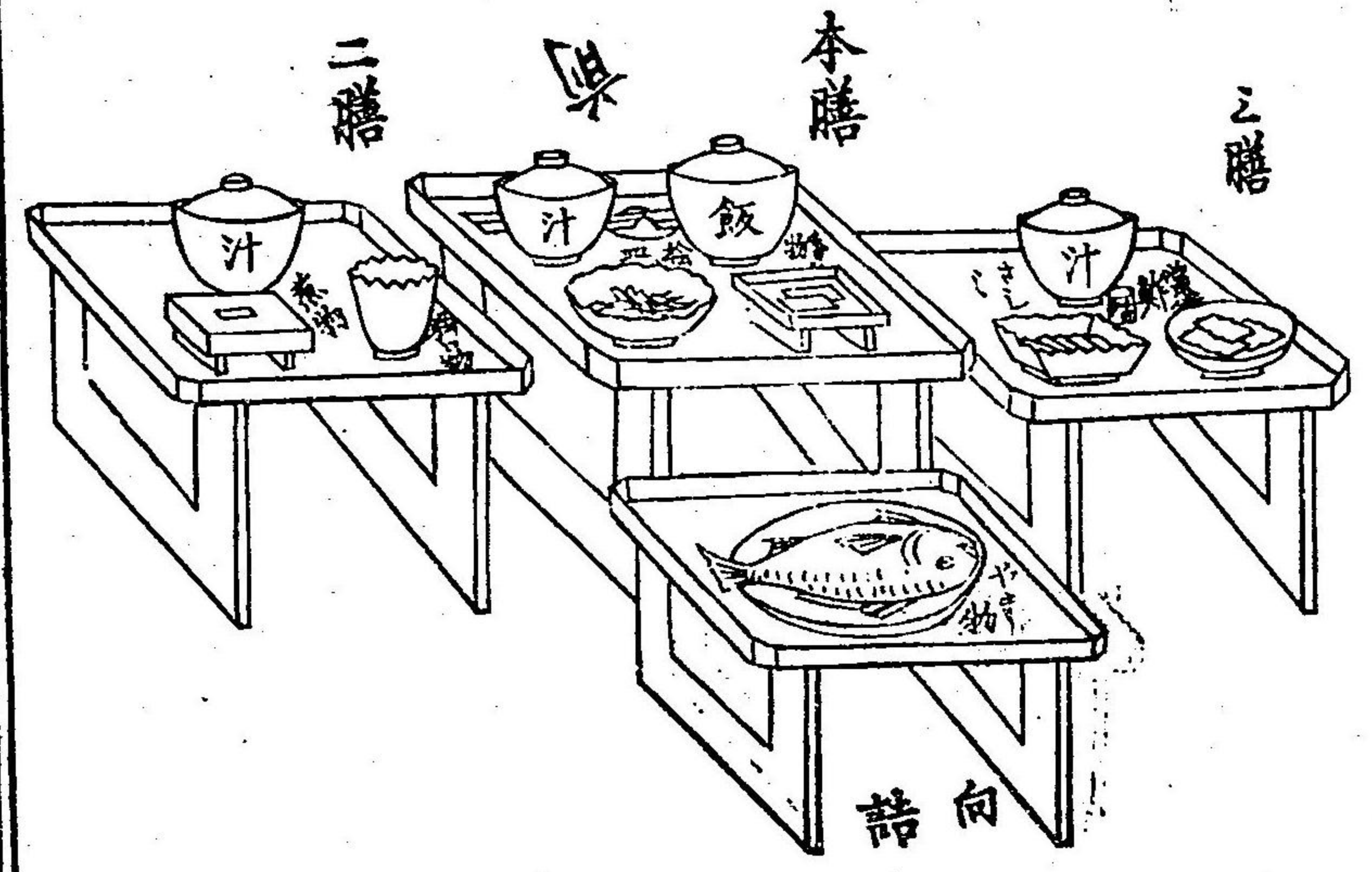


此

二度目此菓子
之様

二

三汁七菜
膳此
之様



二膳

此

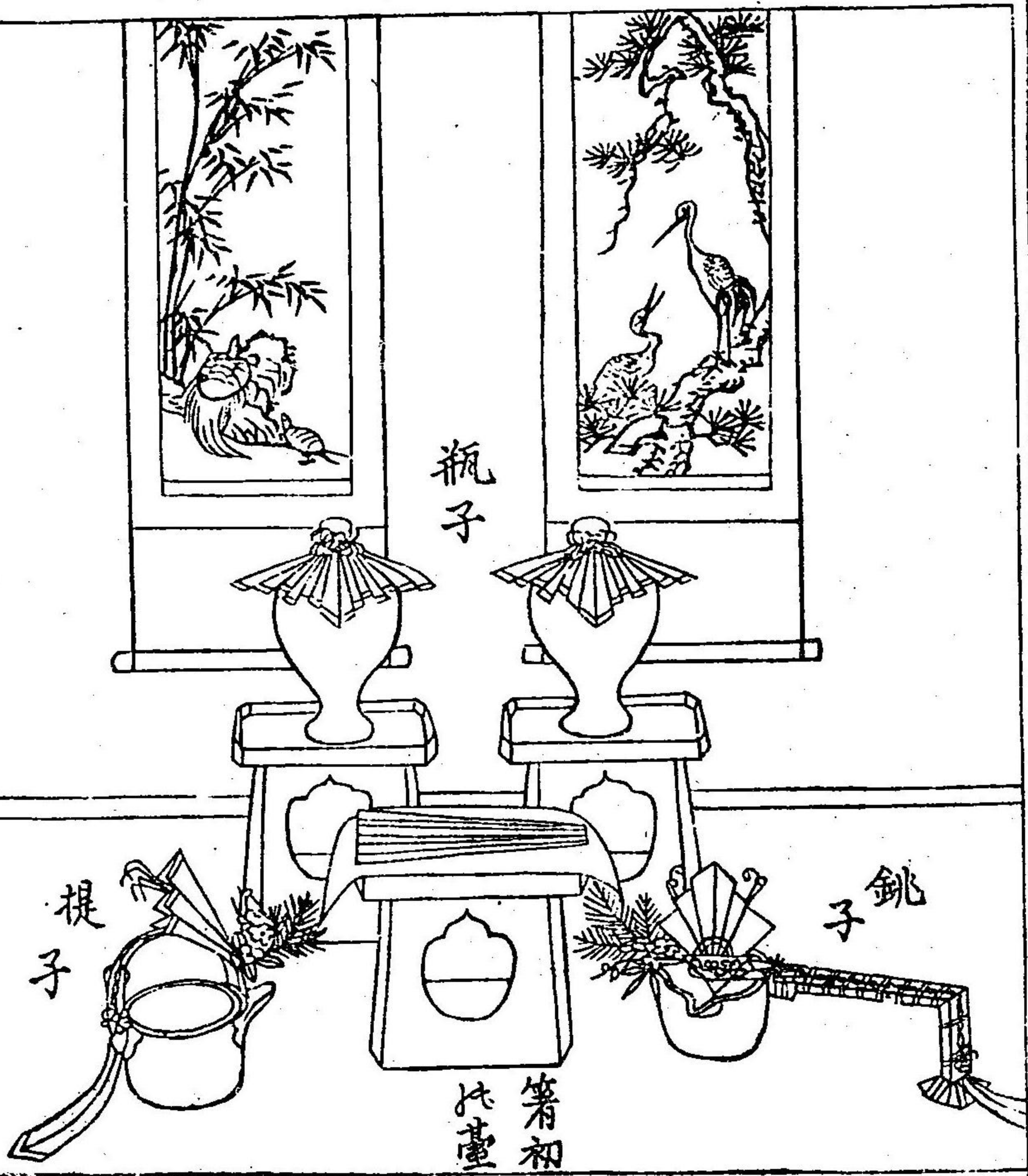
本膳

三膳

向膳

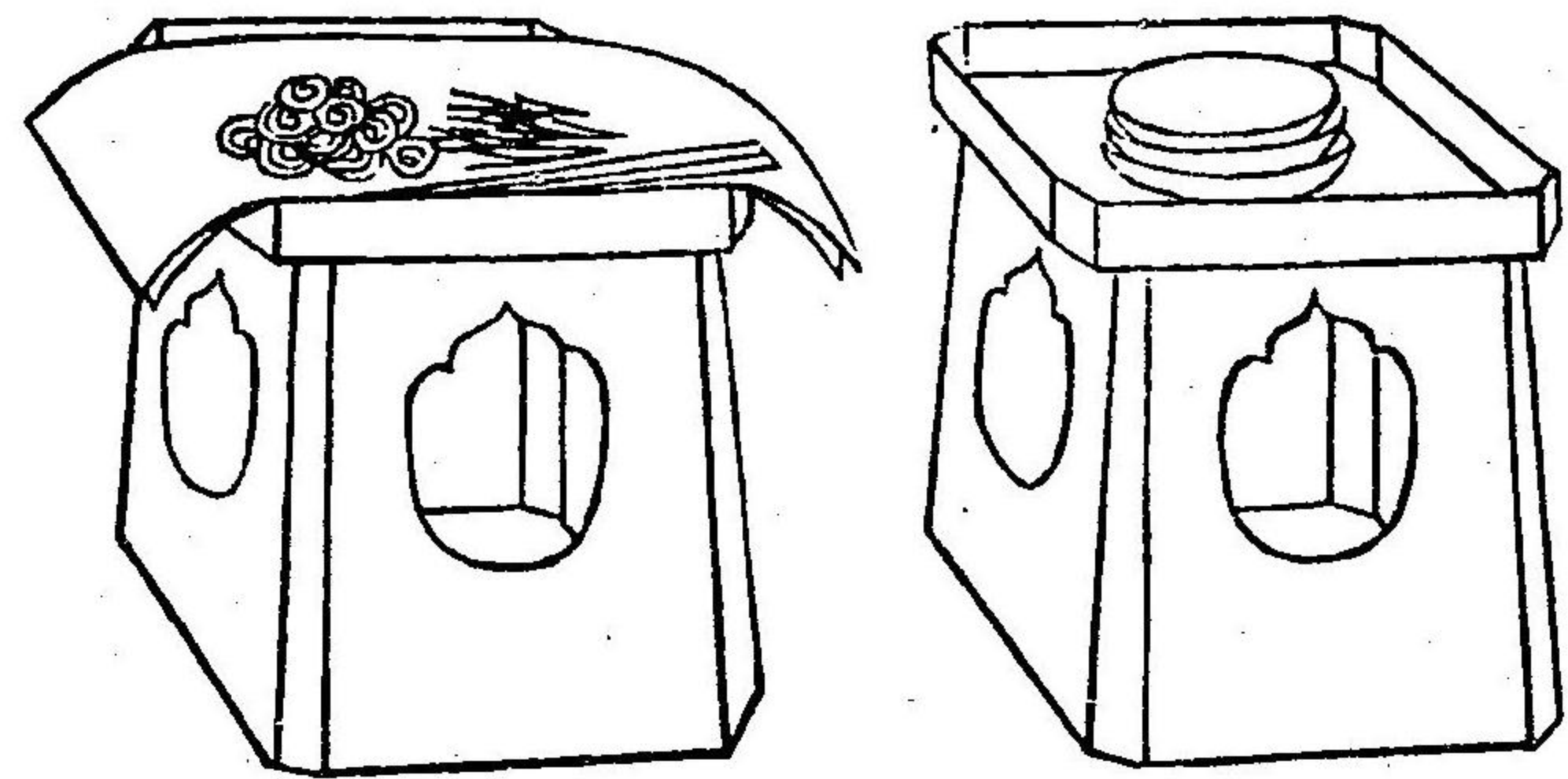
生
物
志
門
寸
卷
七
三
附
圖

婚 禮 此 床 飾

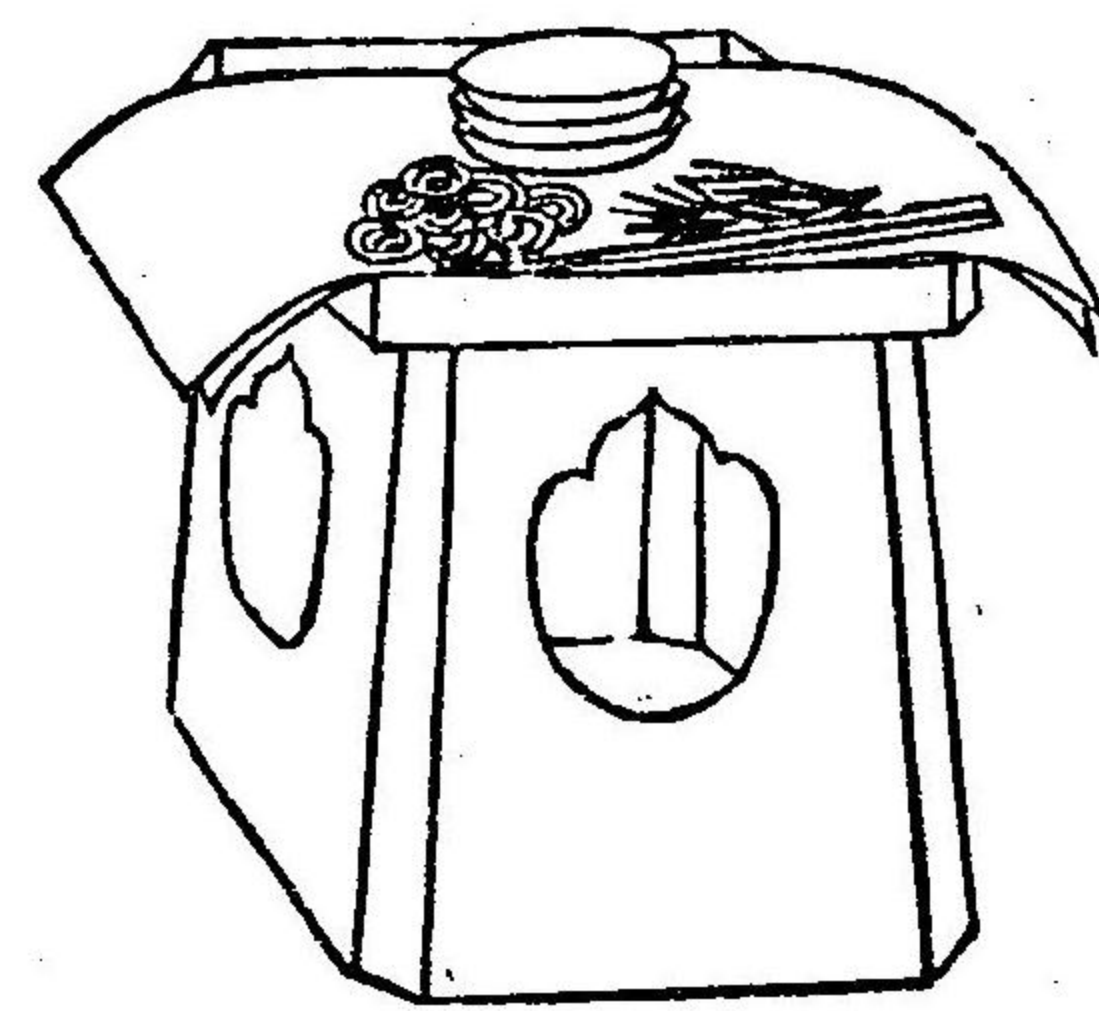


と置有
乃モリ
様

盃
之方



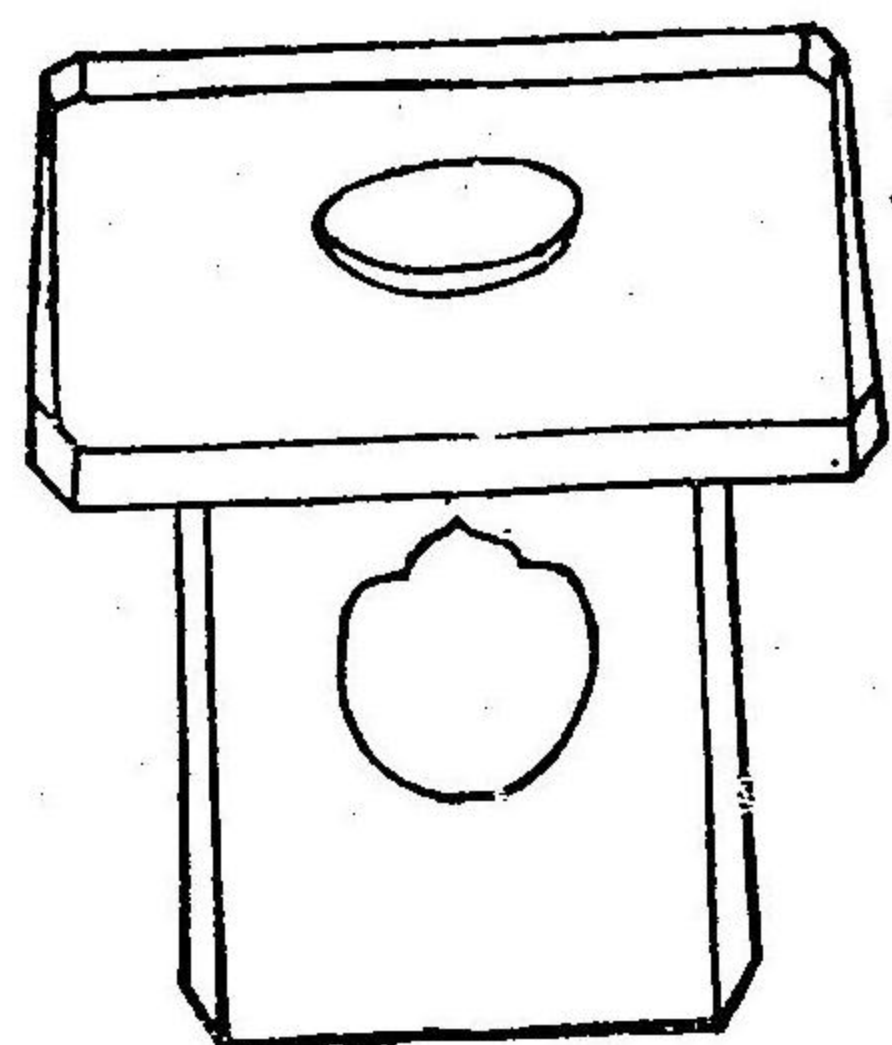
盃と取有と
合さし
置様



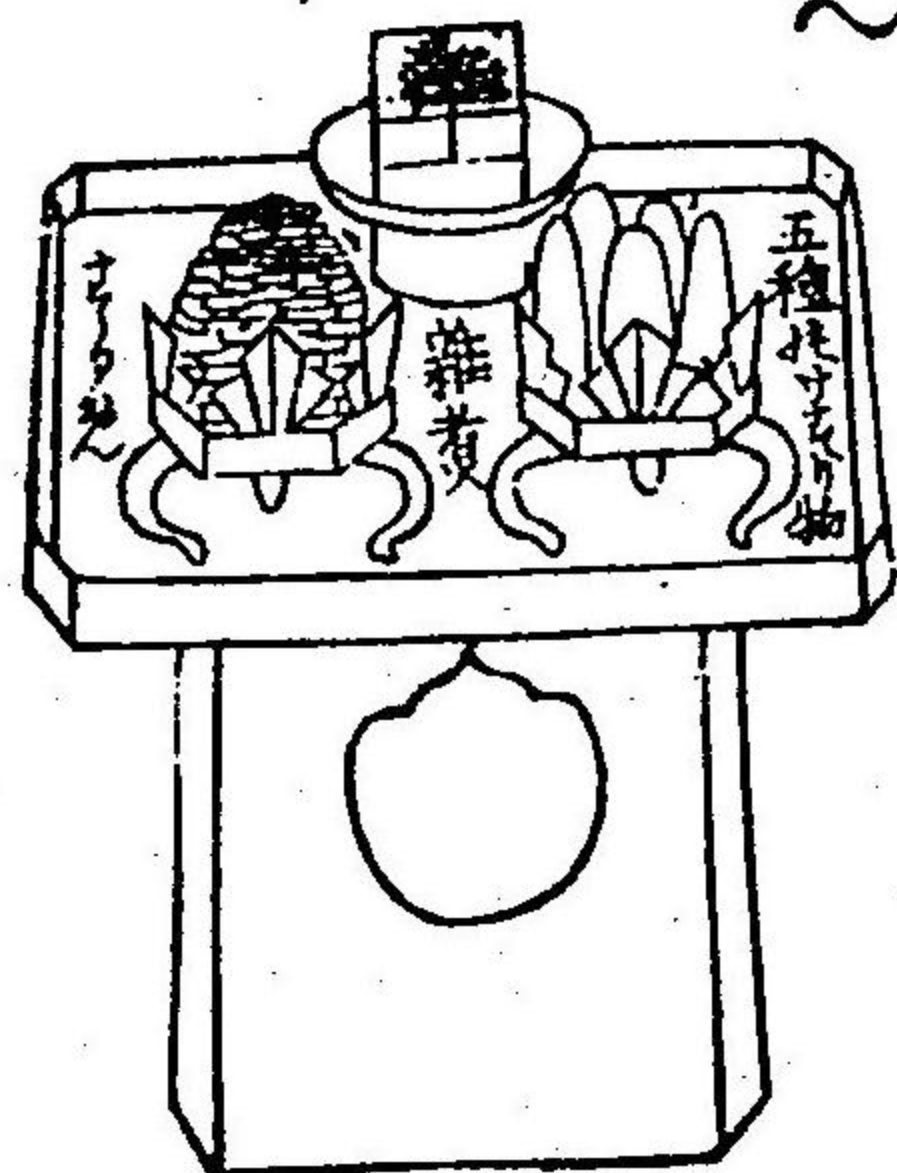
婚 禮 此 床 飾

大 門 外 三

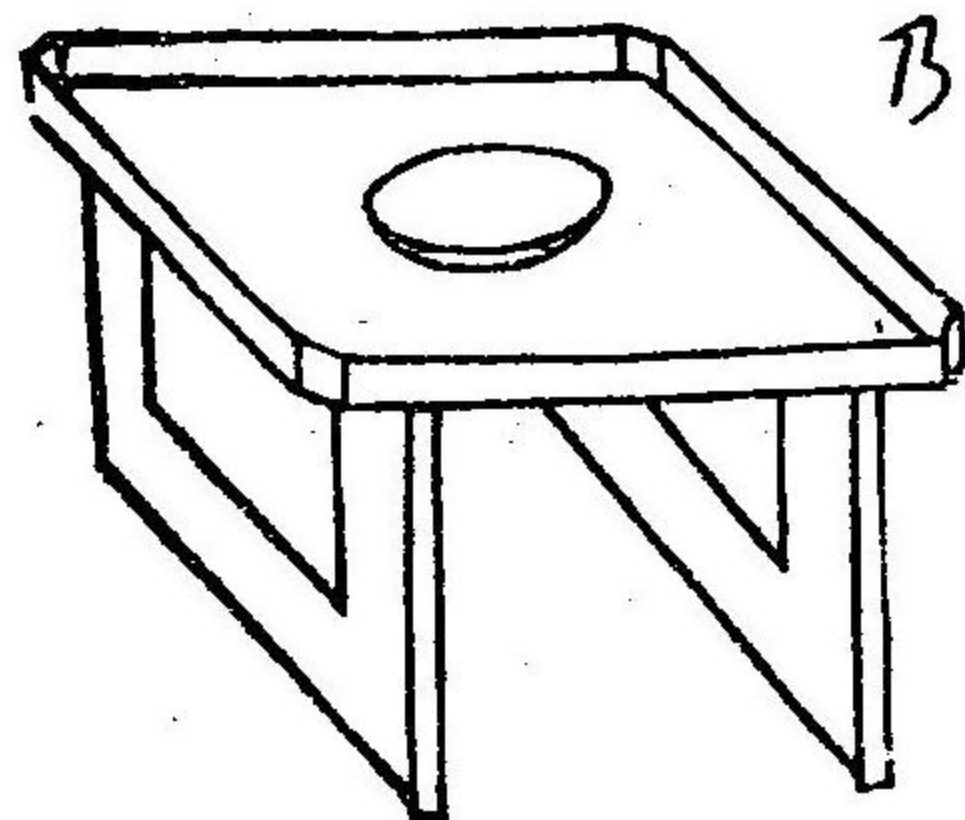
下捨乃土器
二之
三之
最略し多の
之獻
三之



下捨乃土器



二之



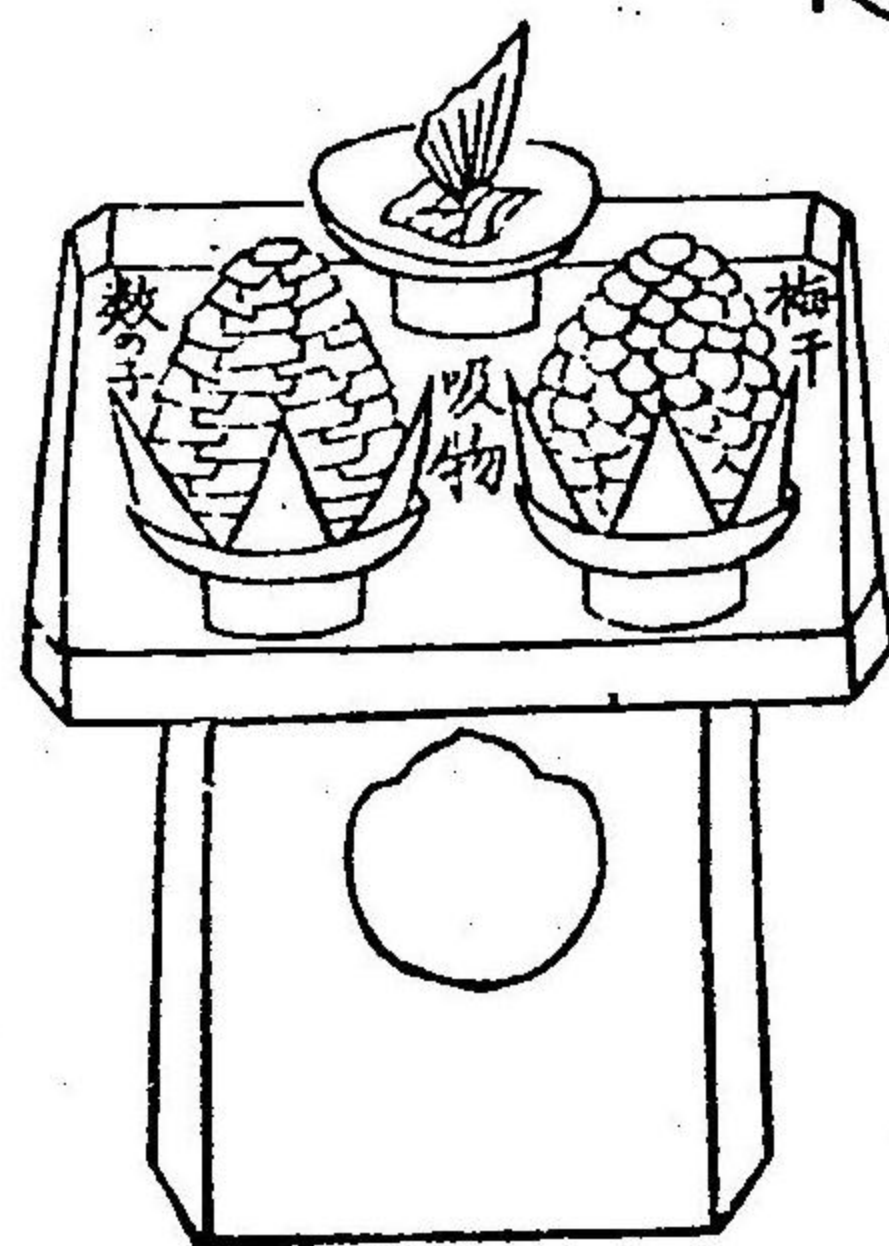
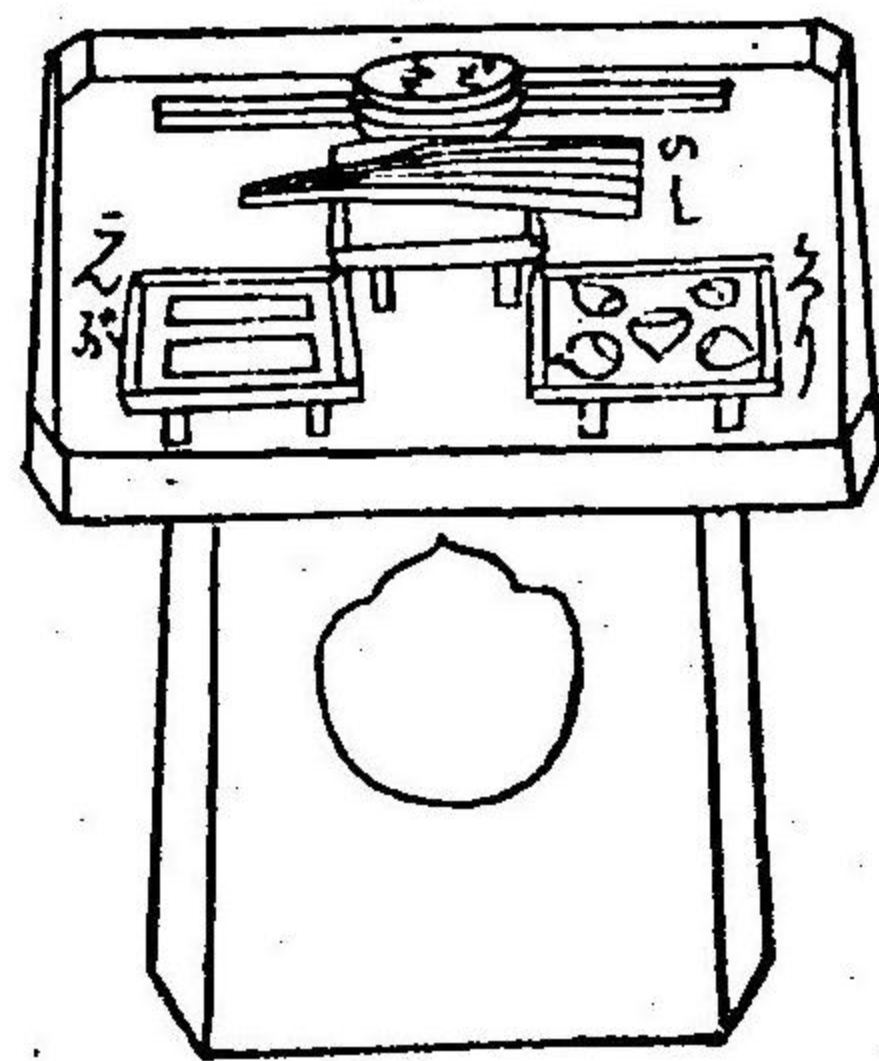
下捨乃
土器

引渡し三獻多急様

三之

具

初之

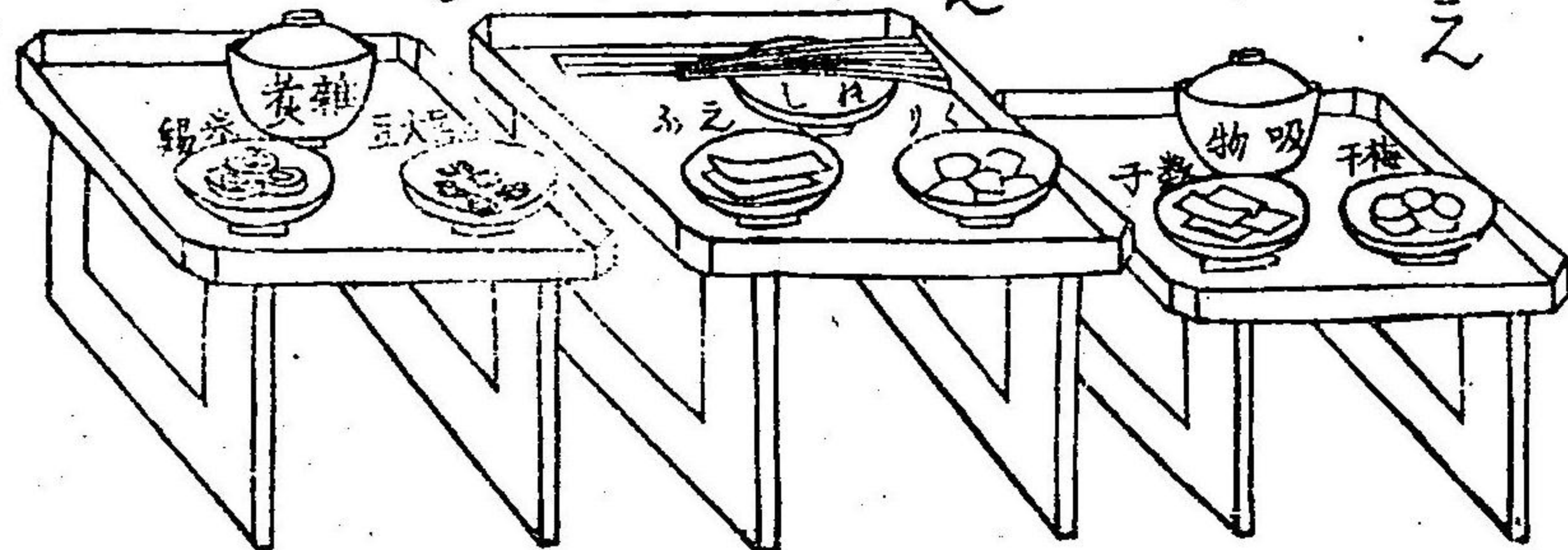


最略し多の
之獻
三之

二之

具

初之



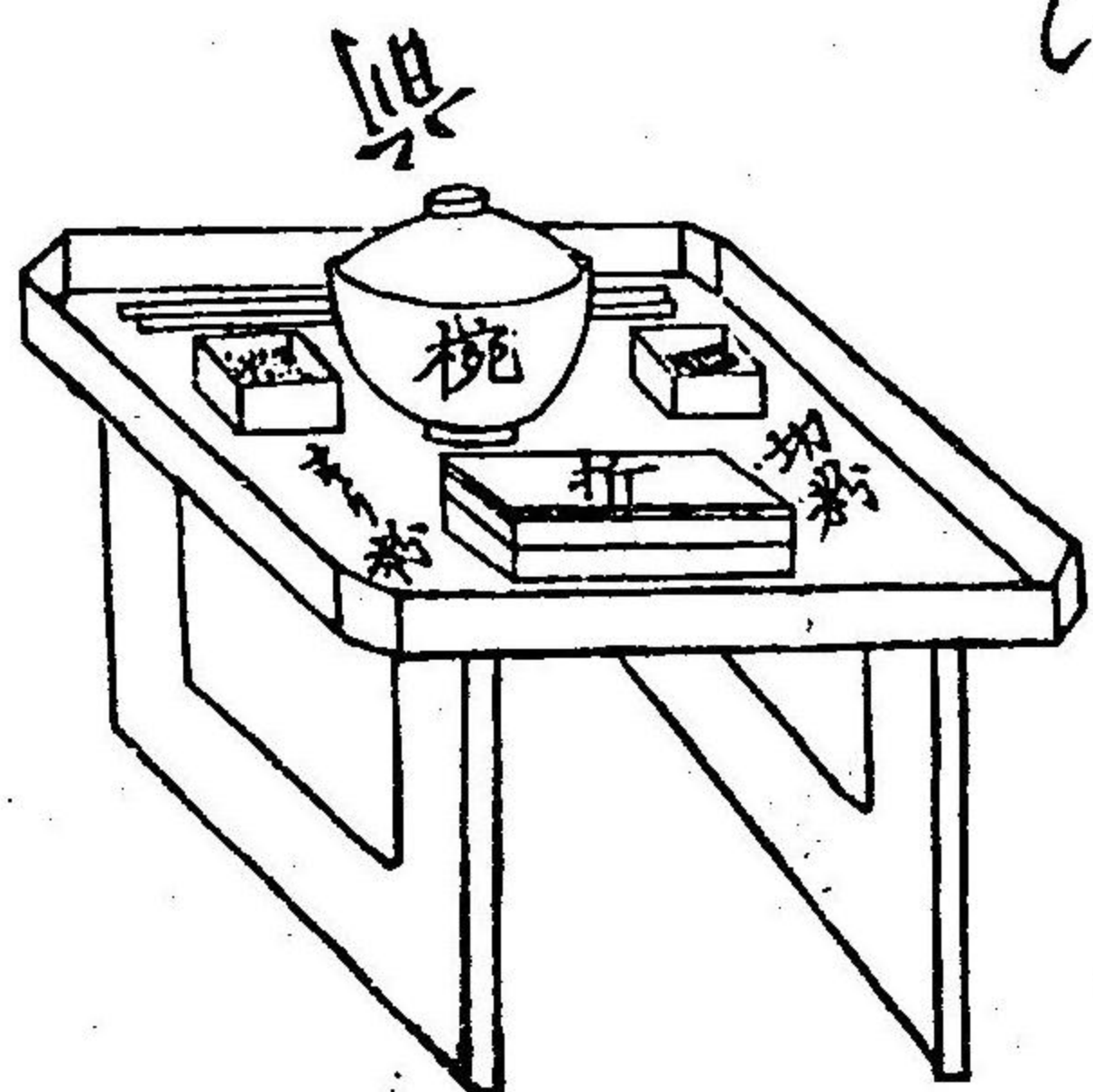
引渡し三獻多急様
最略し多の
之獻
三之

麴類居点やう

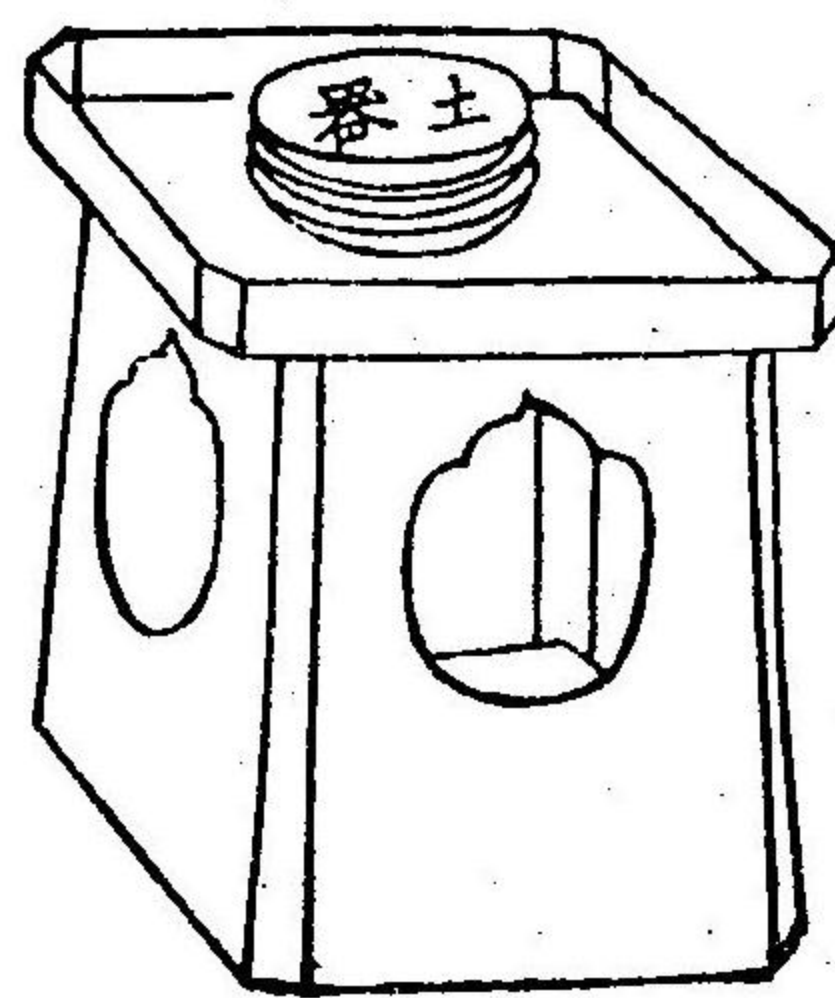
椀を茶を



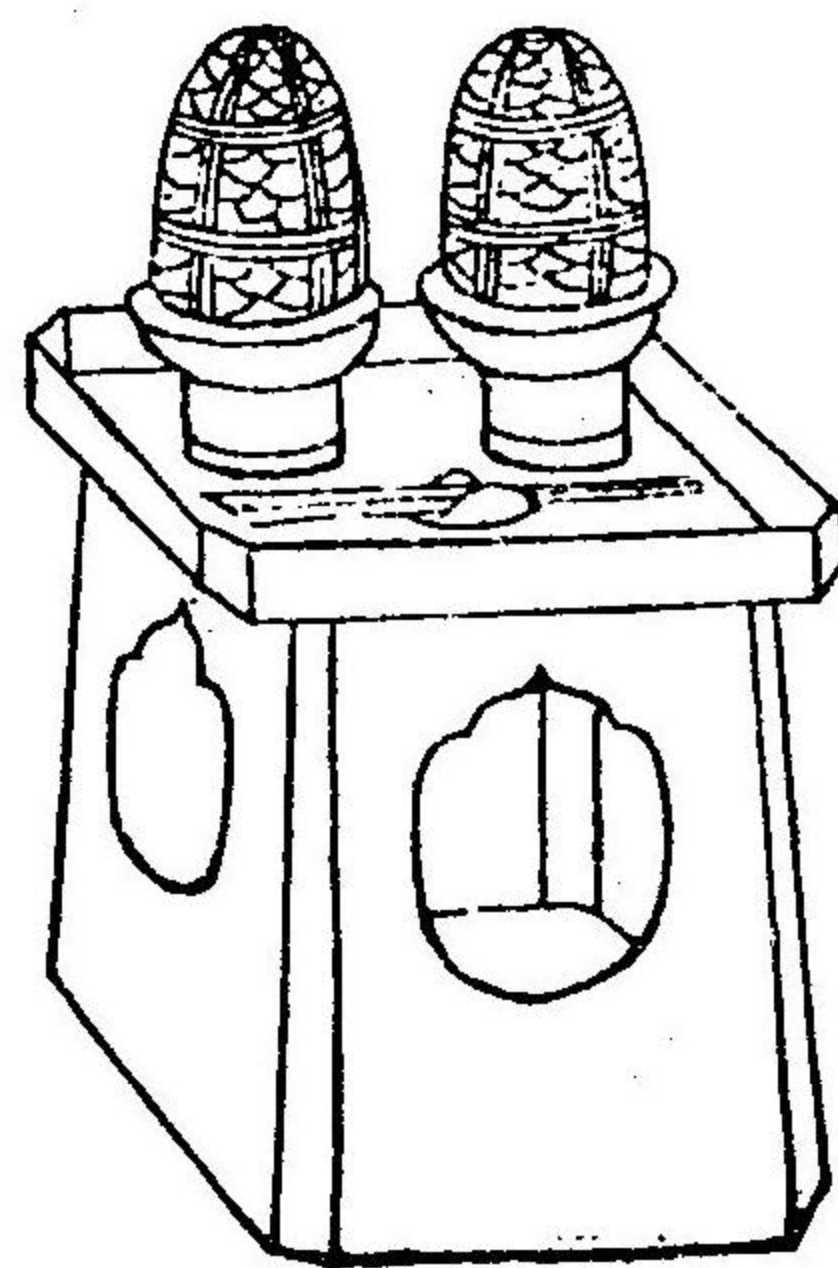
折を茶を



三盃す
点様



土器此物
き急様



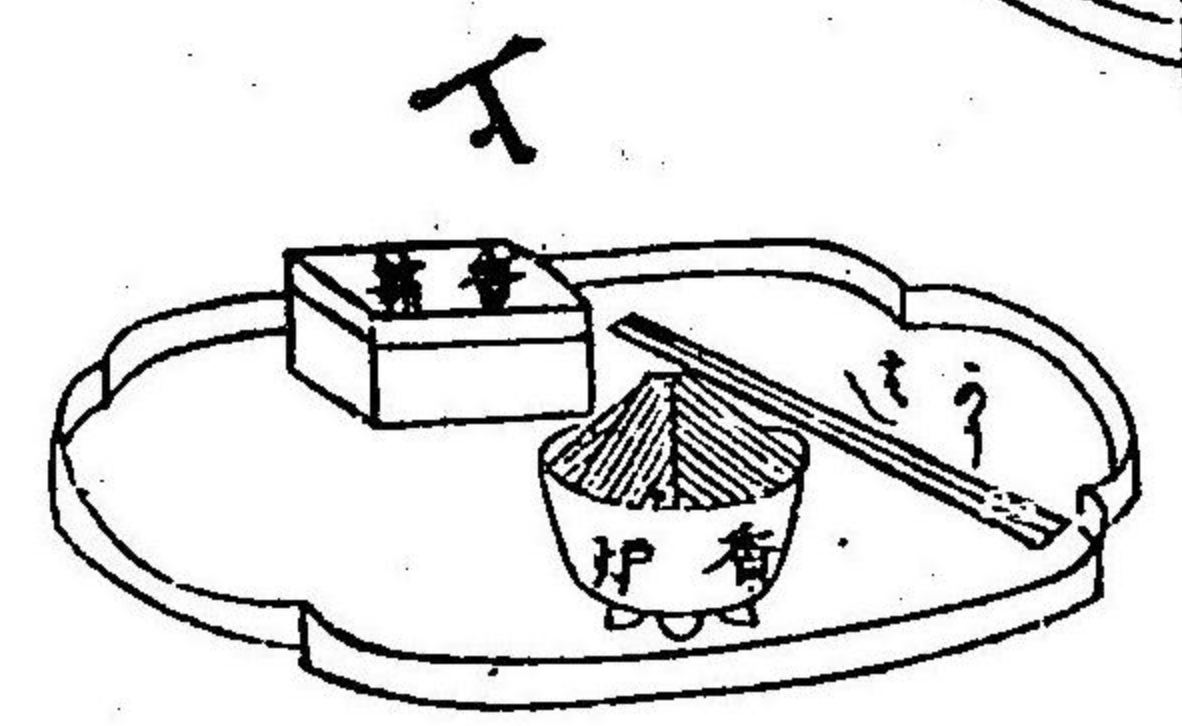
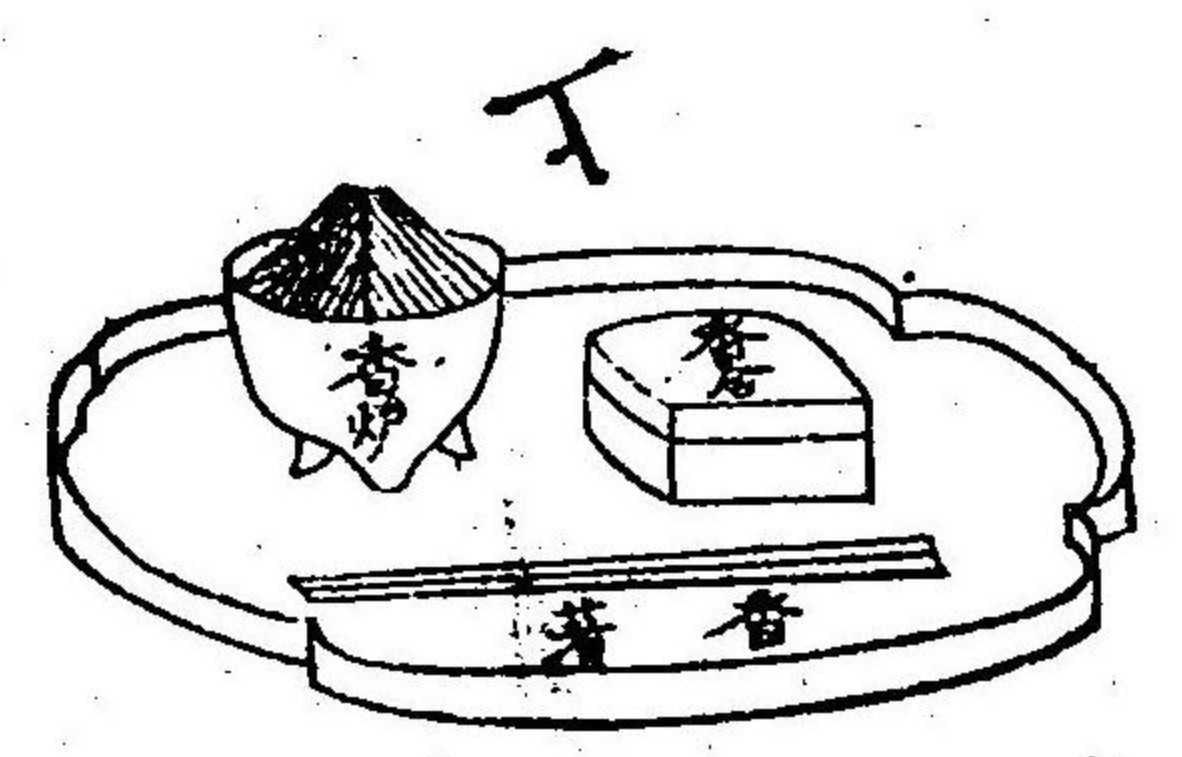
丸の茶のりす

巻七の付圖

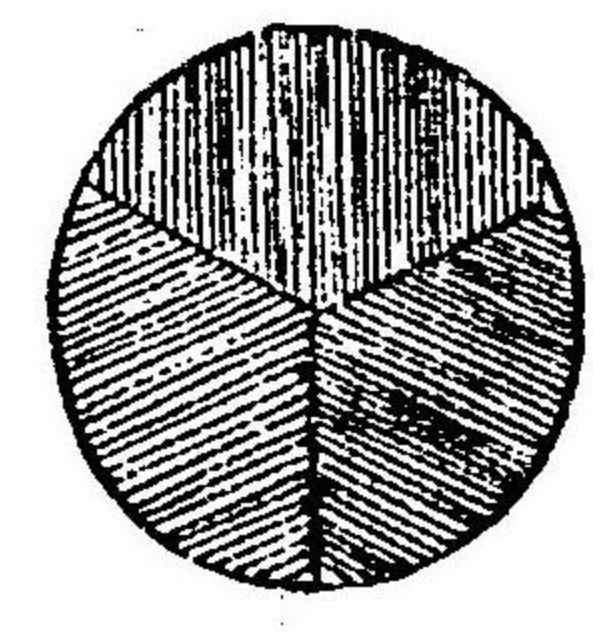
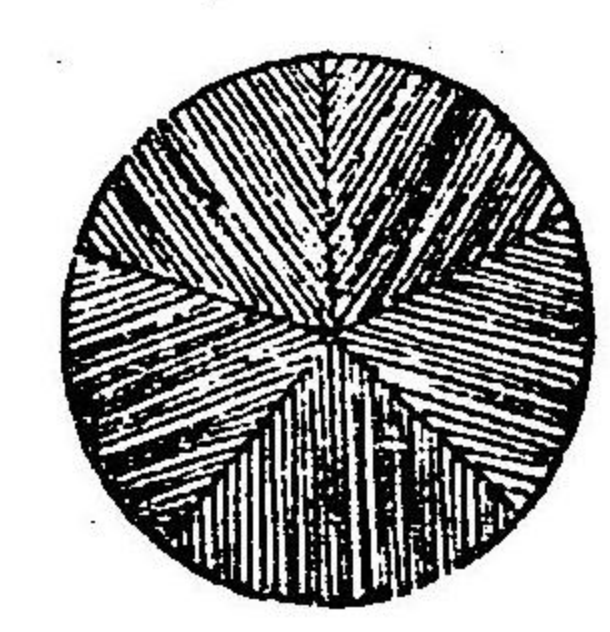
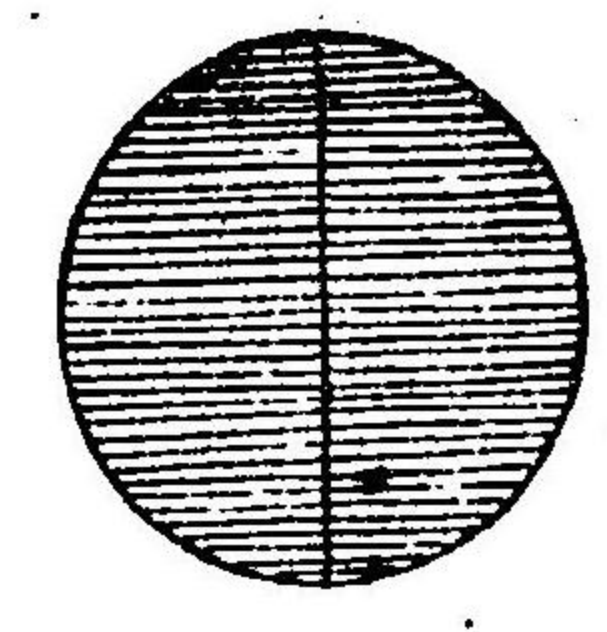
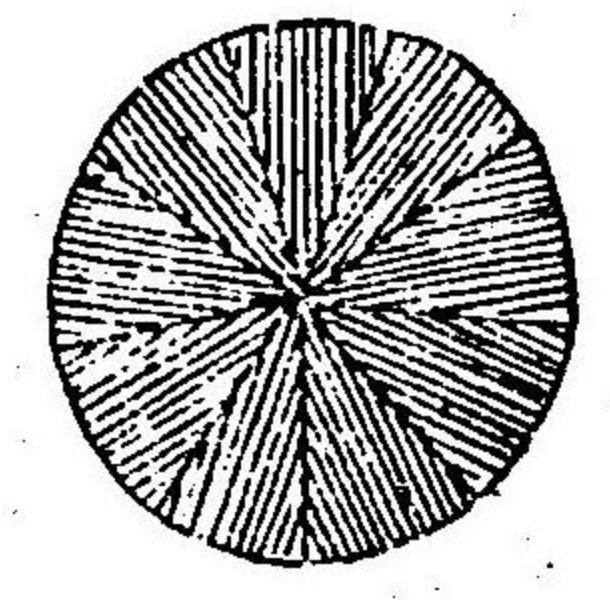
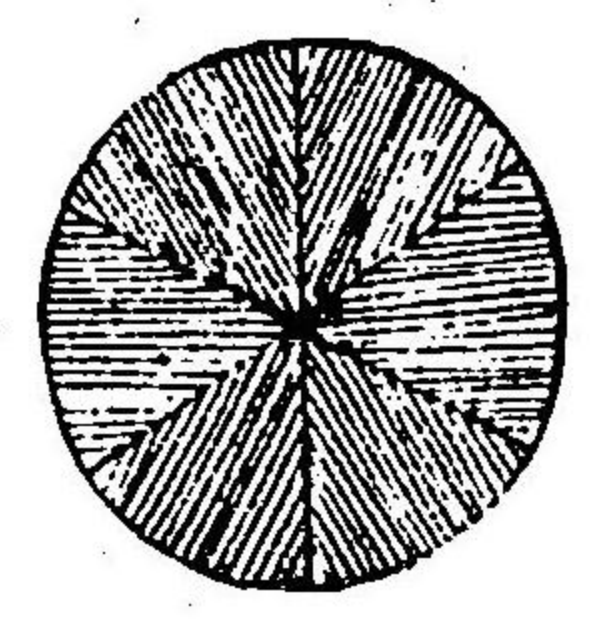
丸の茶のりす
巻七の付圖

舟の形に寸
七寸五分

床の上小香爐
のまき台様



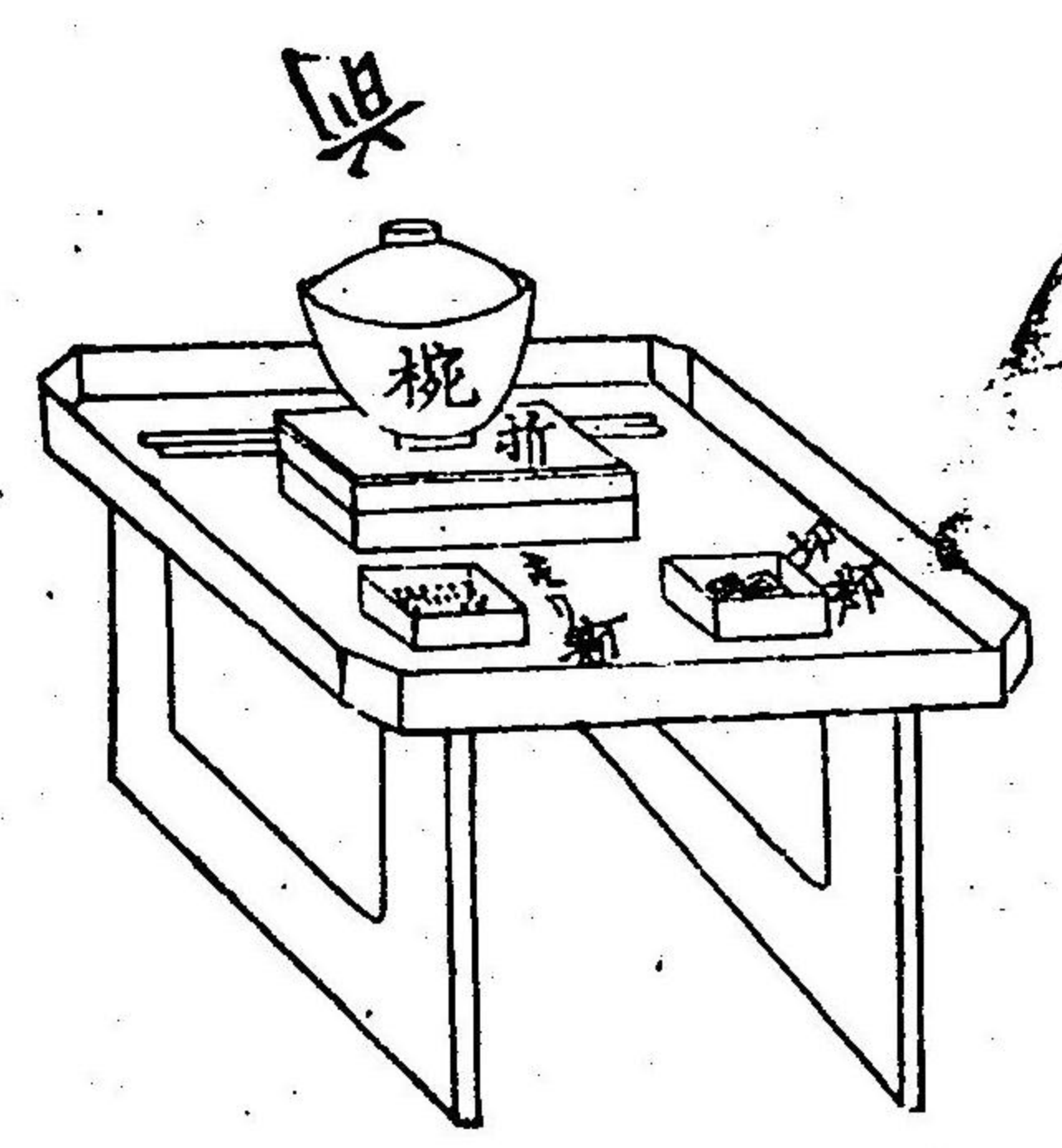
圓形此分



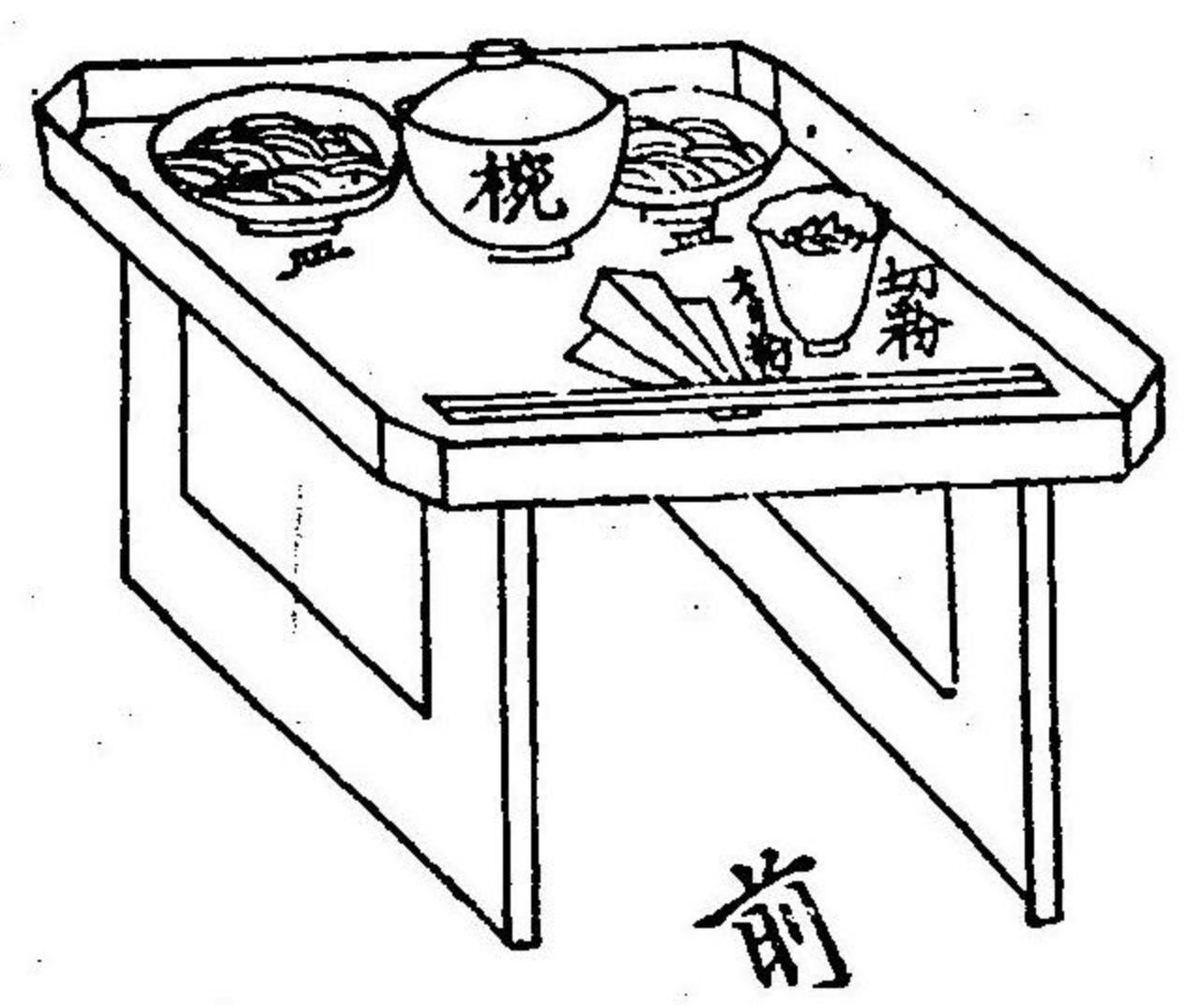
香爐乃灰押しやう

八

同椀を折上小
まき台様

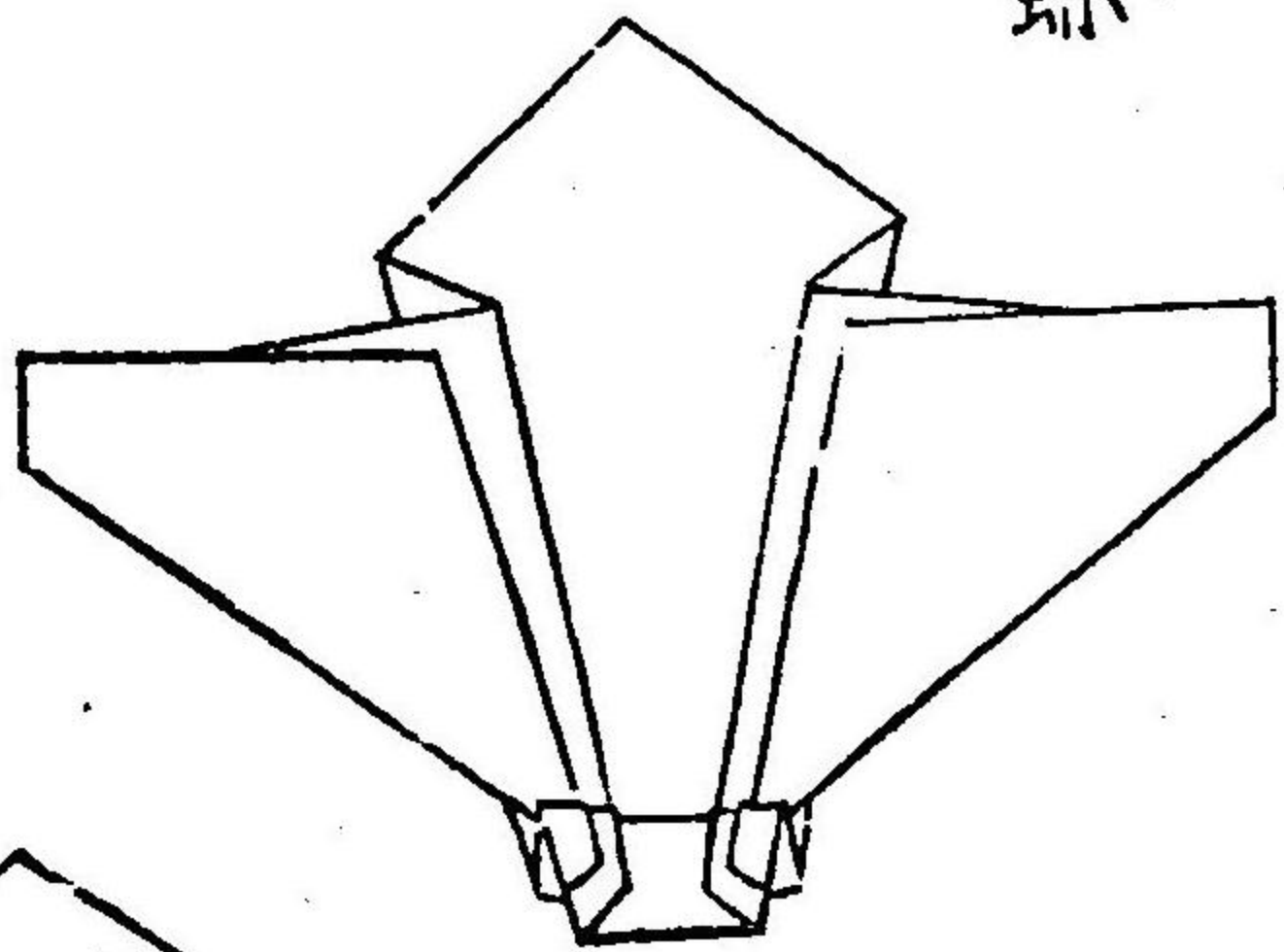


皿を冷麩を
まき台様



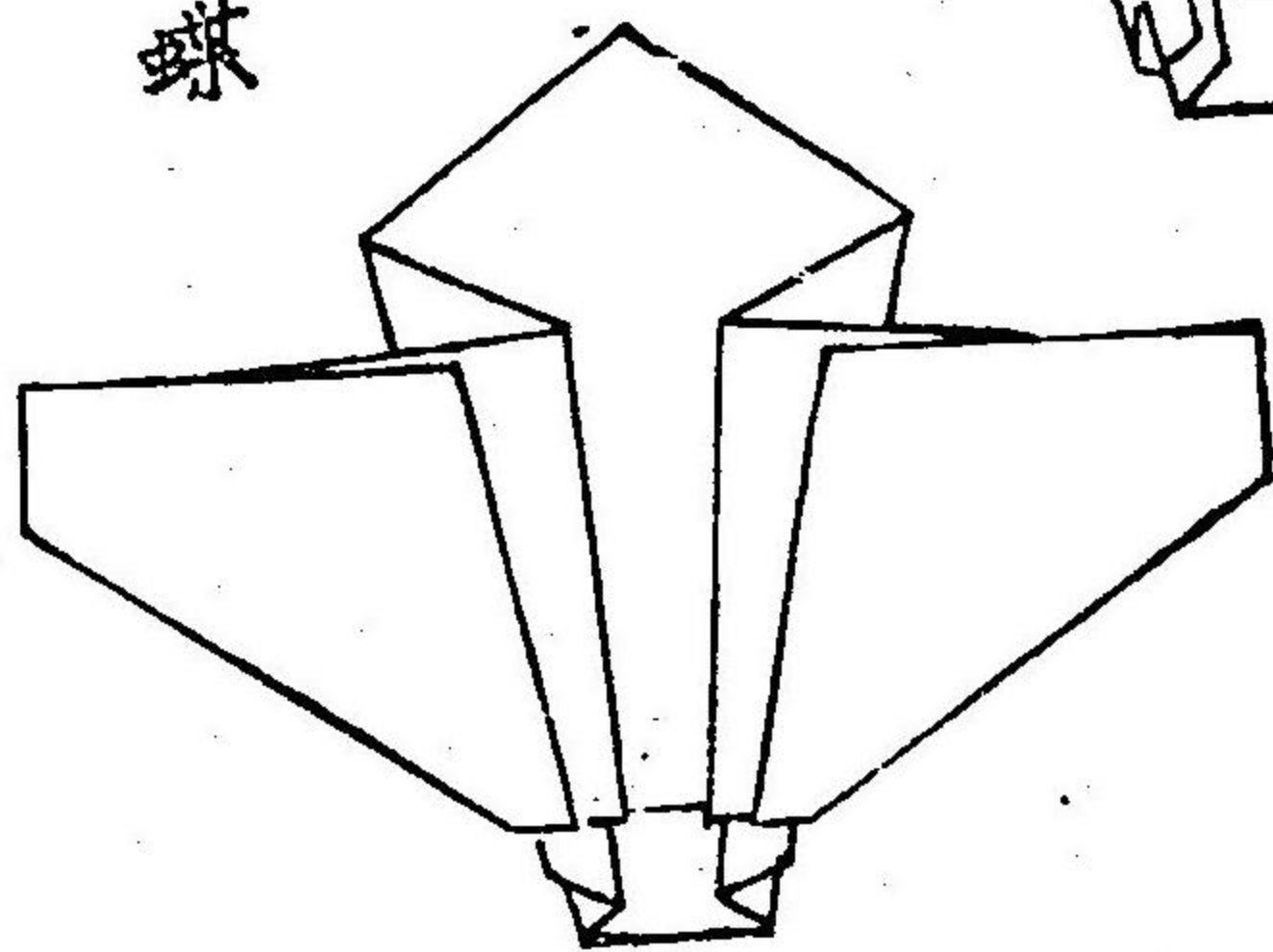
舟の形に寸
七寸五分

雄蝶

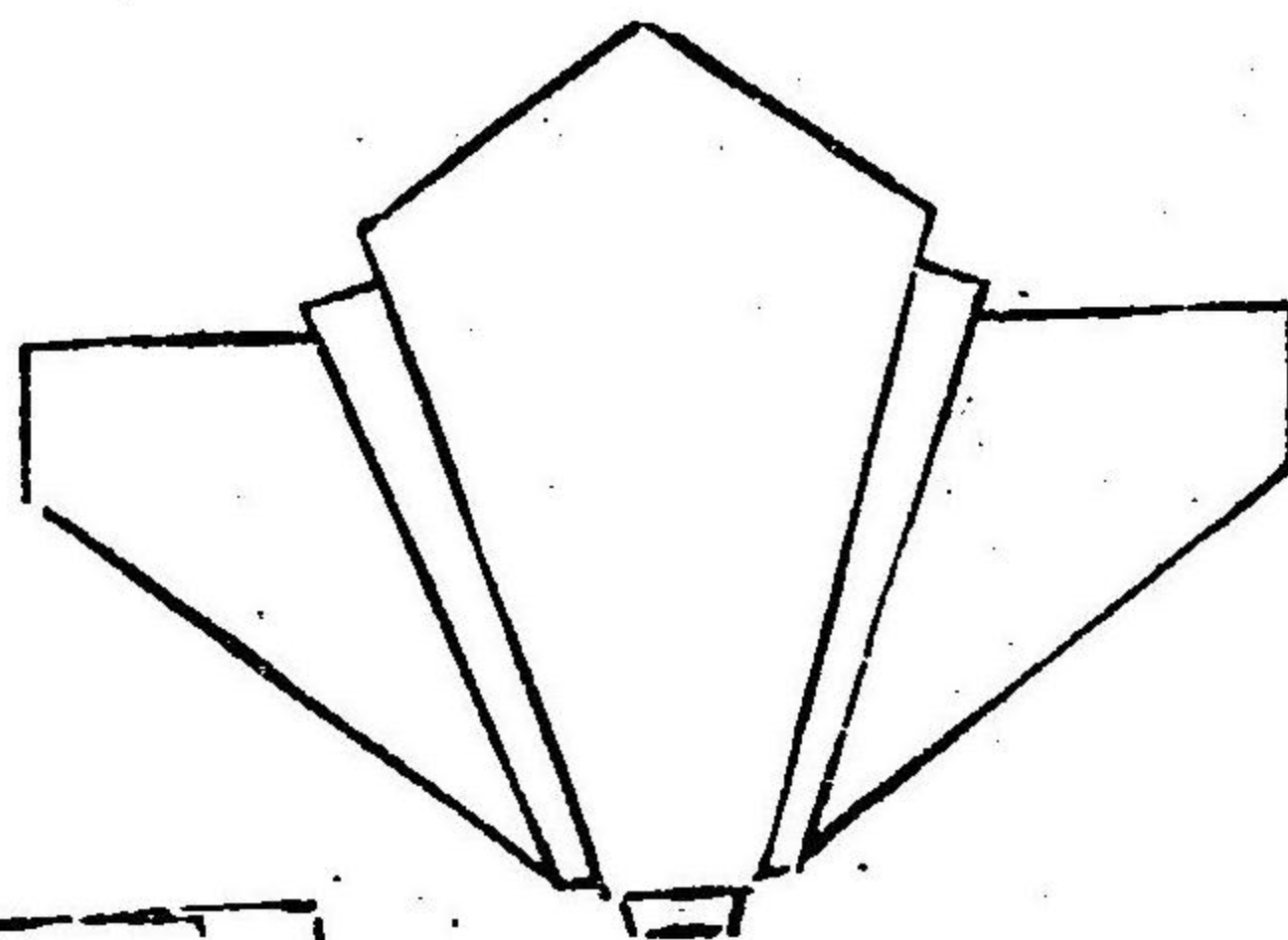


諸乃折方

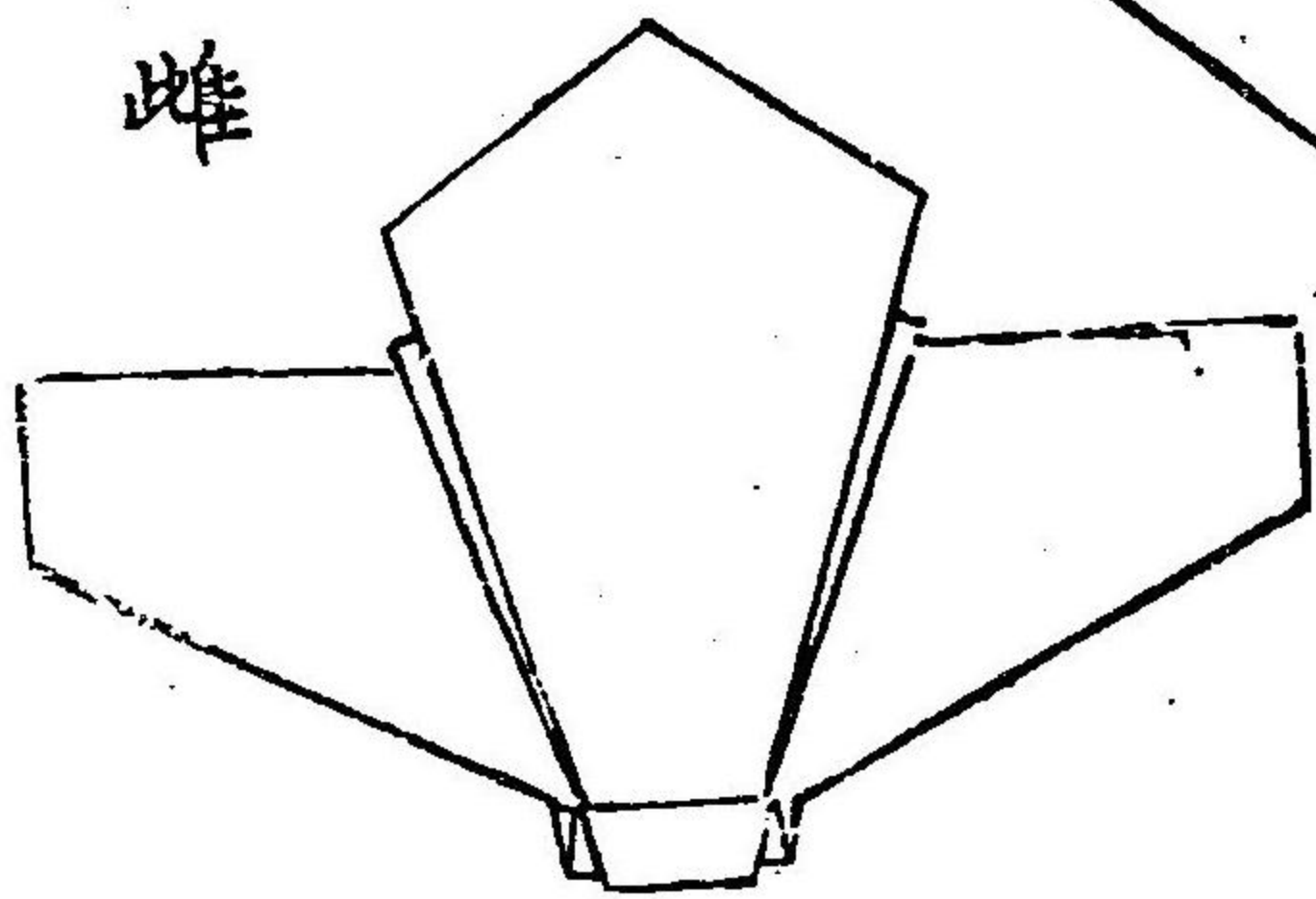
雌蝶



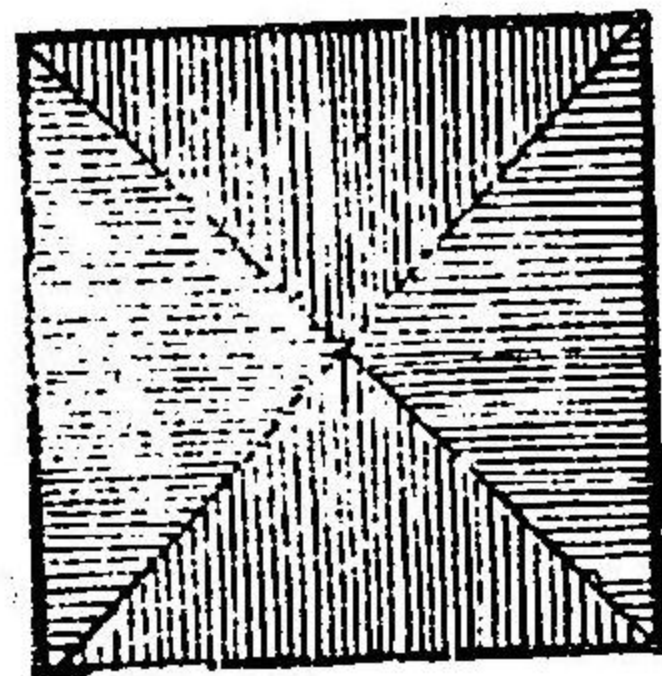
雄



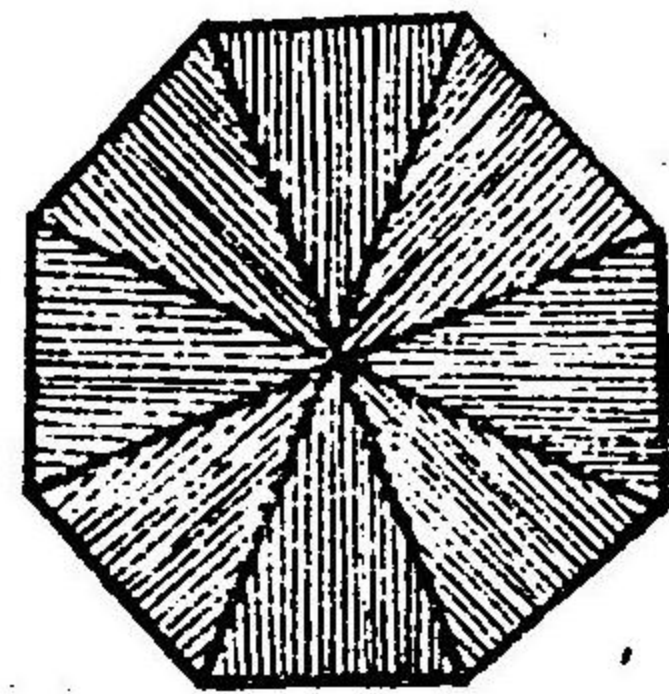
雌



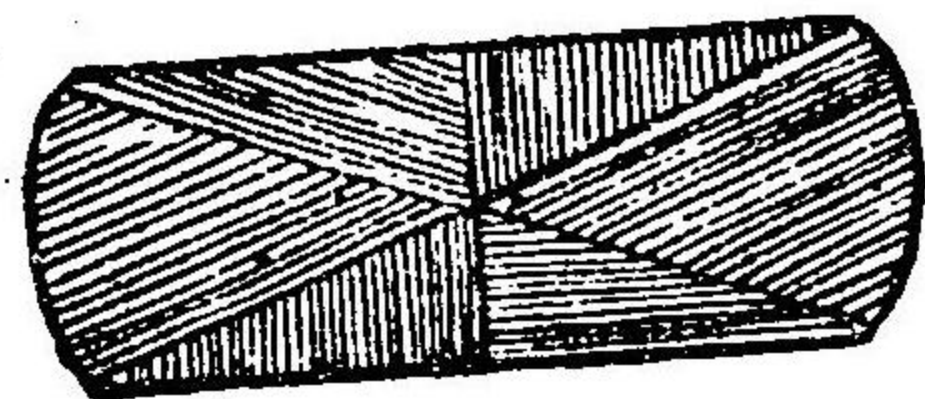
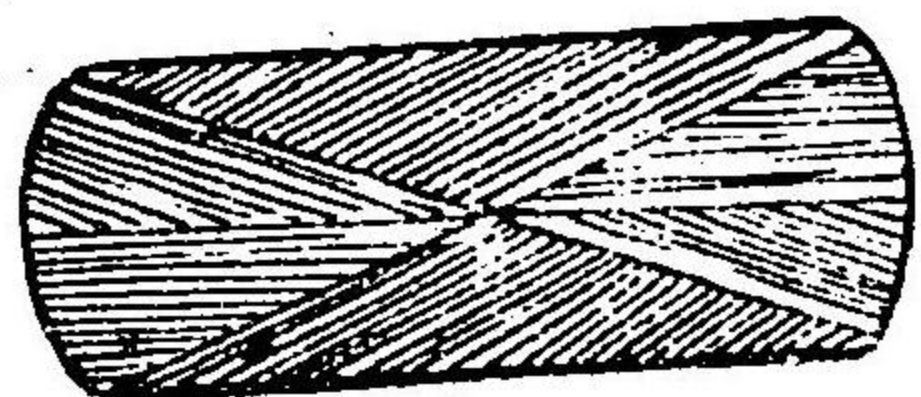
方形の分



八角の分



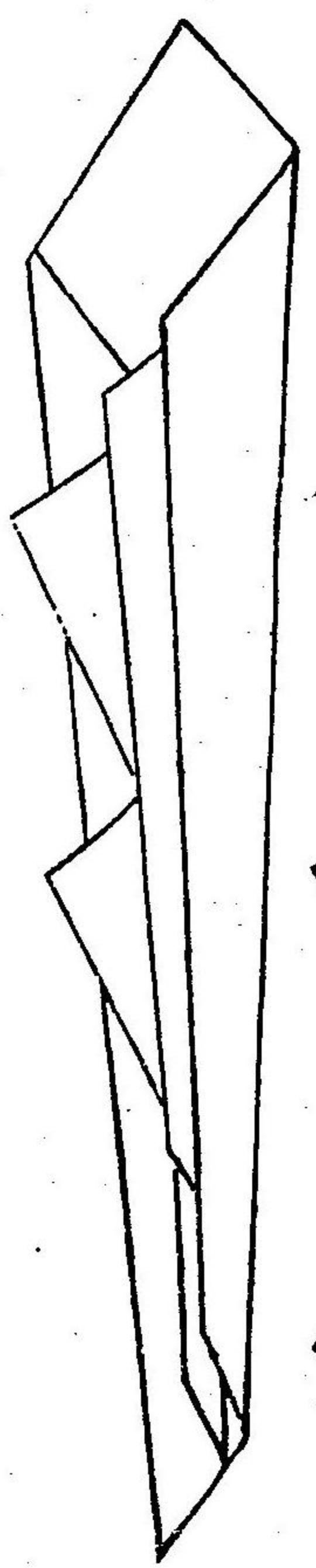
細長き形の分



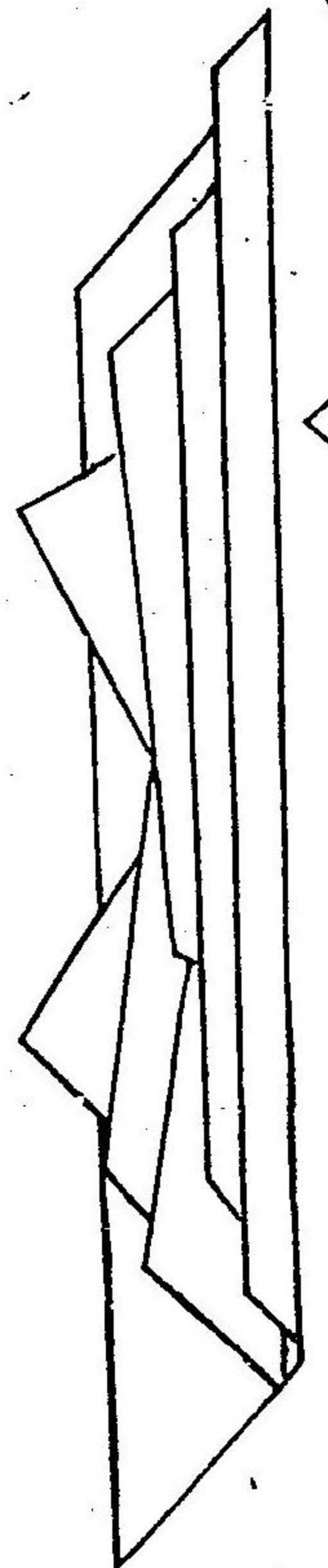
雄の形
雌の形
諸乃折方
細長き形の分

女の着物
お七の着物

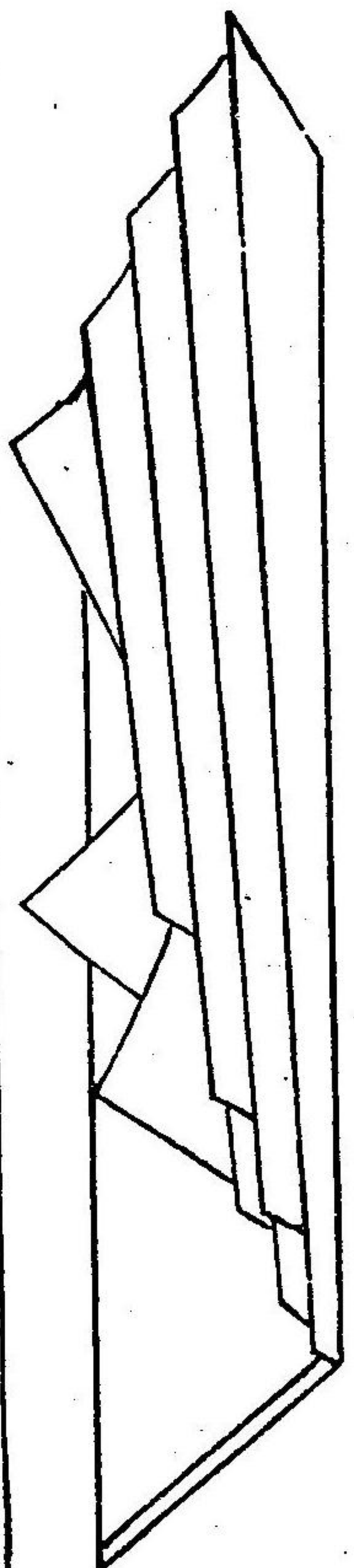
同



同

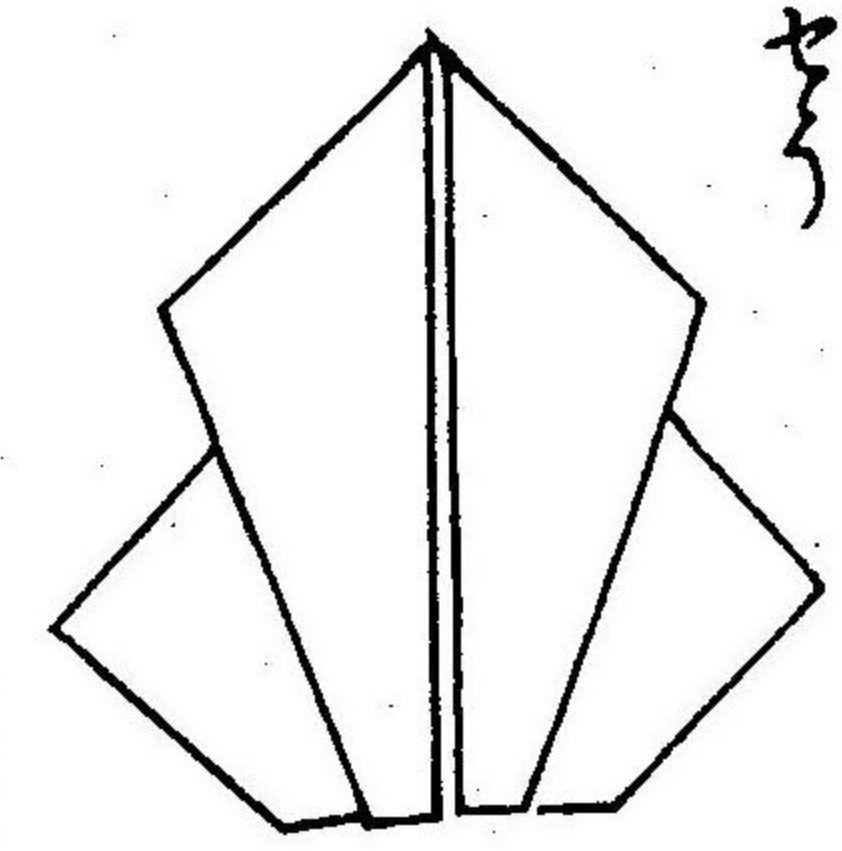


鬘斗



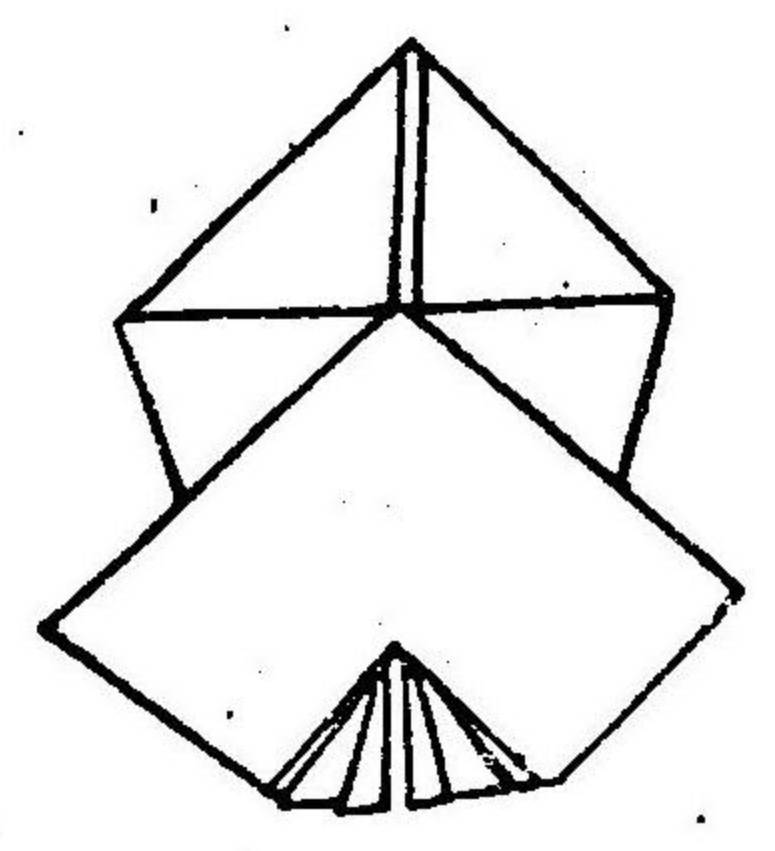
是々至以下二色
物のさく山

表



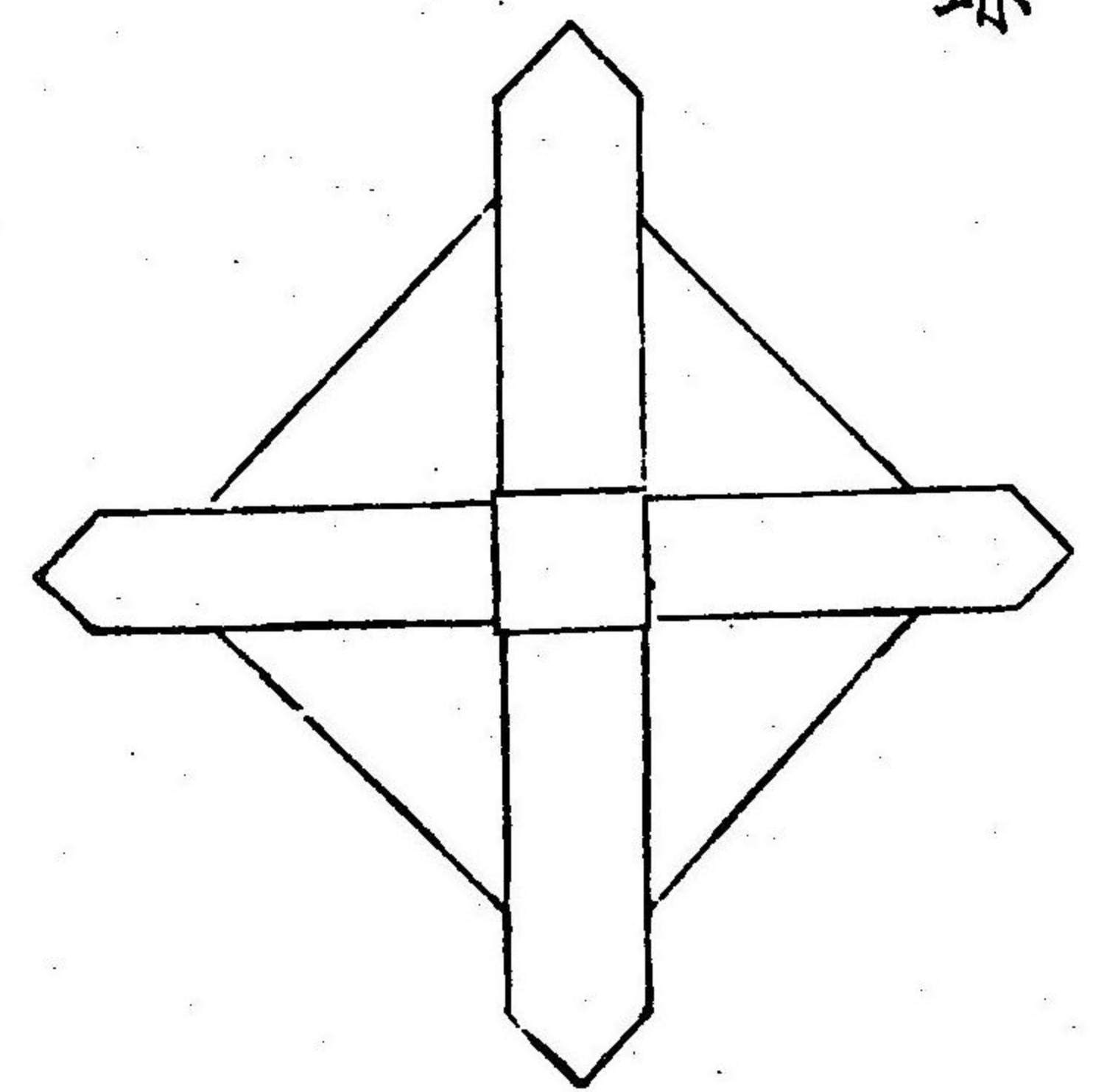
おやう

裏

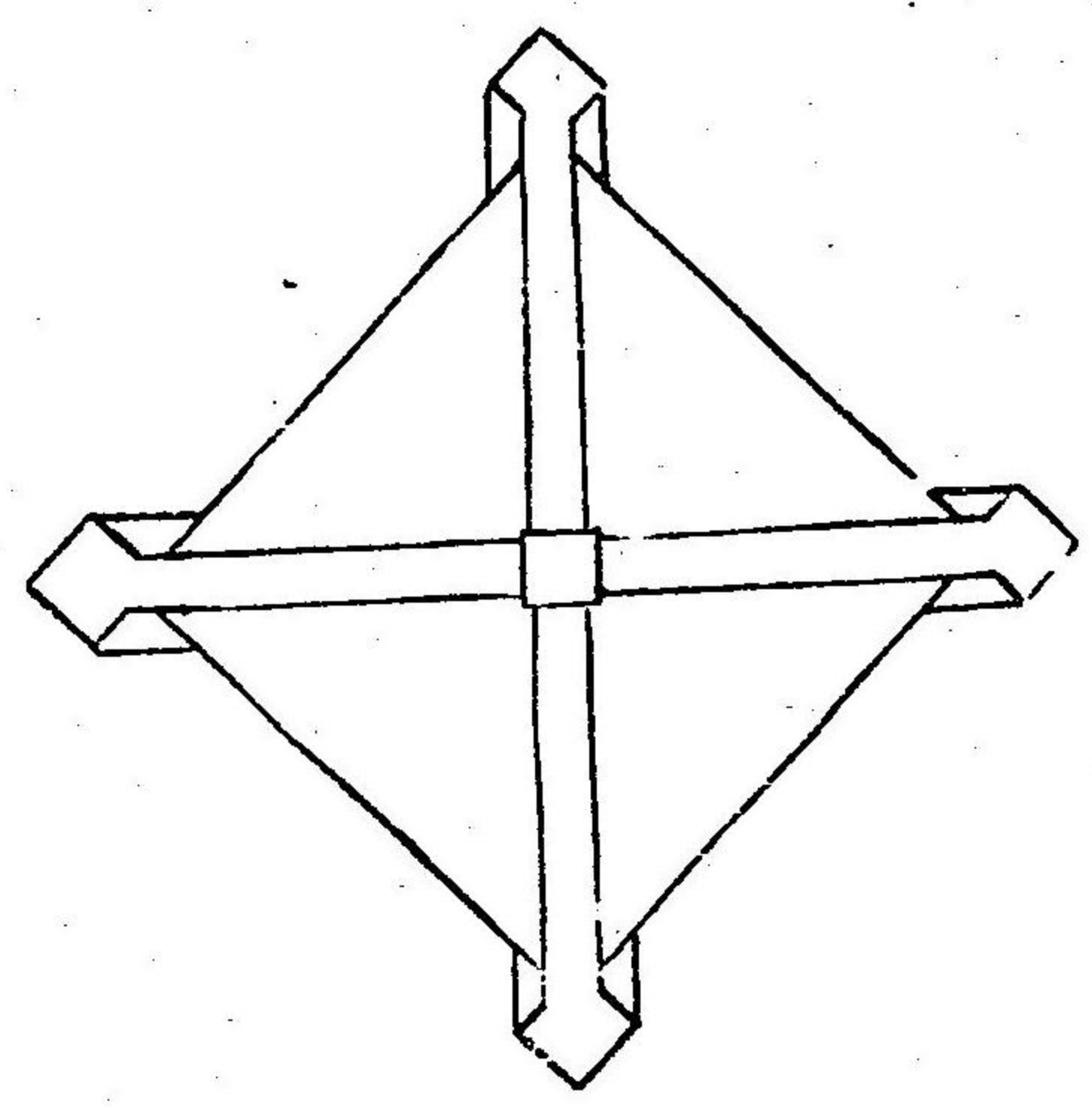


同
四方蝶

表

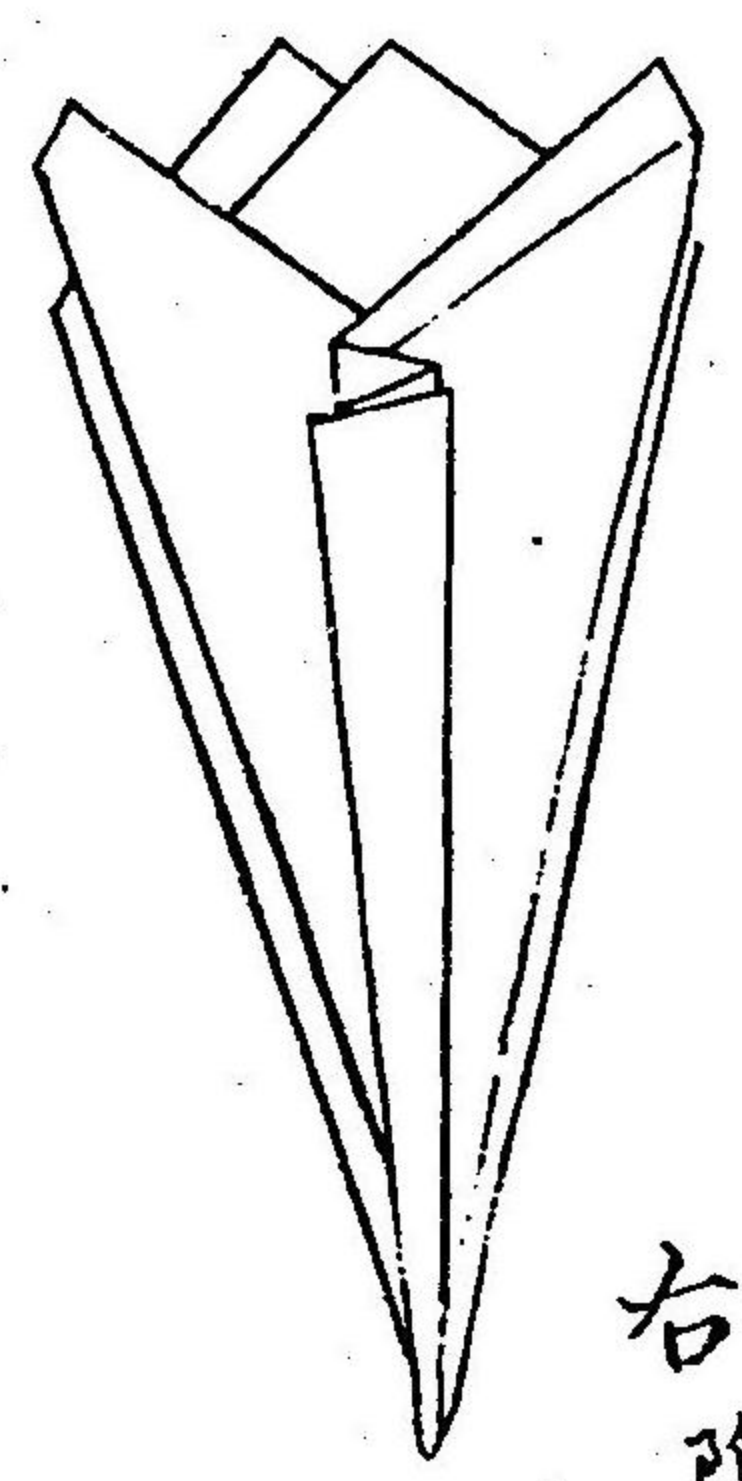


裏

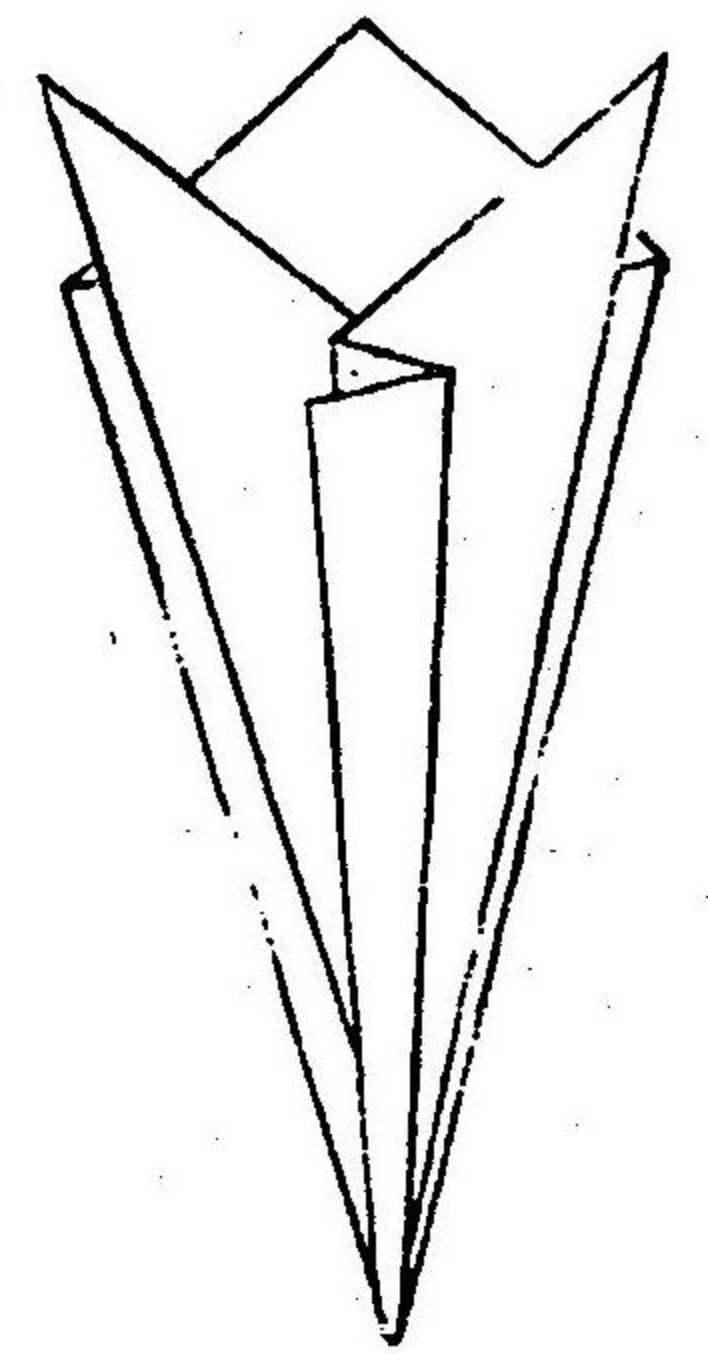


瓶子洗口

左陽



右陰

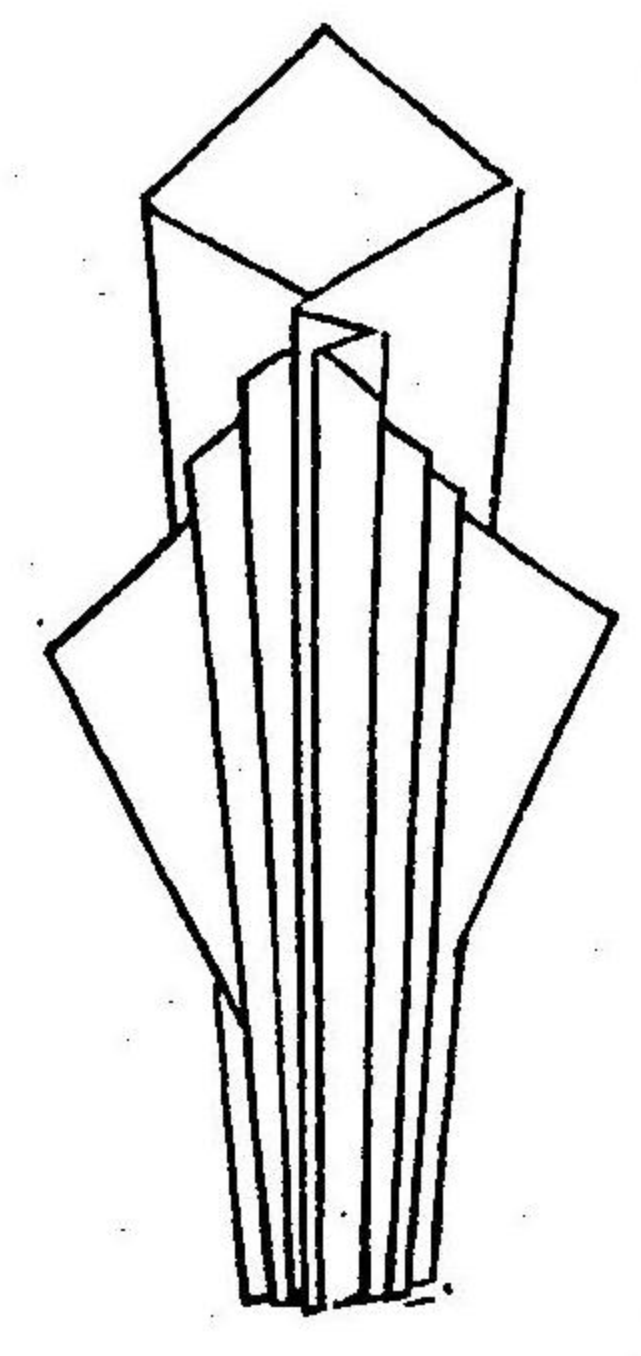


お七の着物
お七の着物

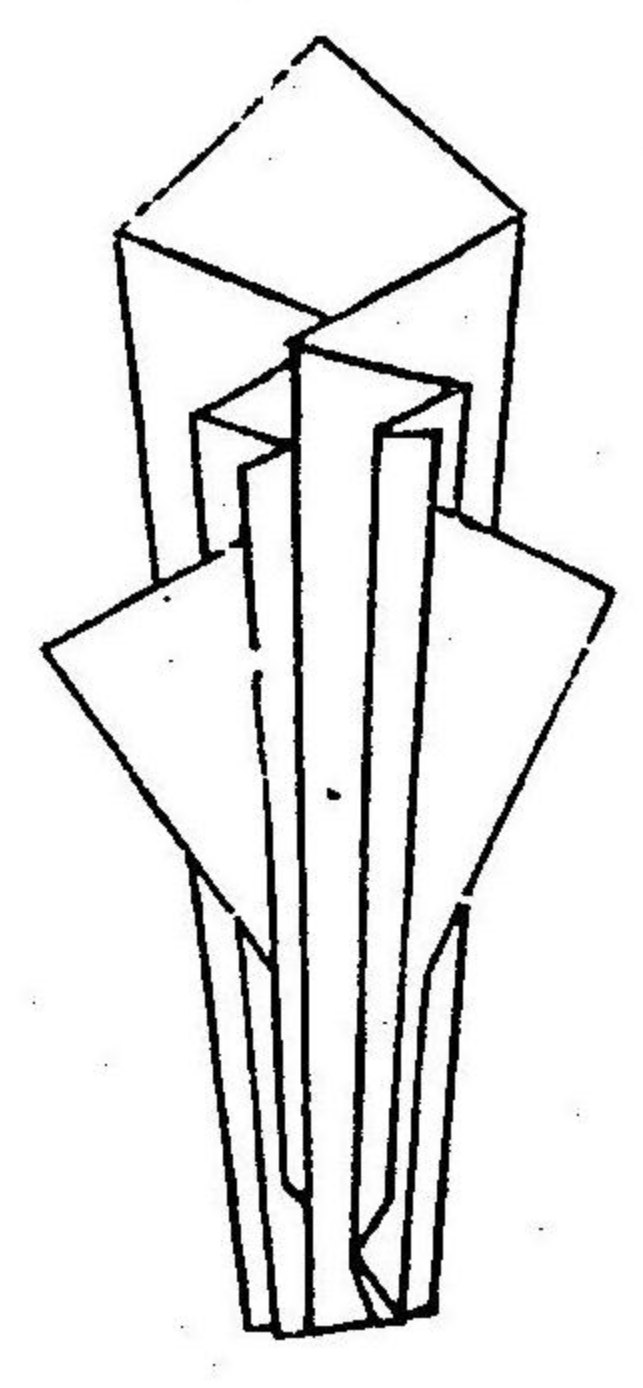
扇子の表裏

扇子

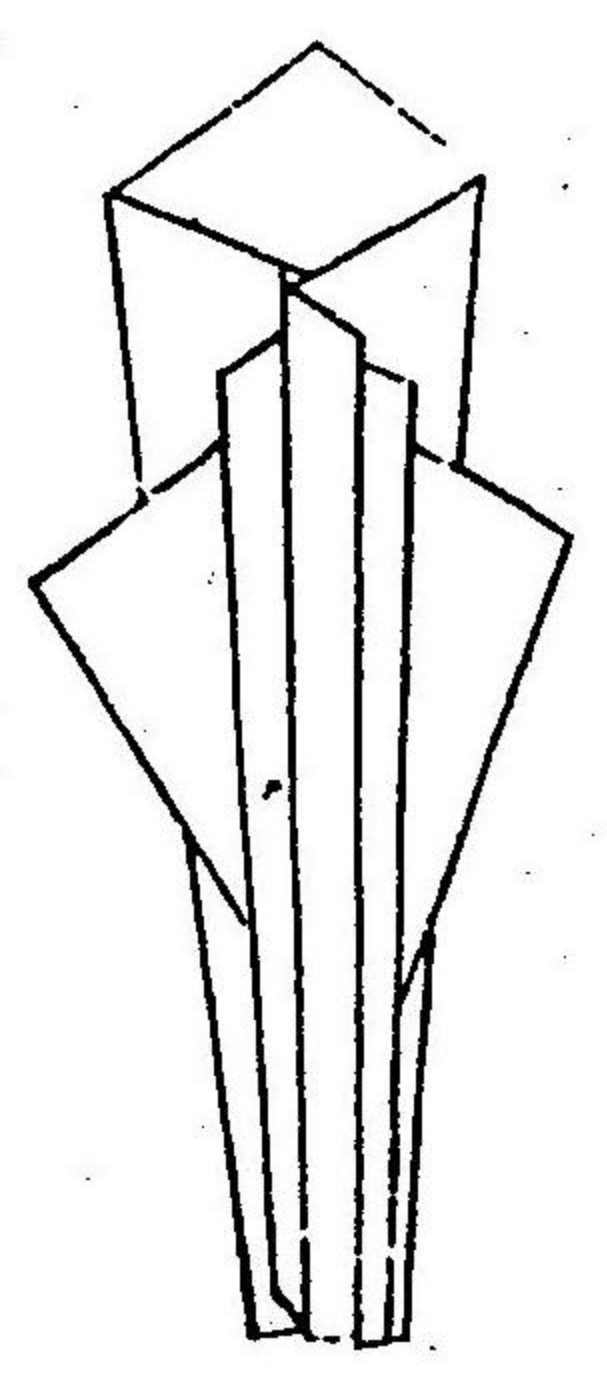
表



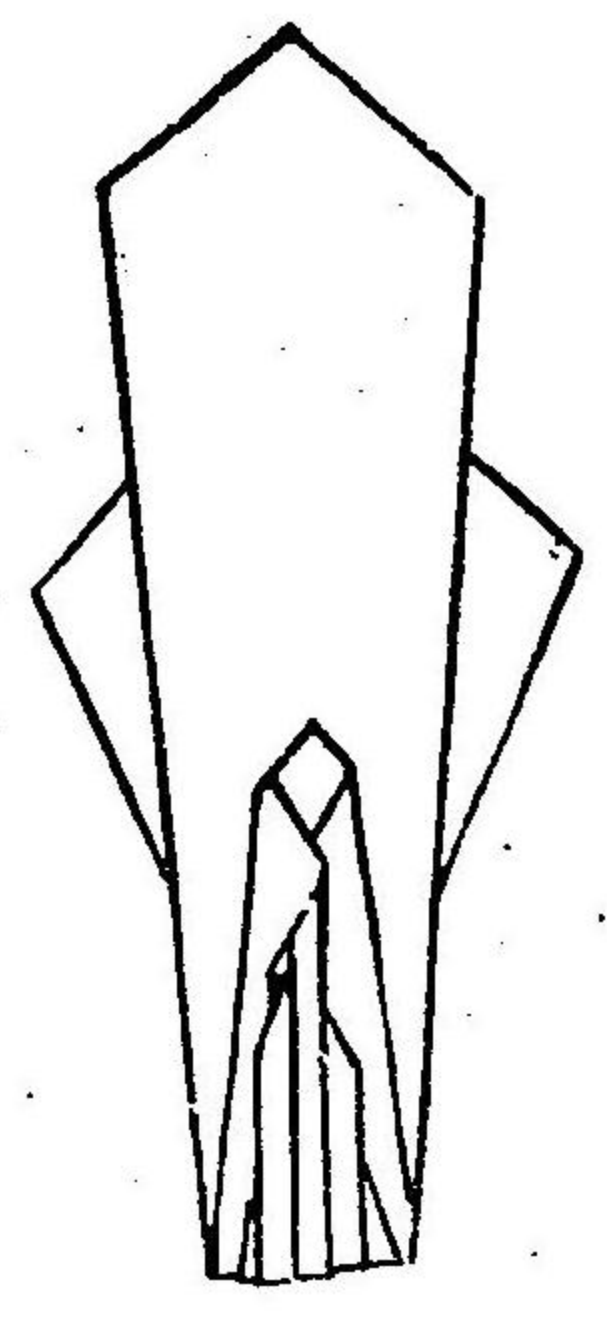
表



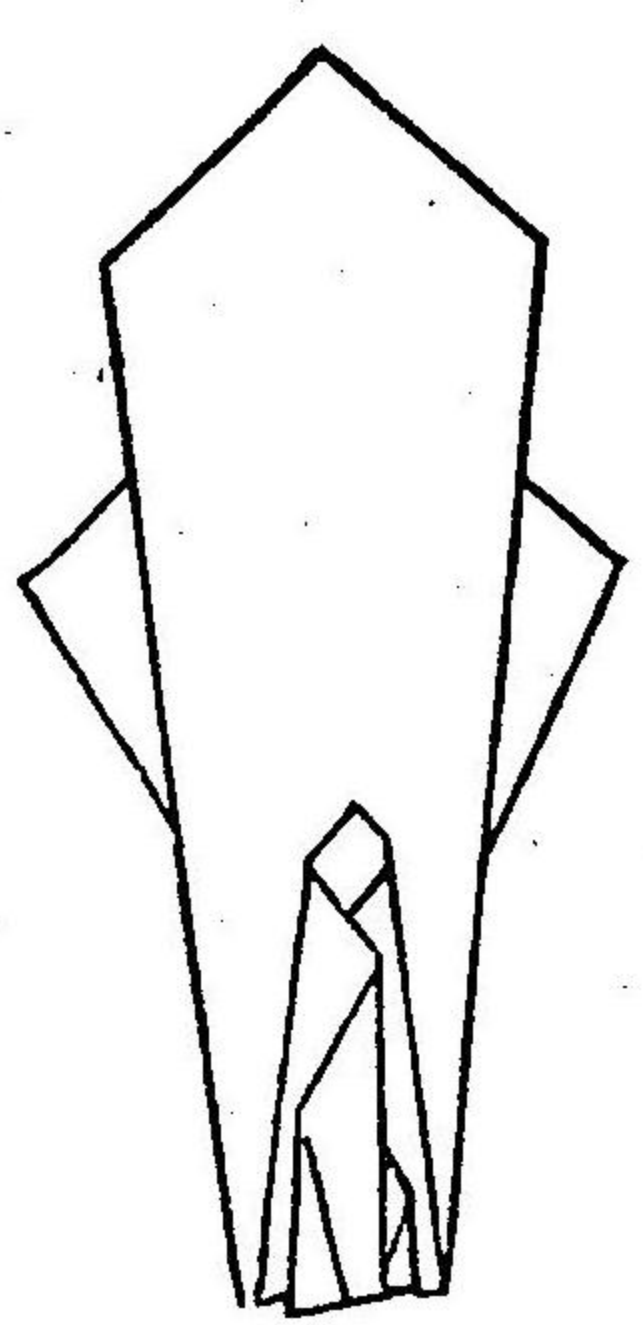
表



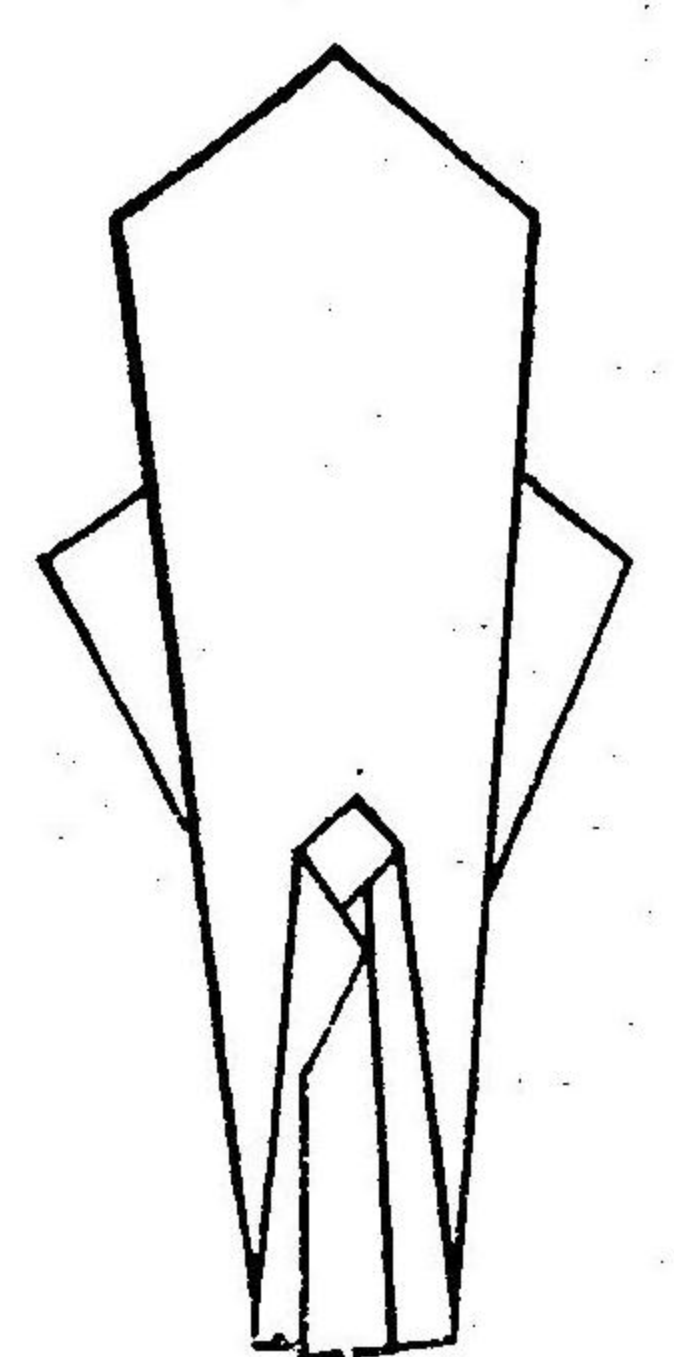
裏



裏



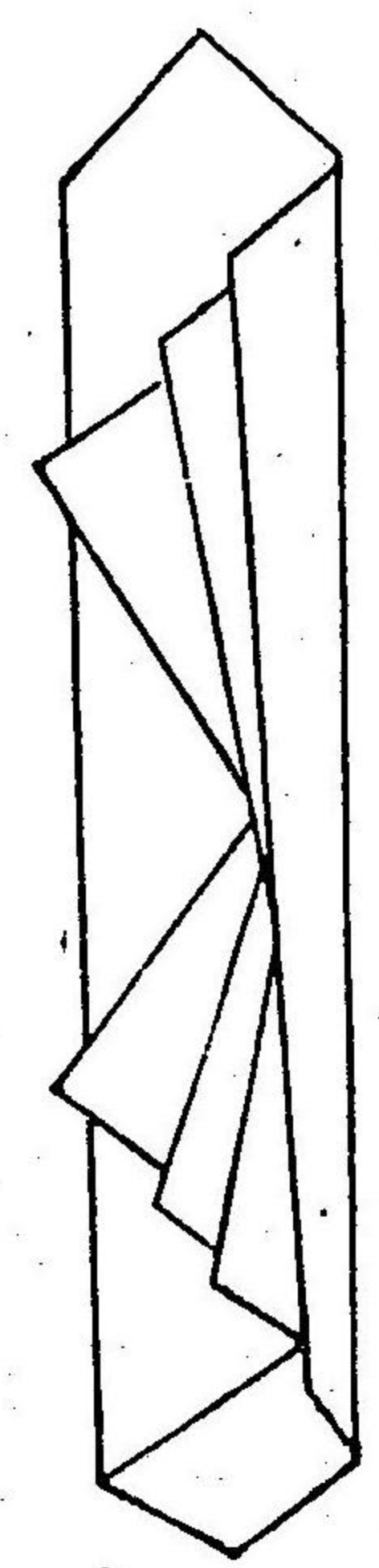
裏



多き帯

巻物

板状もの

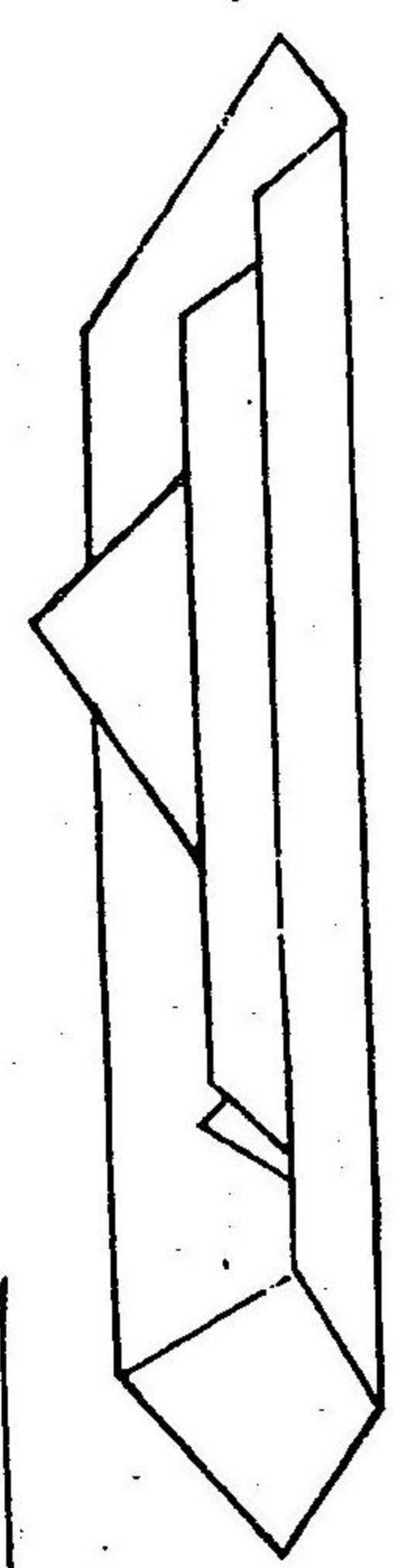


帯

ひとへ

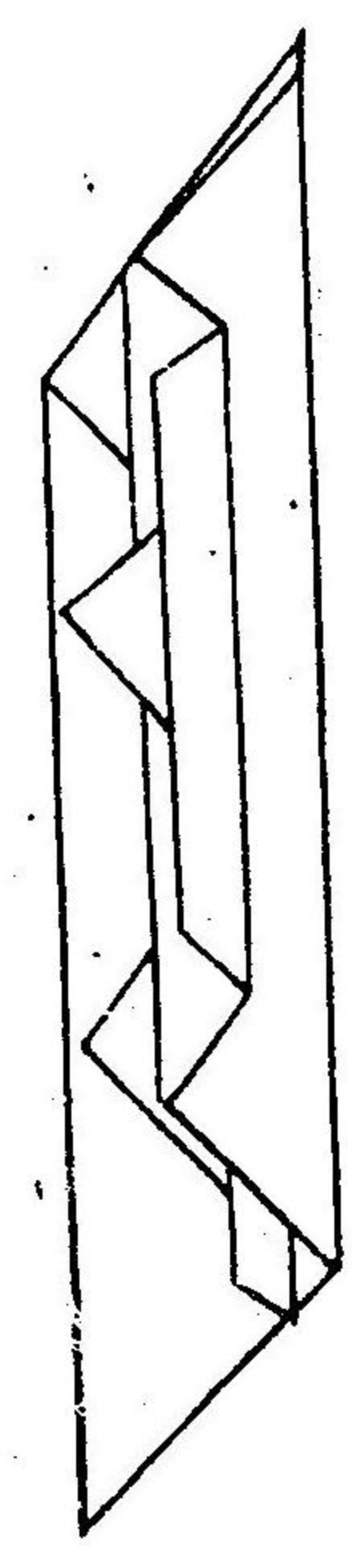
たね物

くさ帯



板の物

あつ板



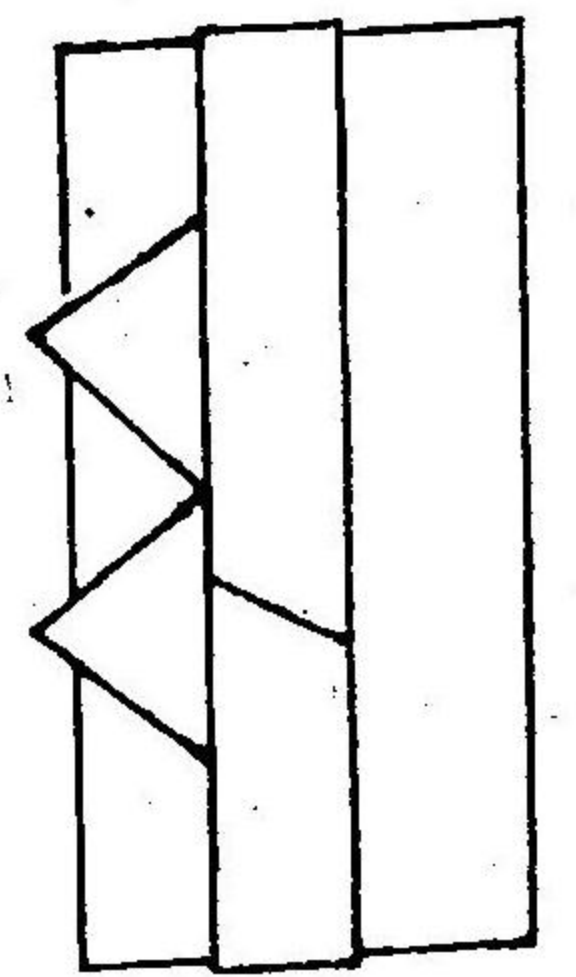
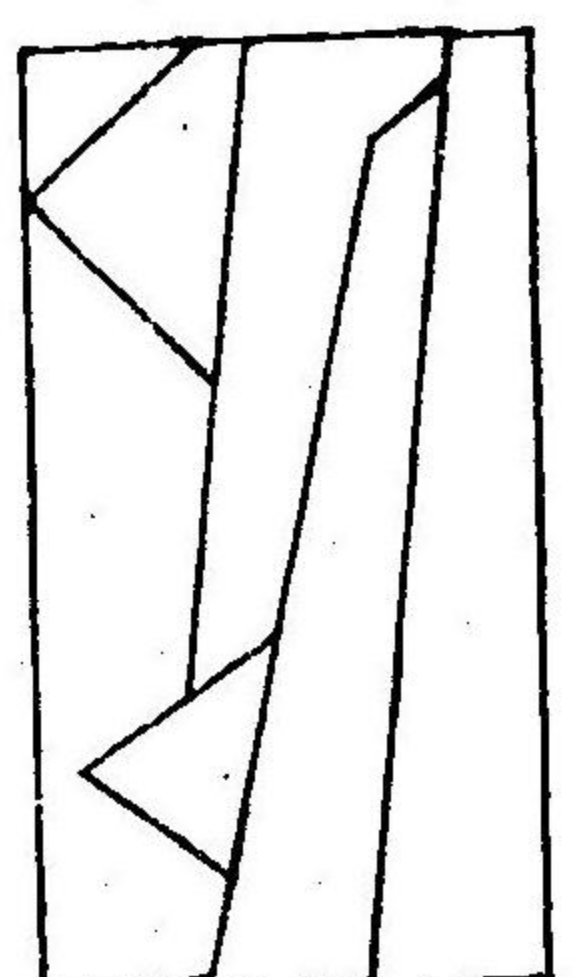
女の帯

巻物

九

裏

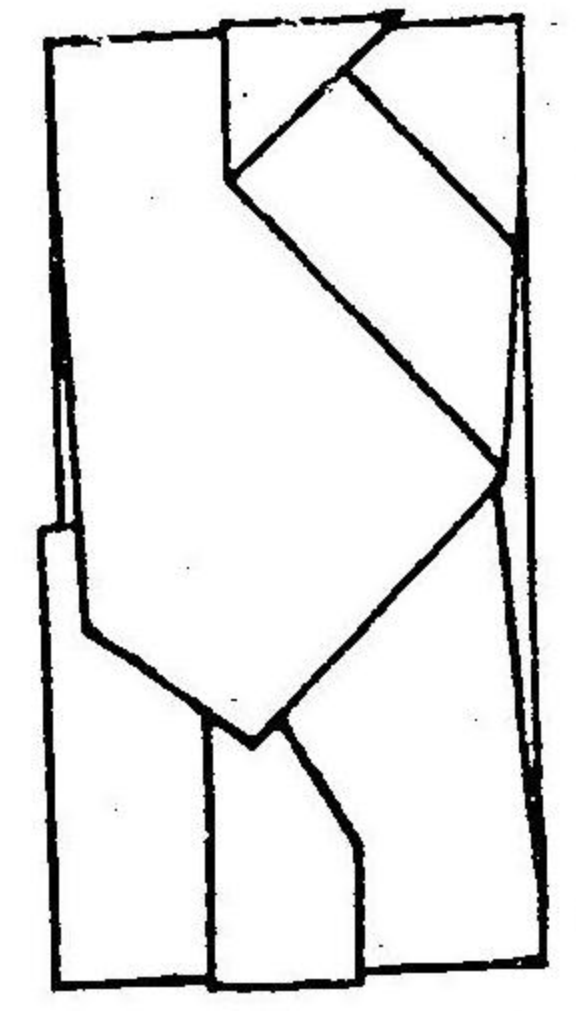
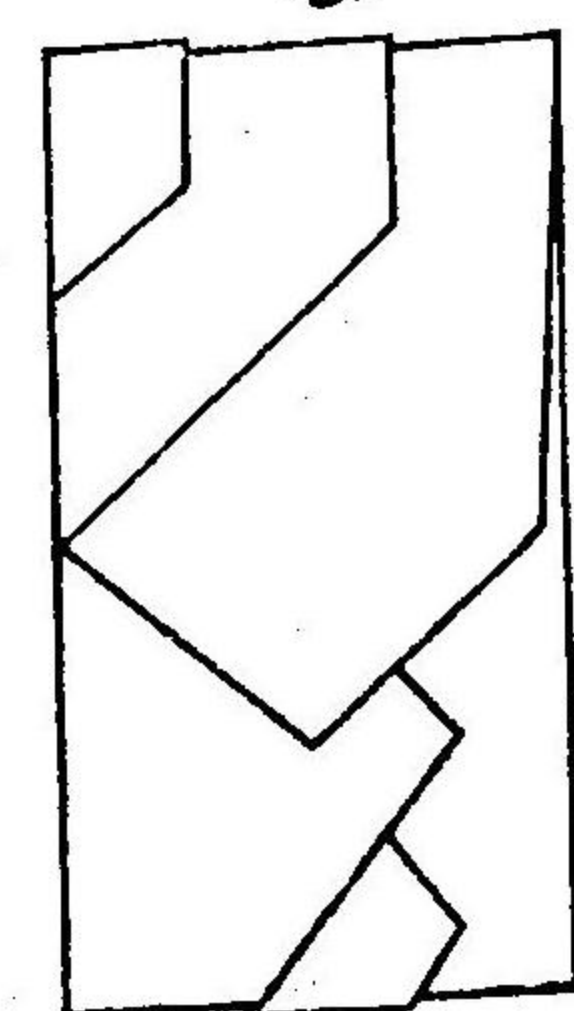
表



胡麻塩

裏

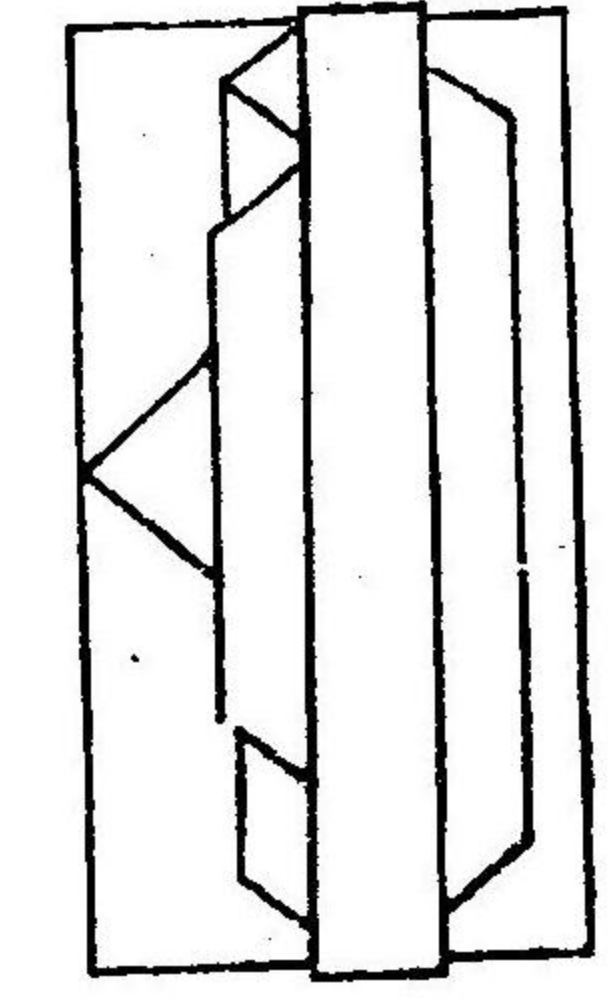
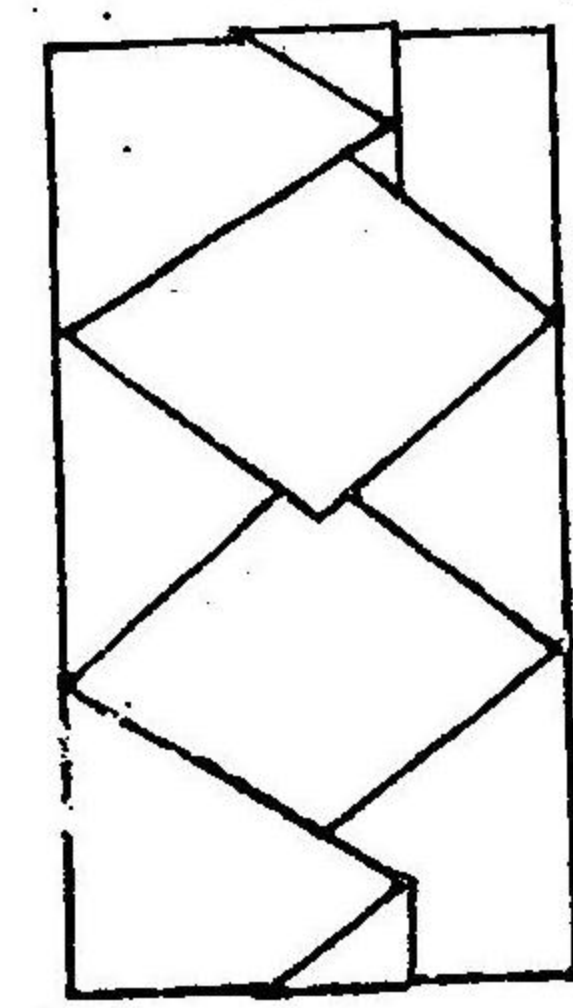
表



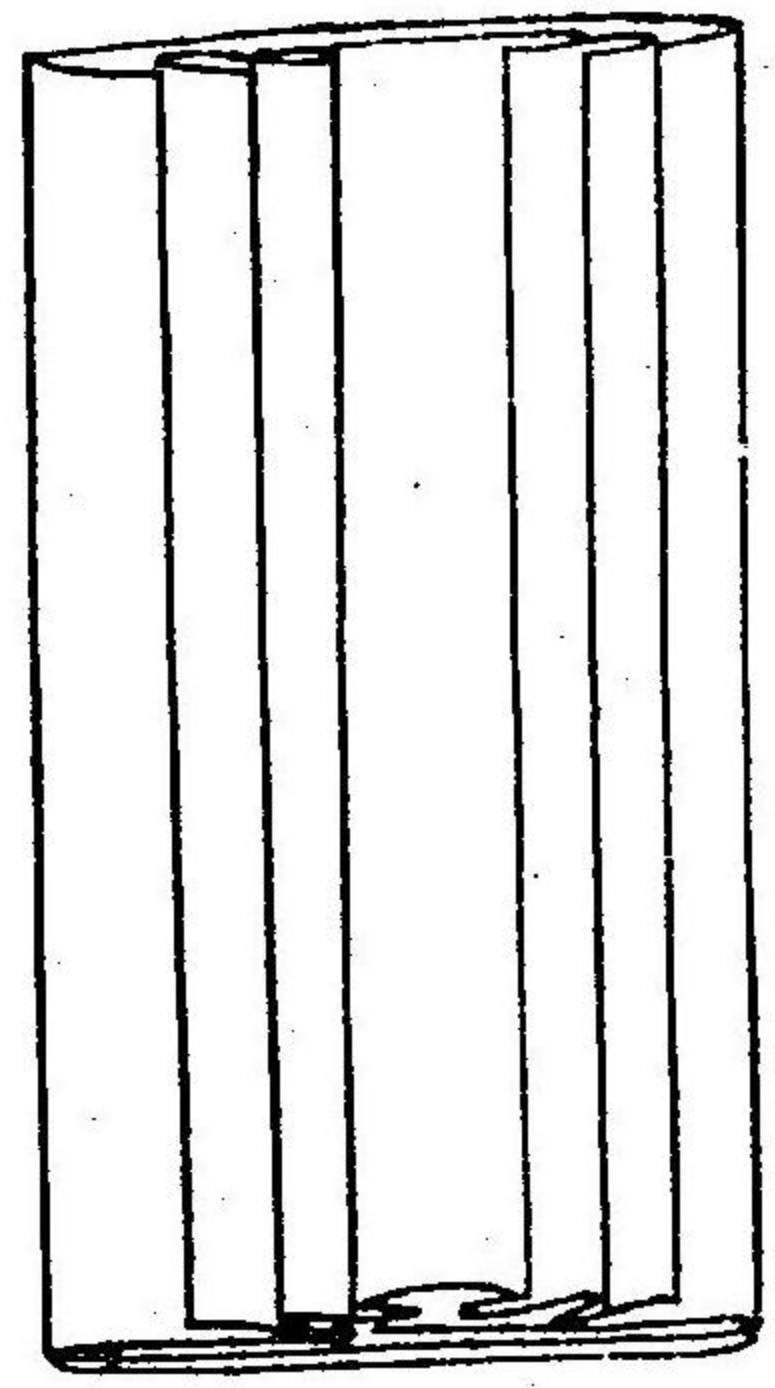
香

裏

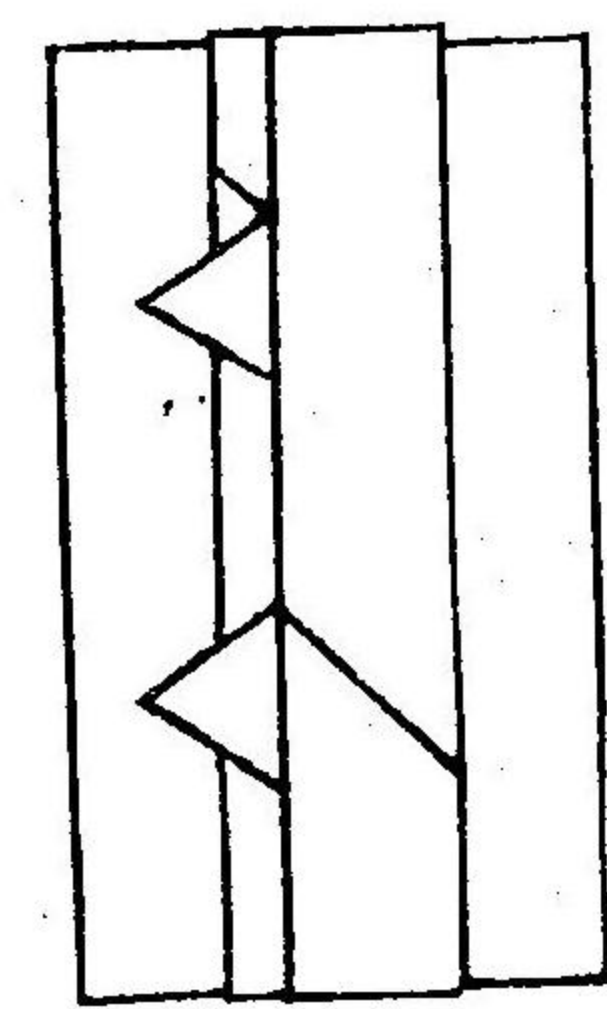
表



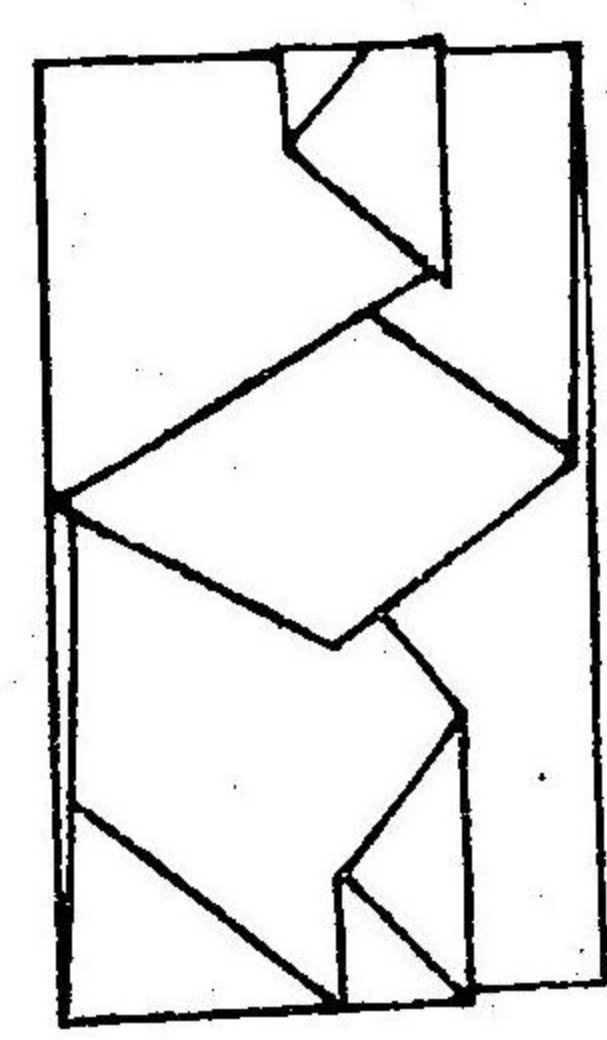
阿はせ香



とふ紙

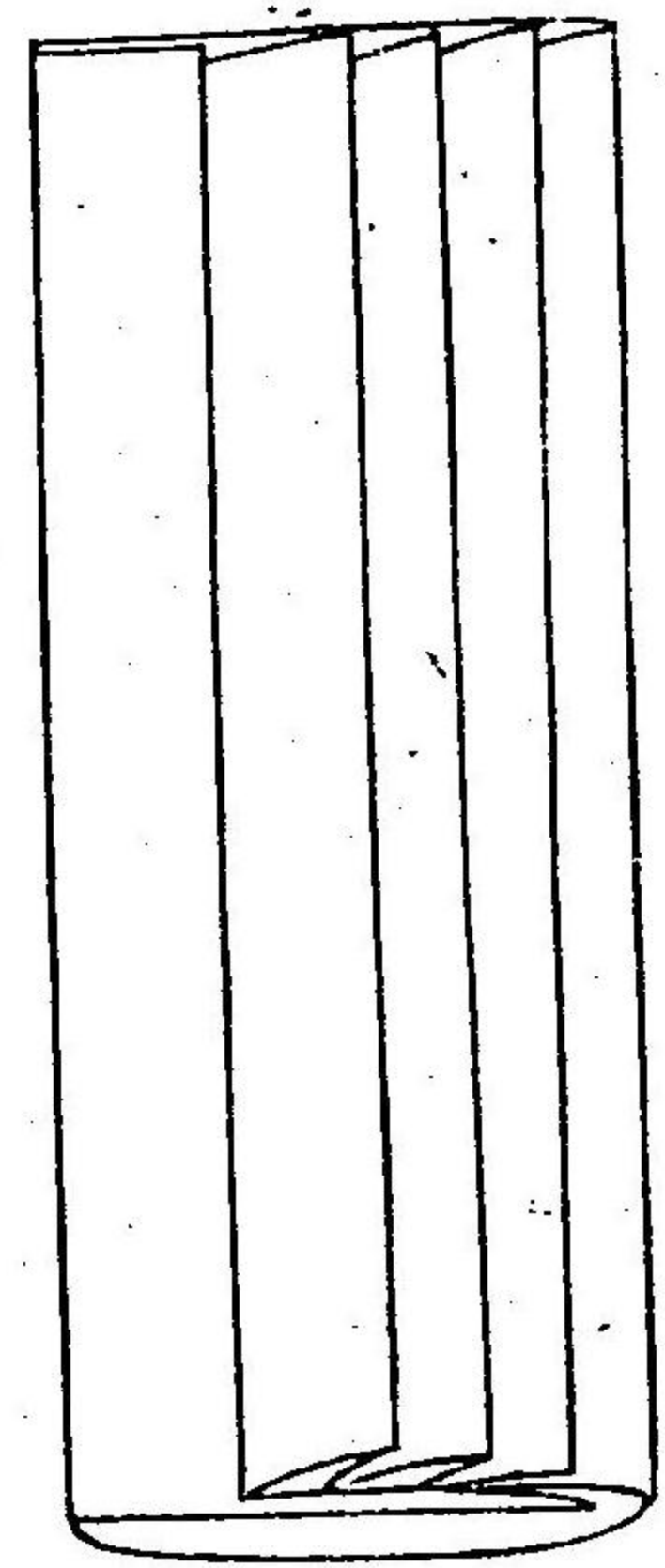


おし紙

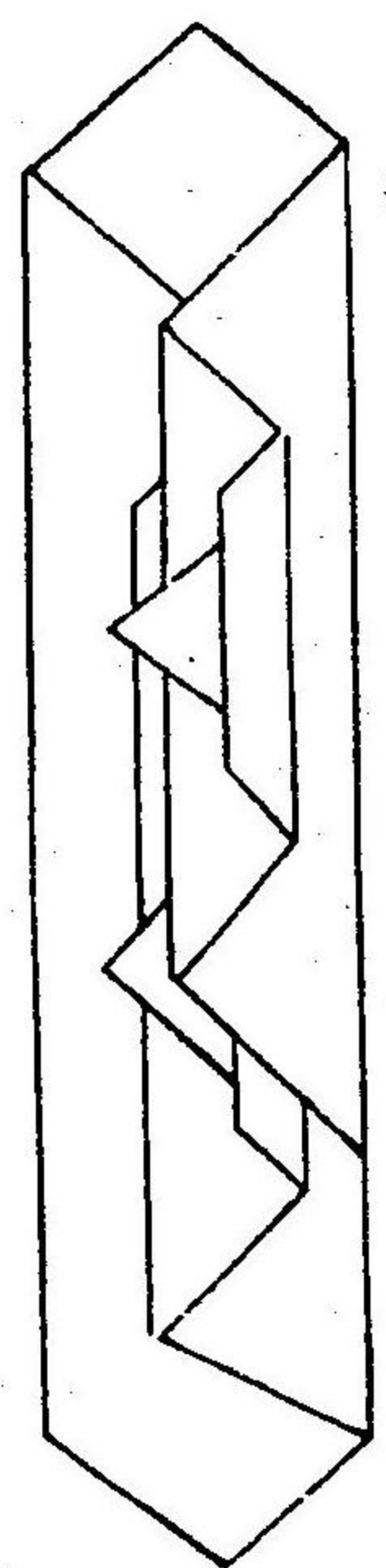
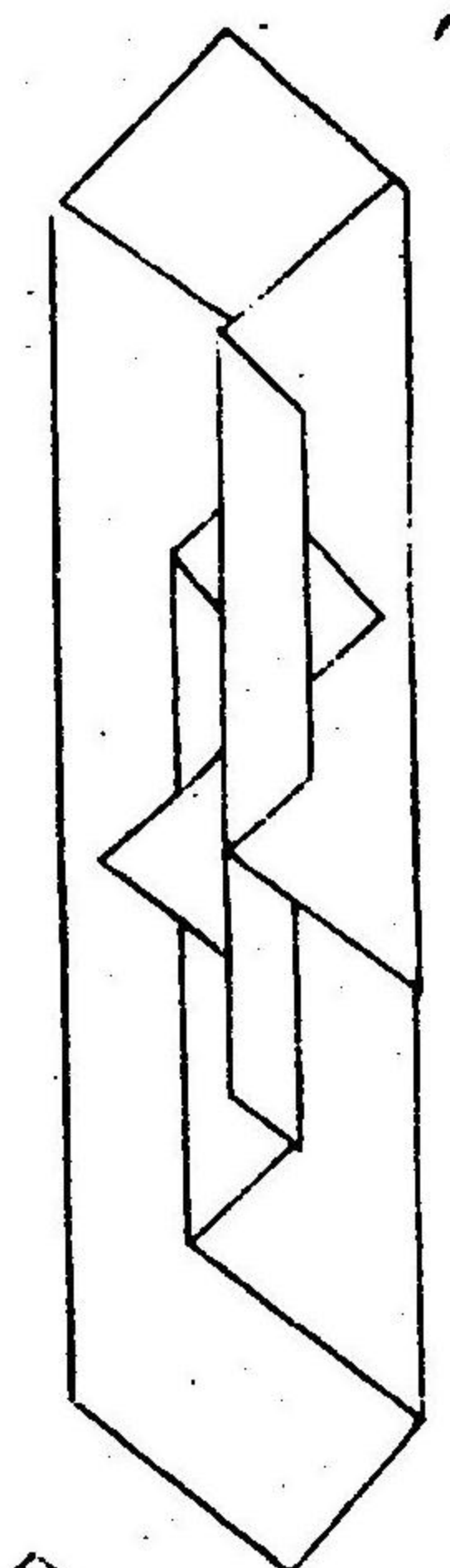


裏

日多

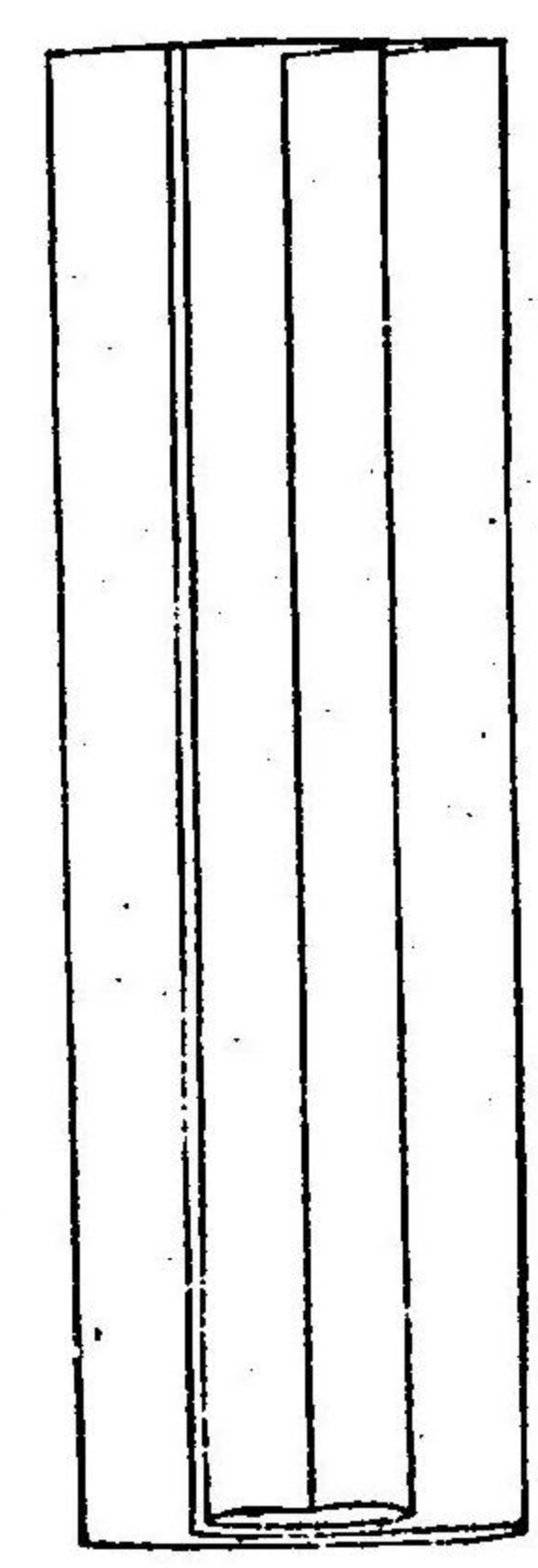


之布

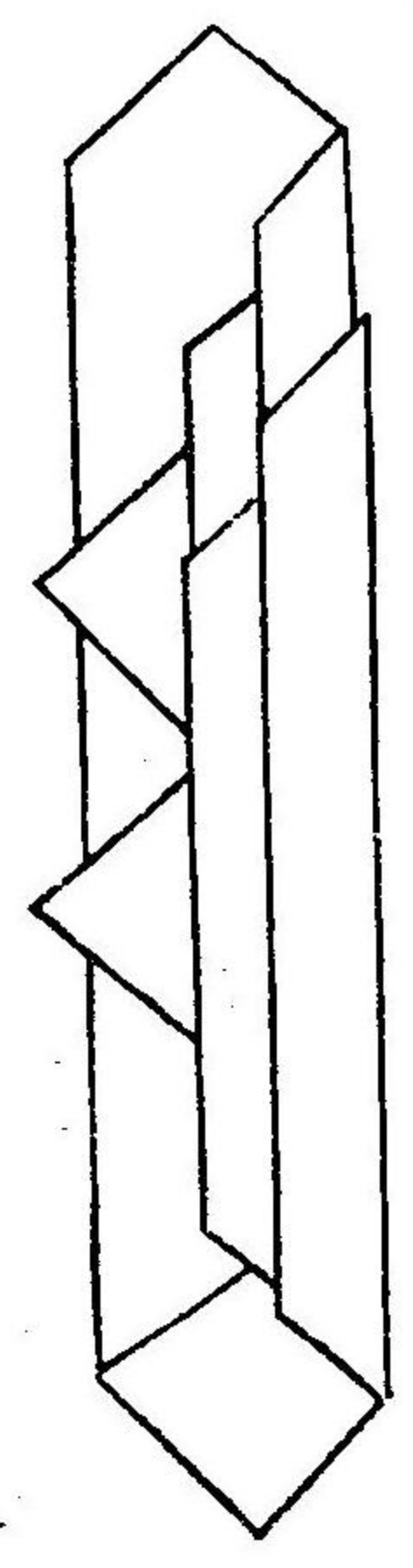
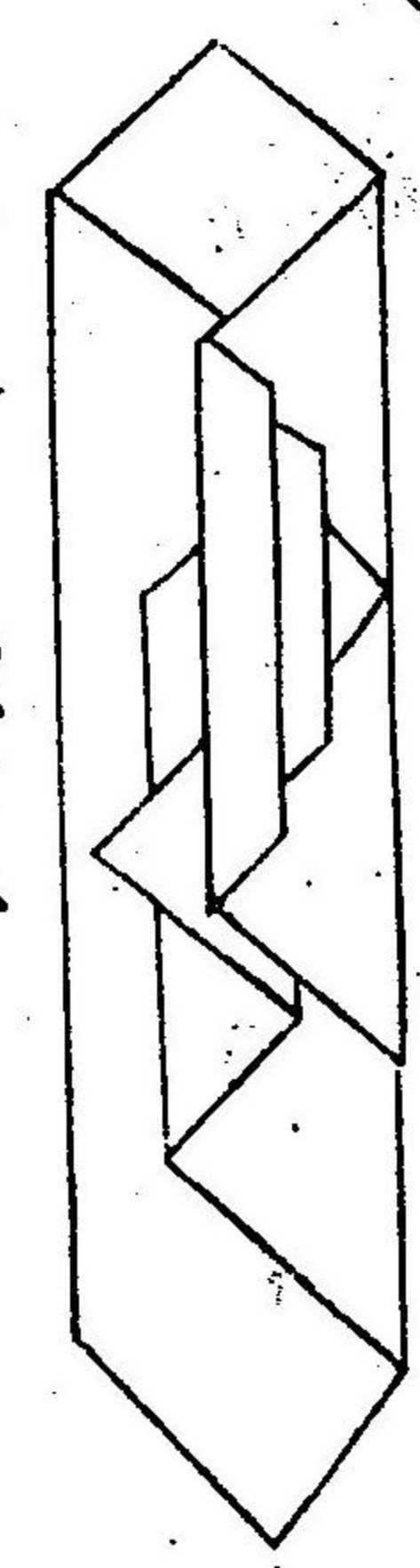


志しし緒張

巻き奴類



水引

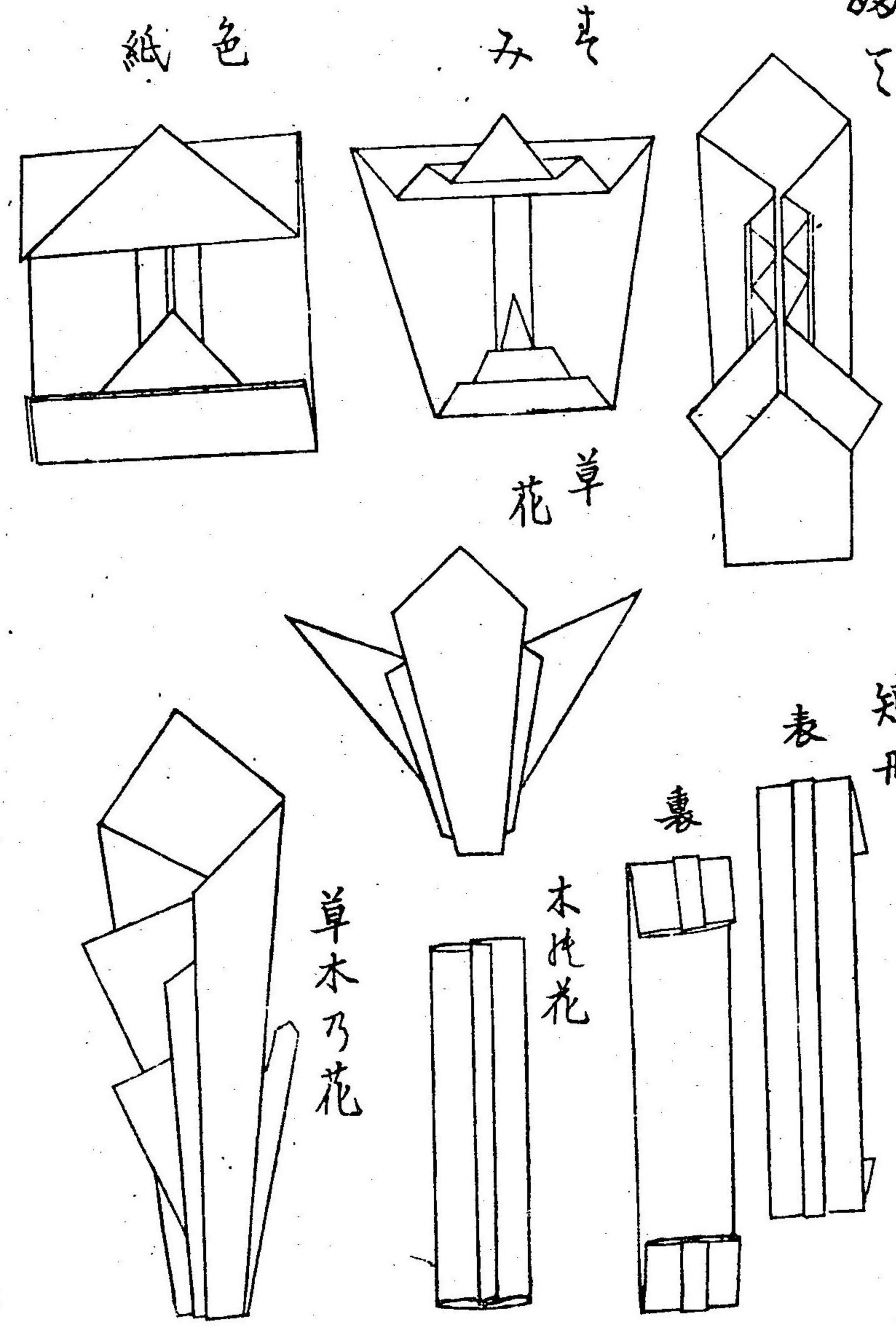


物とまひ

巻の巻の巻
 巻の巻の巻
 巻の巻の巻

婦

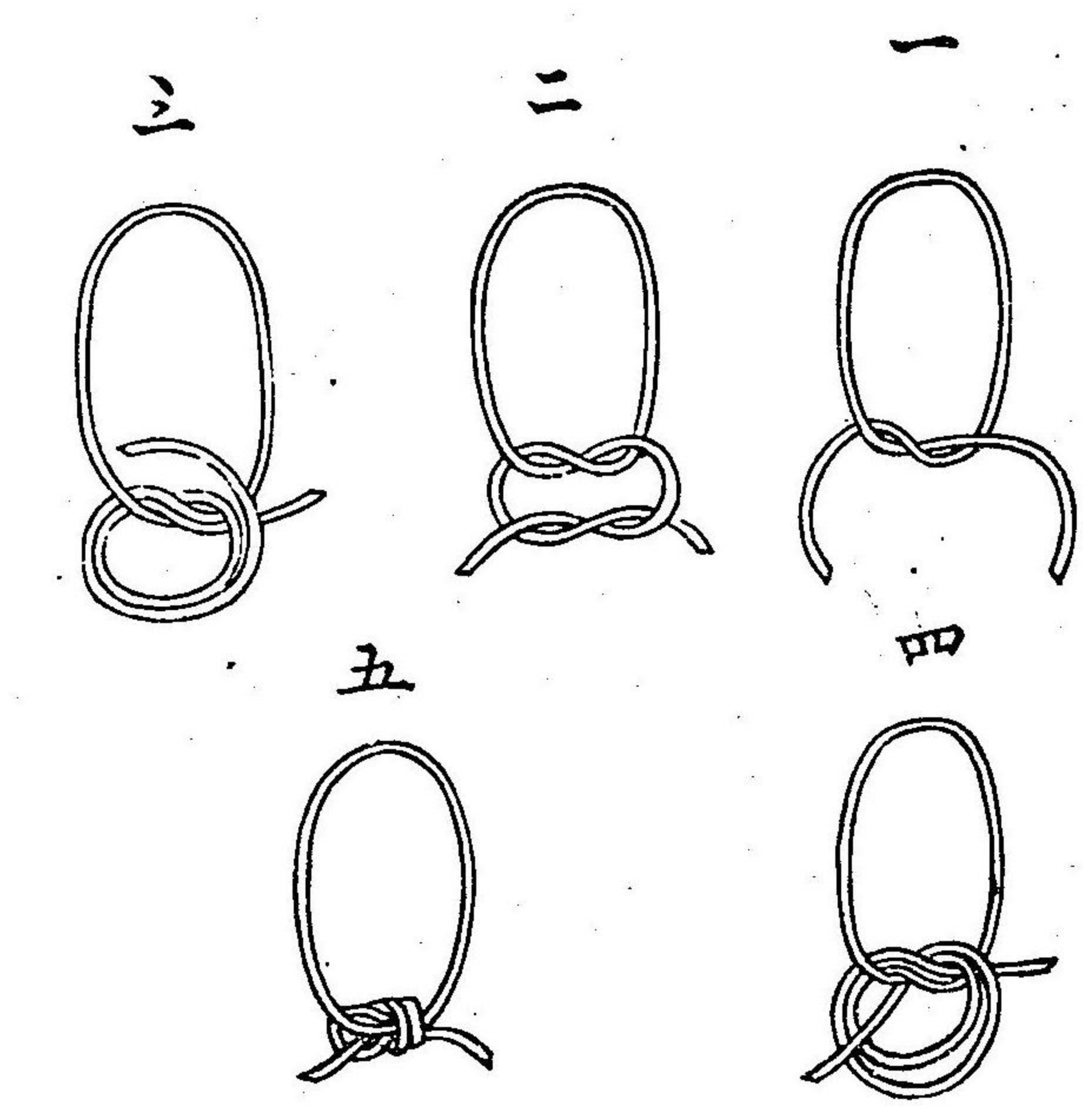
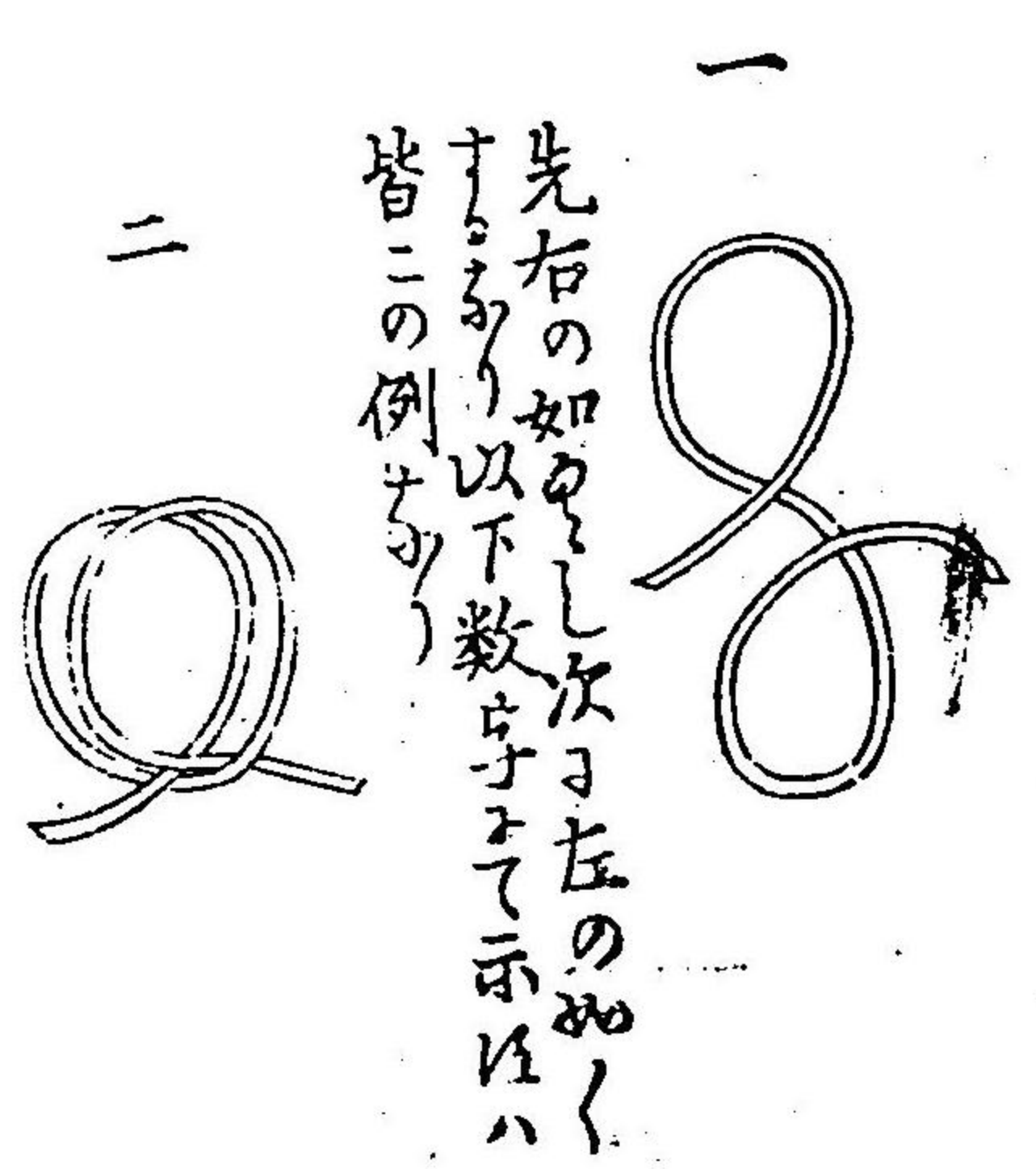
短冊



諸花結方

うのくひ結

或ハハの糸くさしうもまけ
 かしはちりまきれけ
 むまをひふを称ふ



鞭結

先右の如くし次に左の如く
 すまをり以下数字まで示はハ
 皆この例ナリ

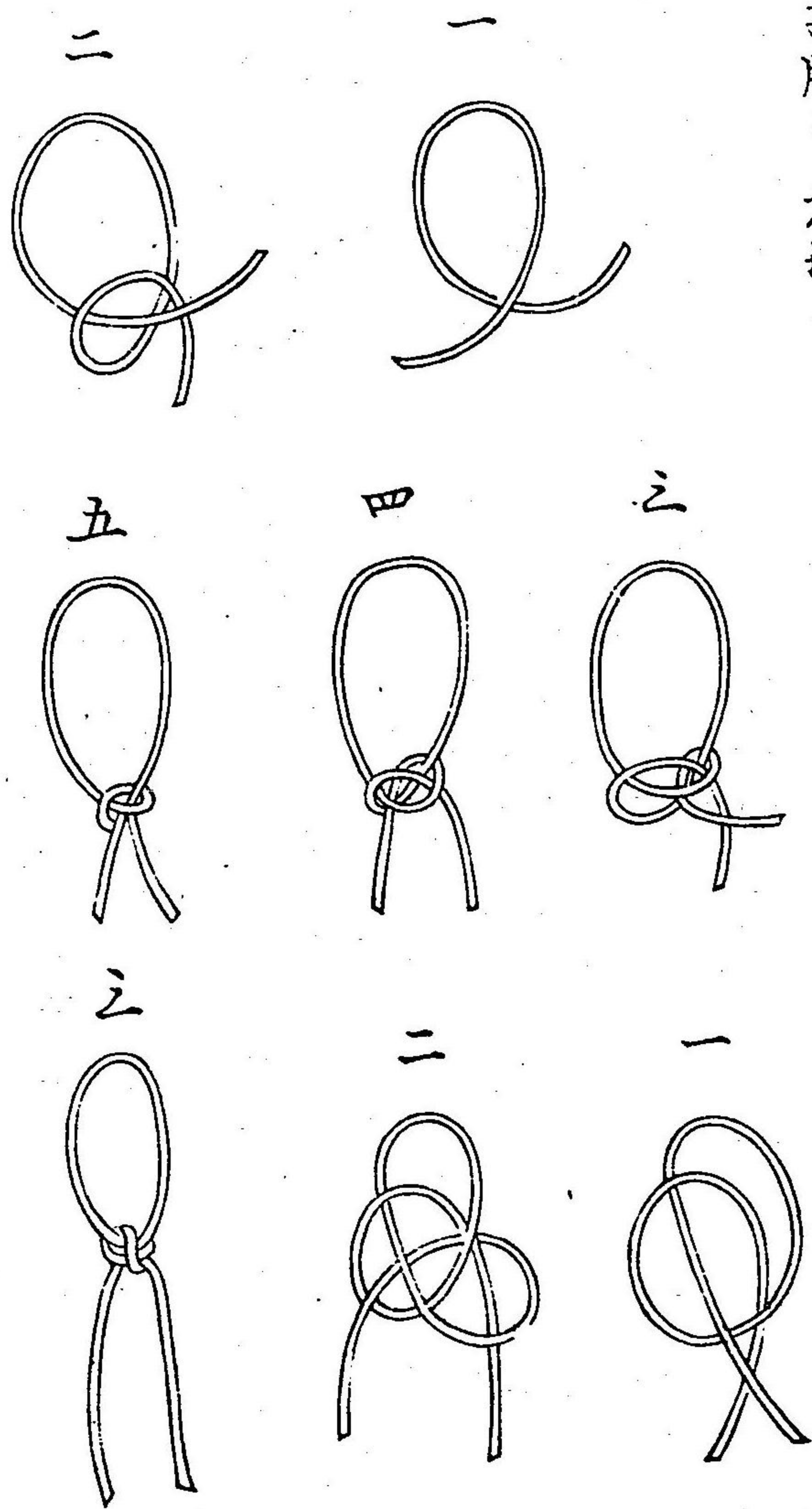
巻の巻の巻

巻の巻の巻

結のしるし
 結のしるし
 結のしるし

男のしるし
 又真のしるし
 以ては難ふと結ふ
 時子用む者取む

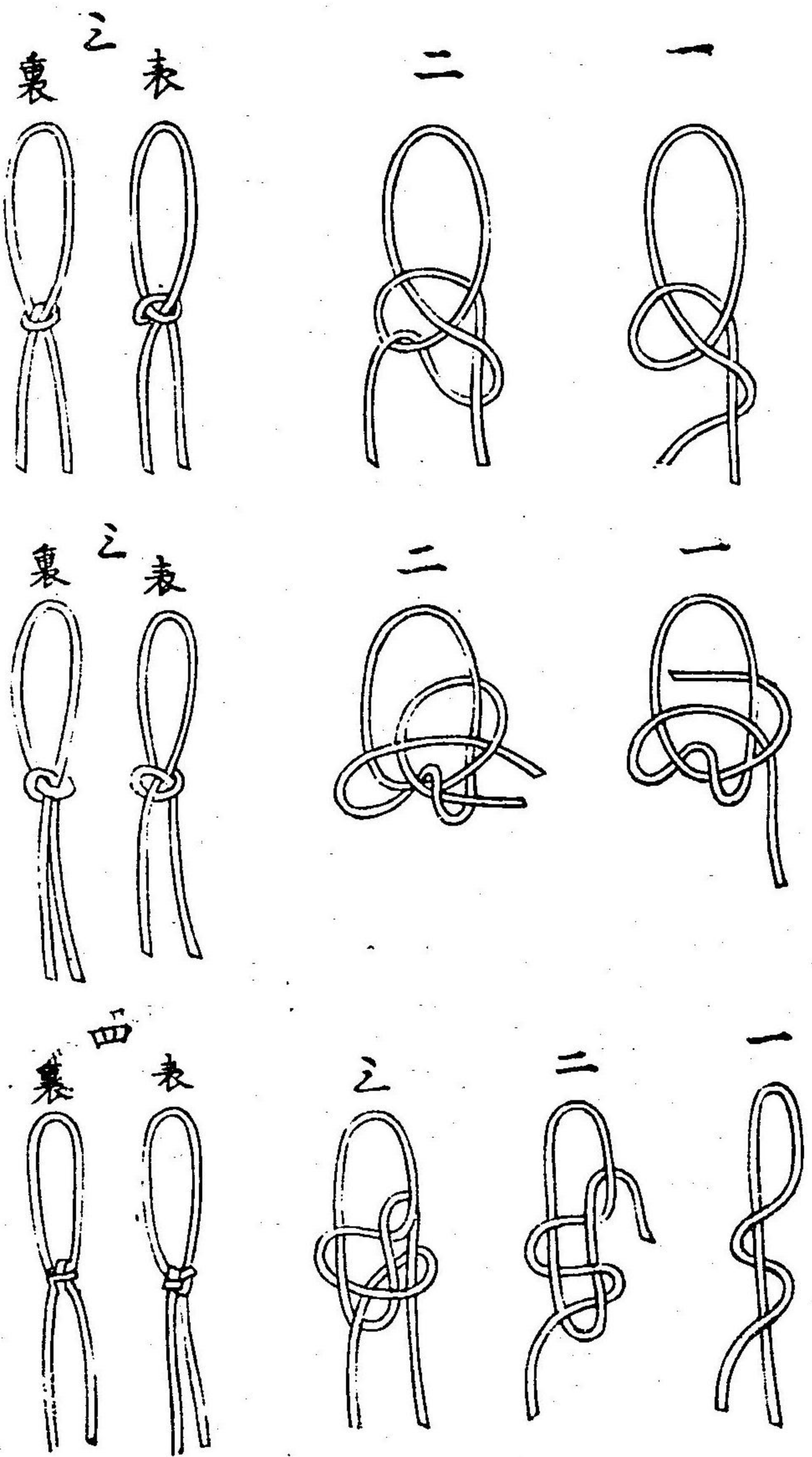
諸のしるし



鳥化のしるし

くまのしるし

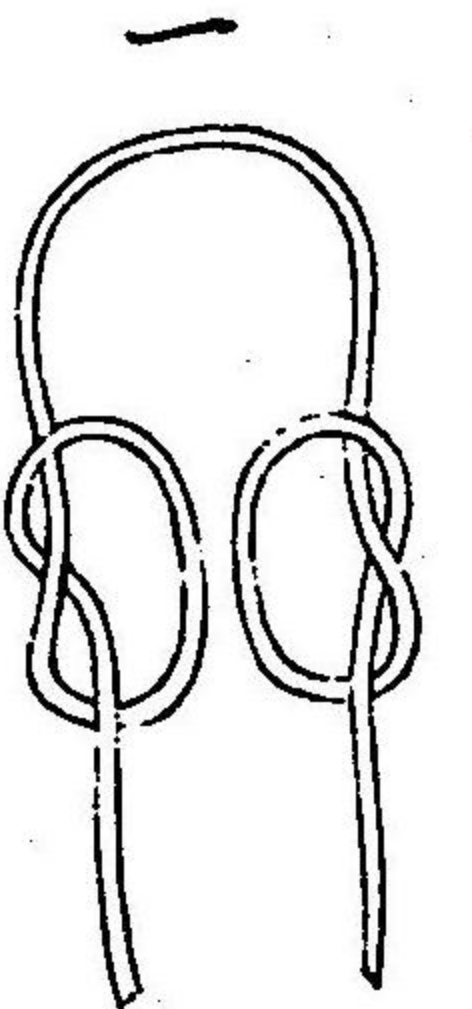
叶ふのしるし



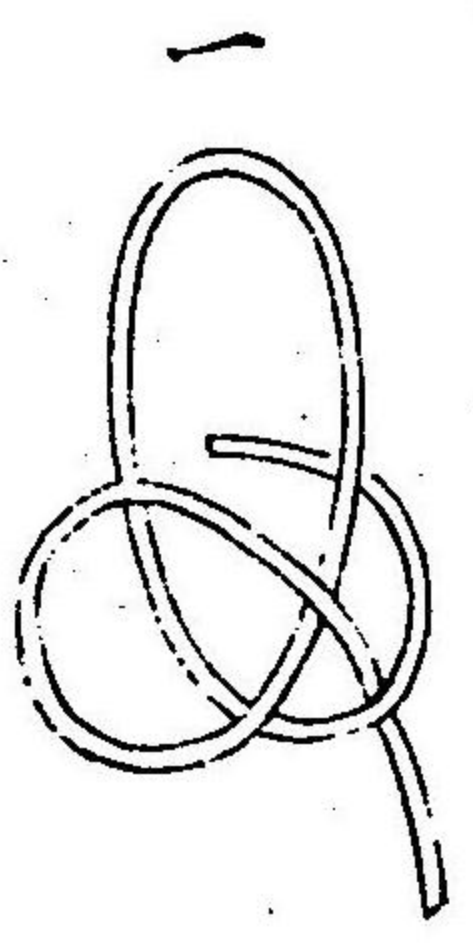
六のしるし
 七のしるし
 八のしるし

五の結び
 五の結び
 五の結び

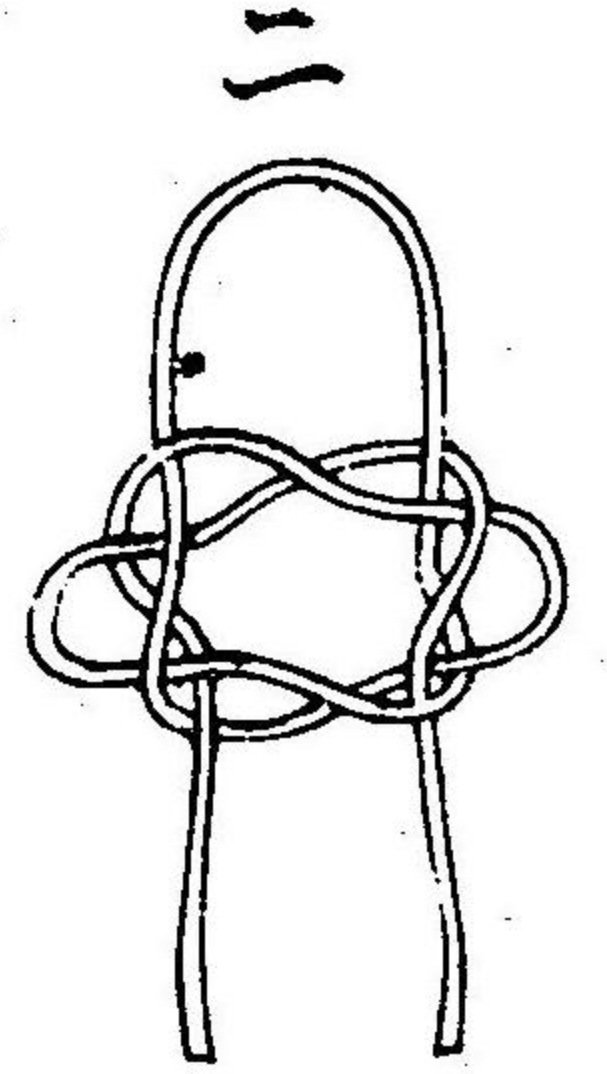
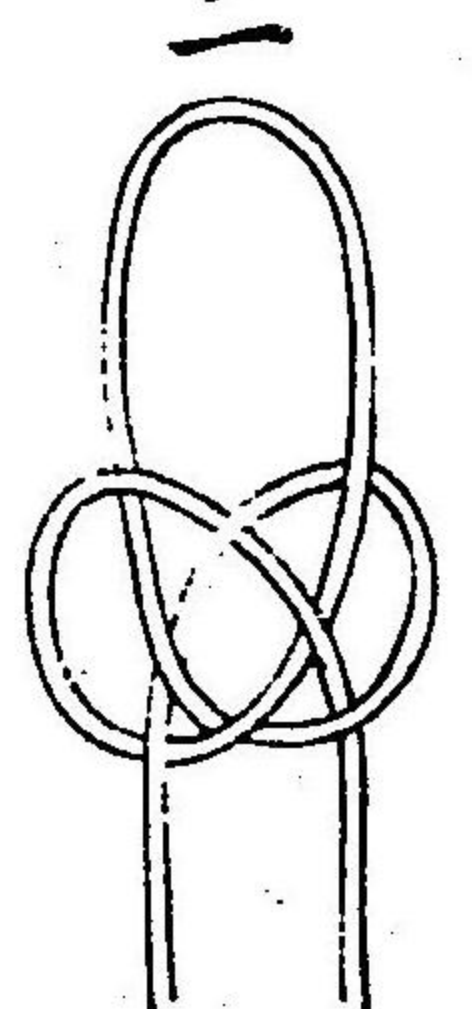
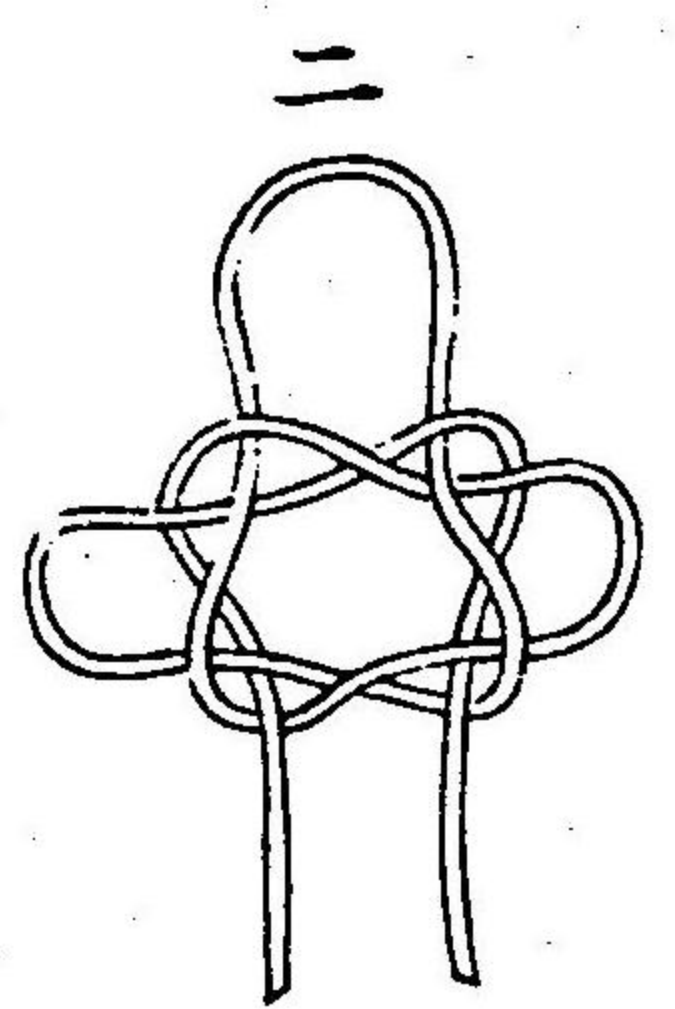
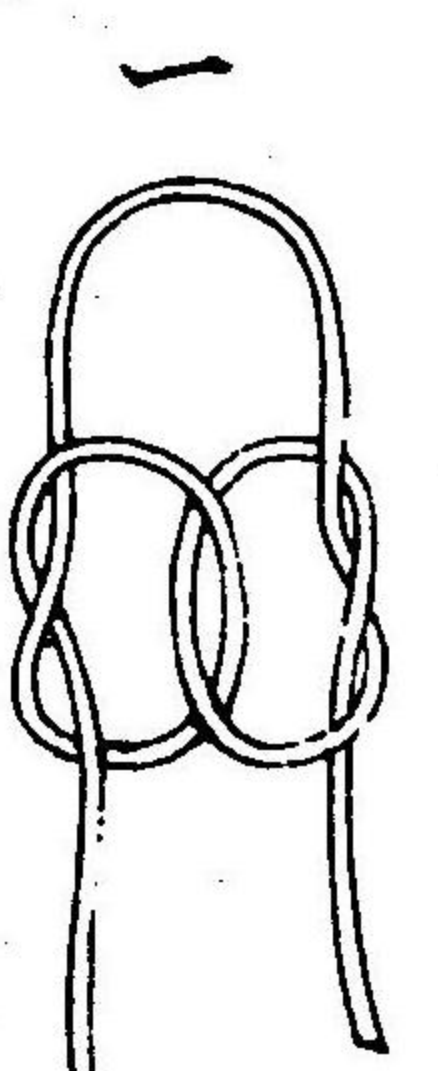
かけ帯むすび



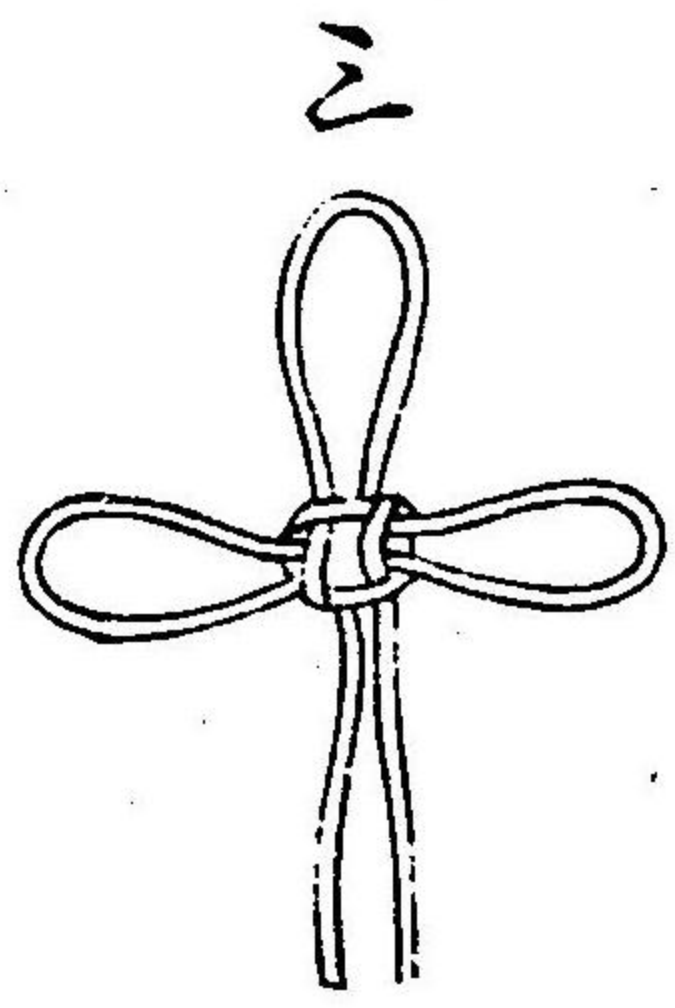
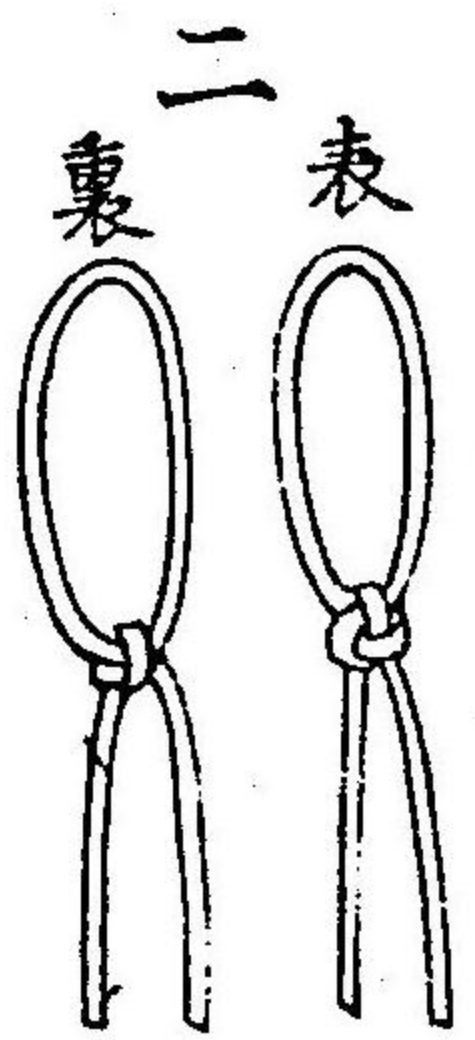
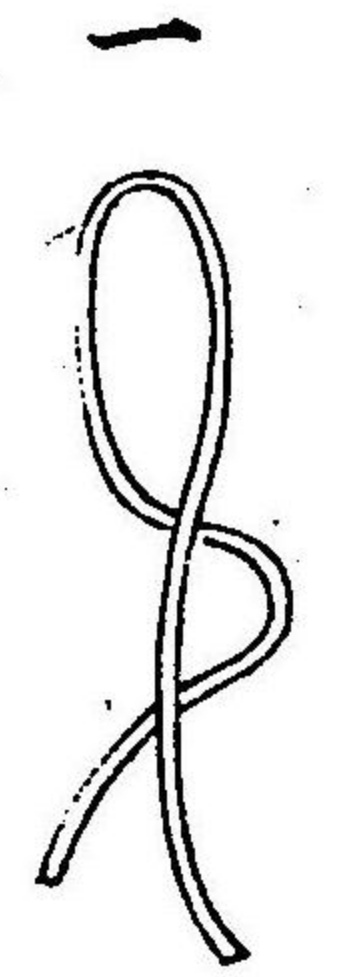
阿多むすび



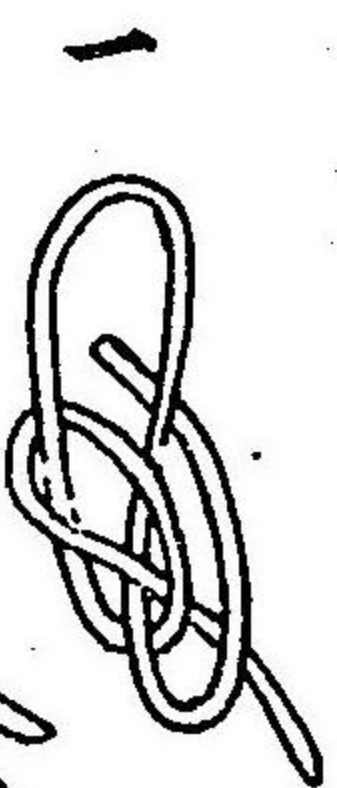
阿多むすび



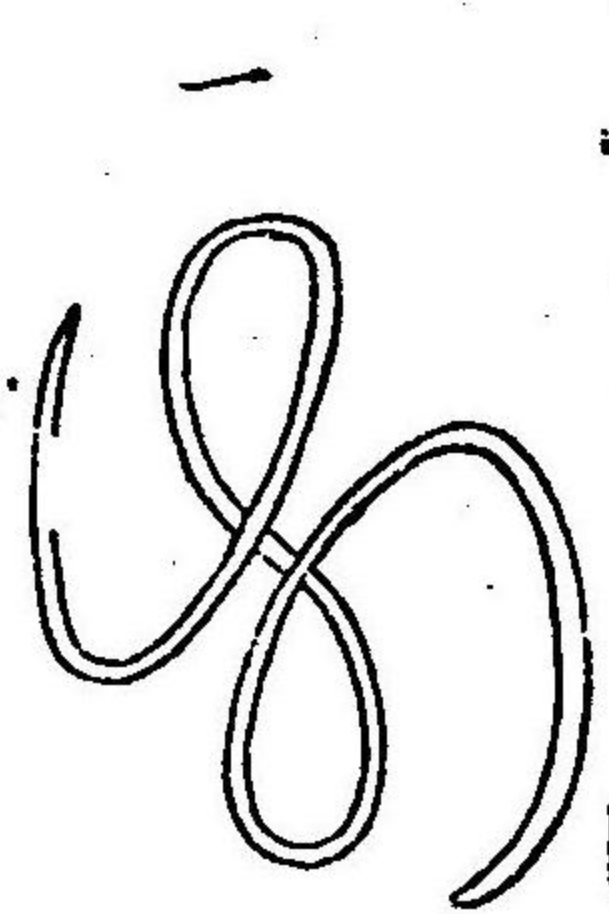
五行結



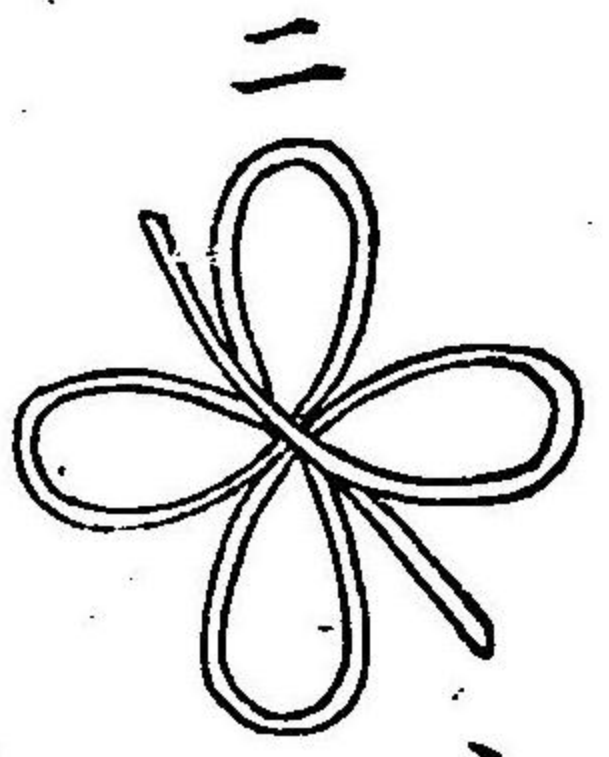
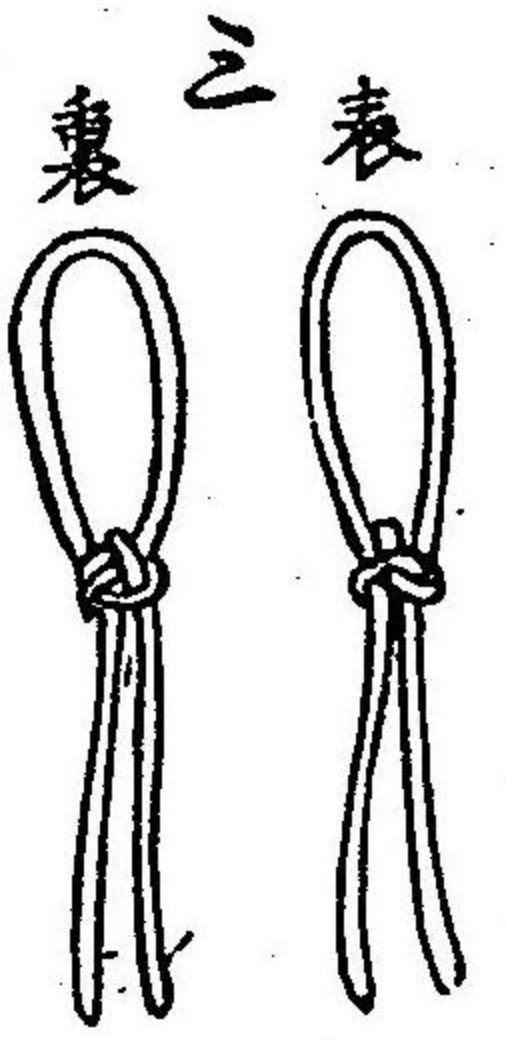
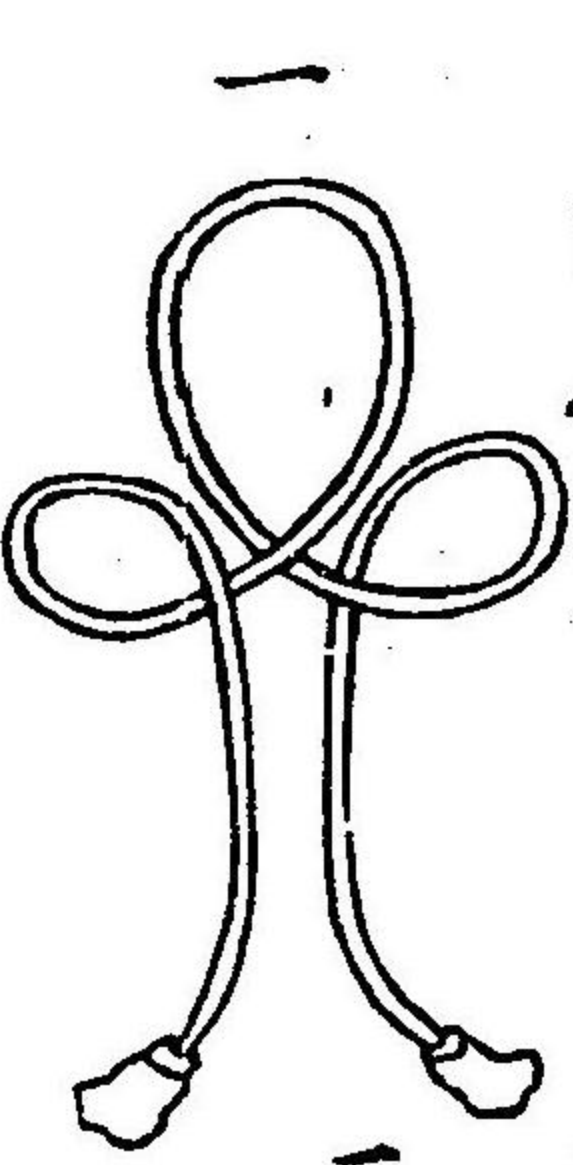
麻結



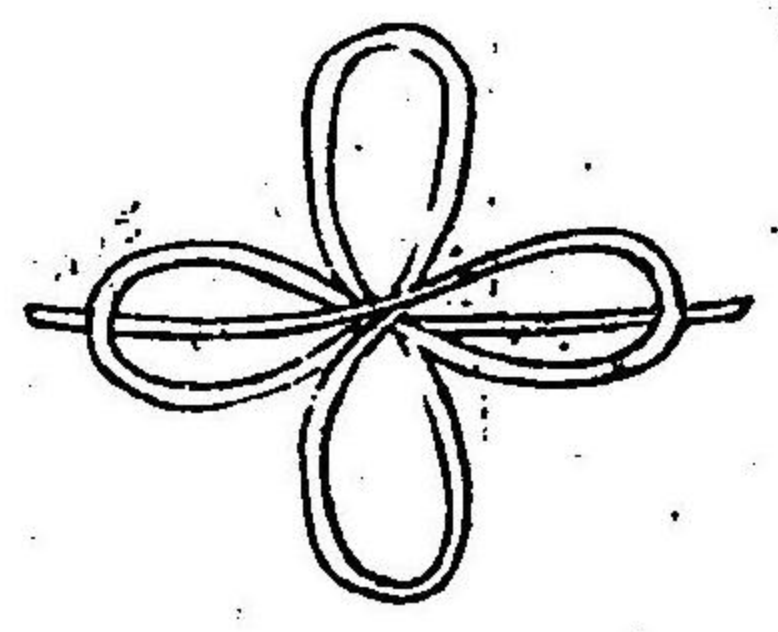
もろむすび



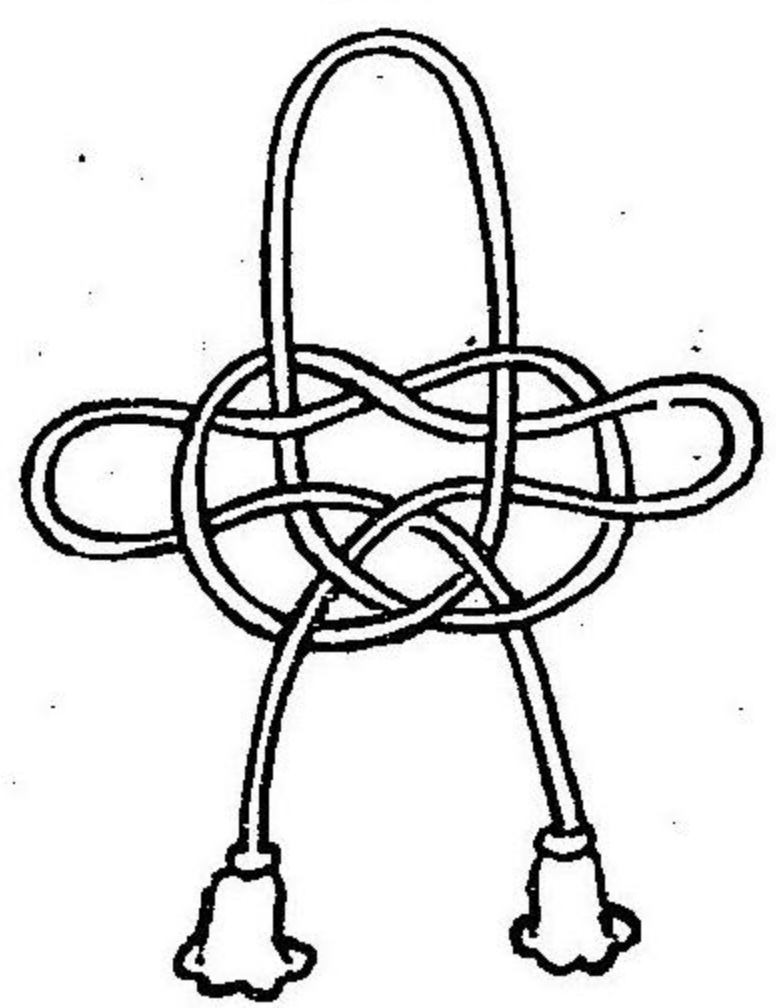
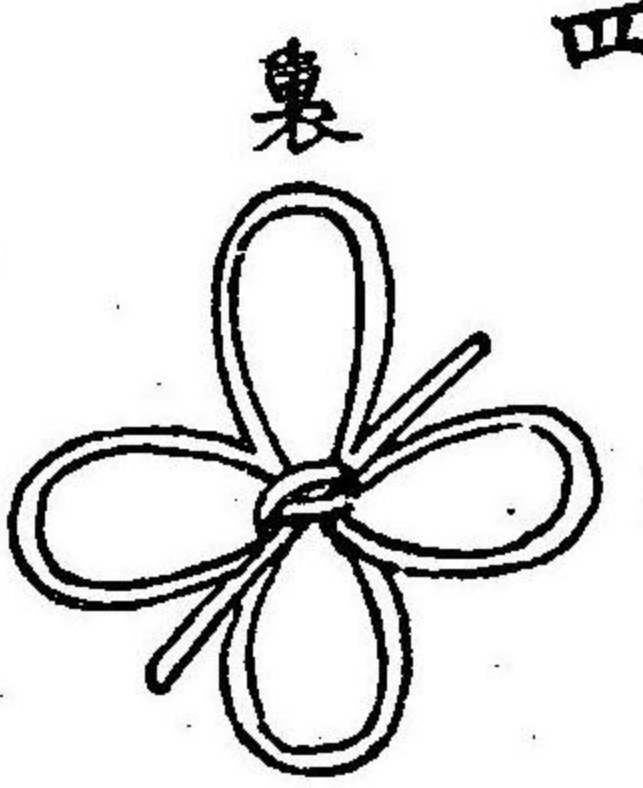
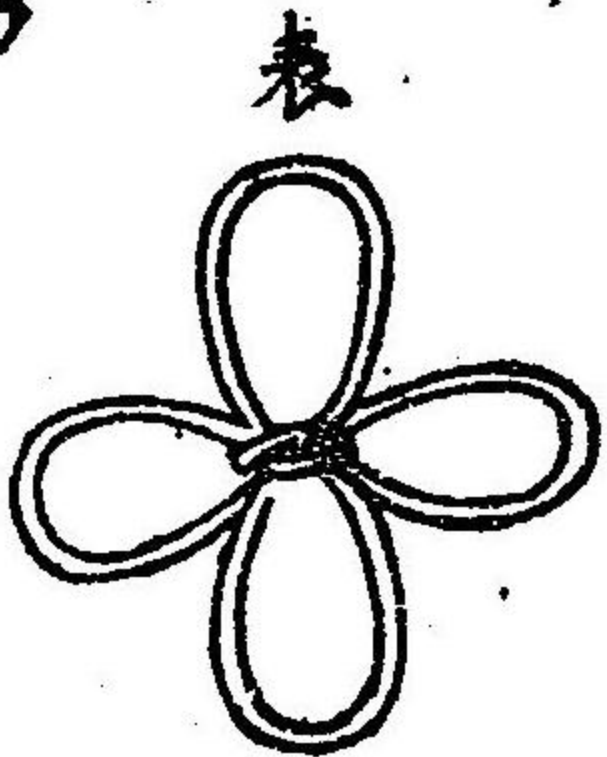
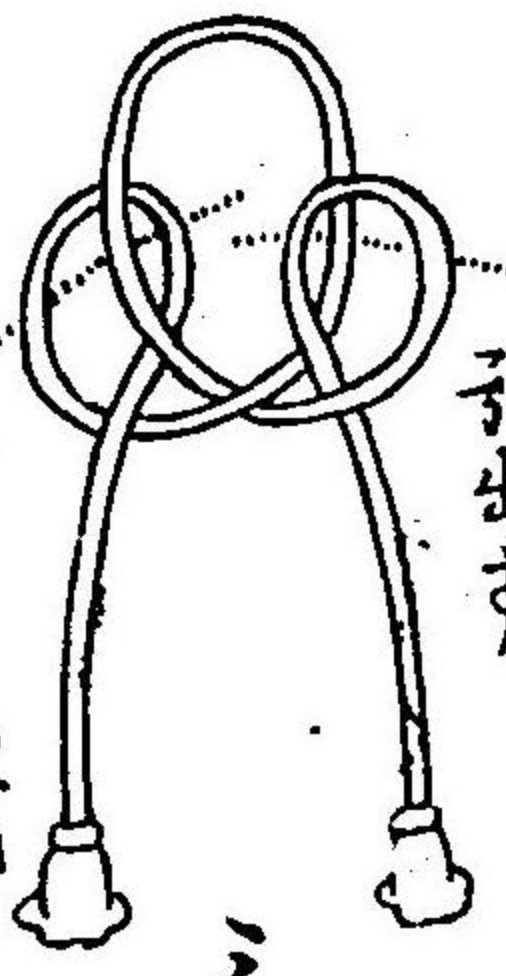
きつむすび



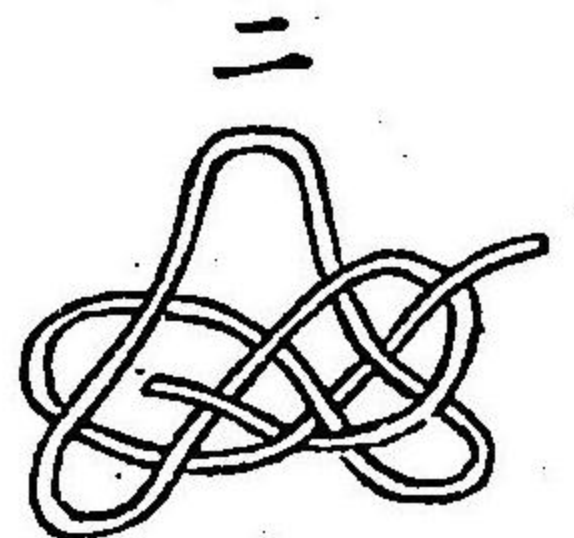
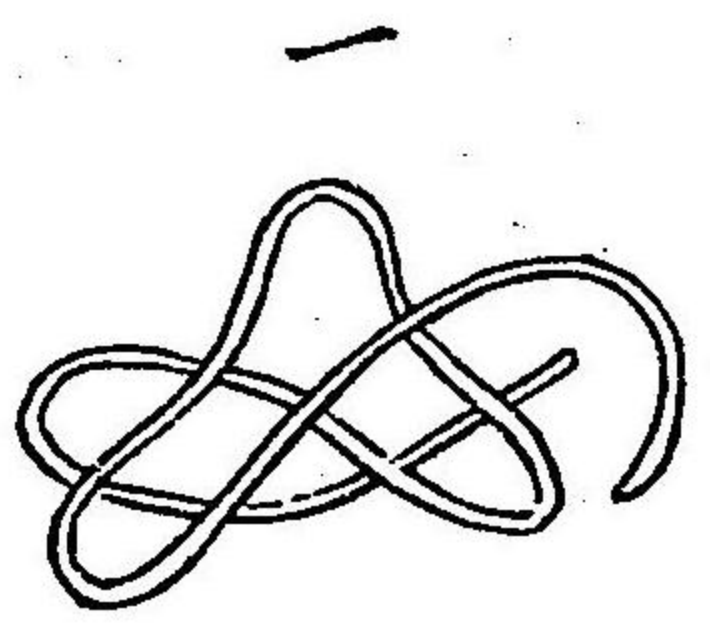
左の足は
引出す



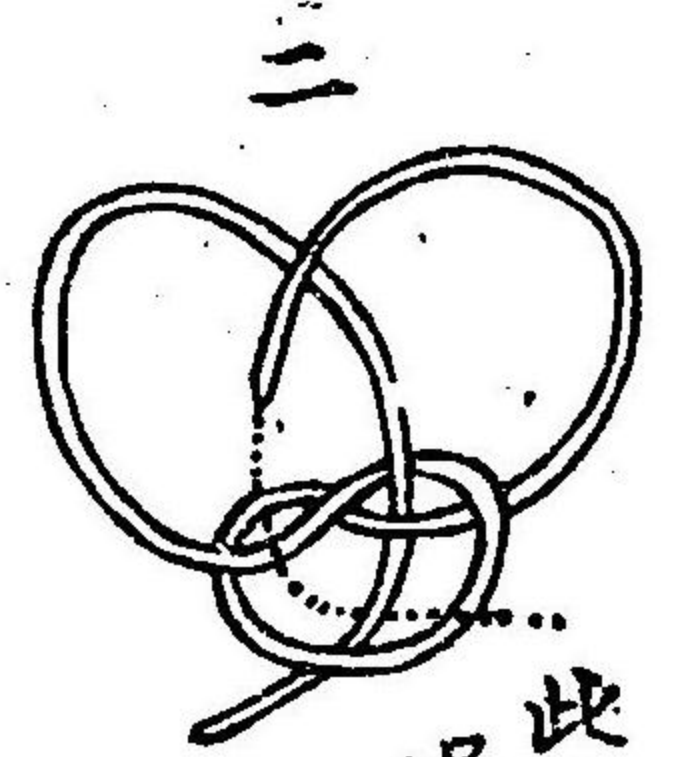
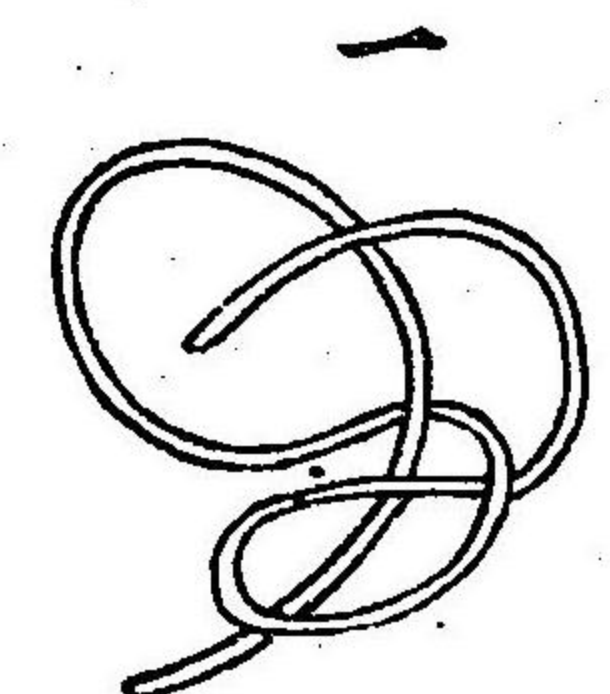
右の足は
引出す



とらてむすひ

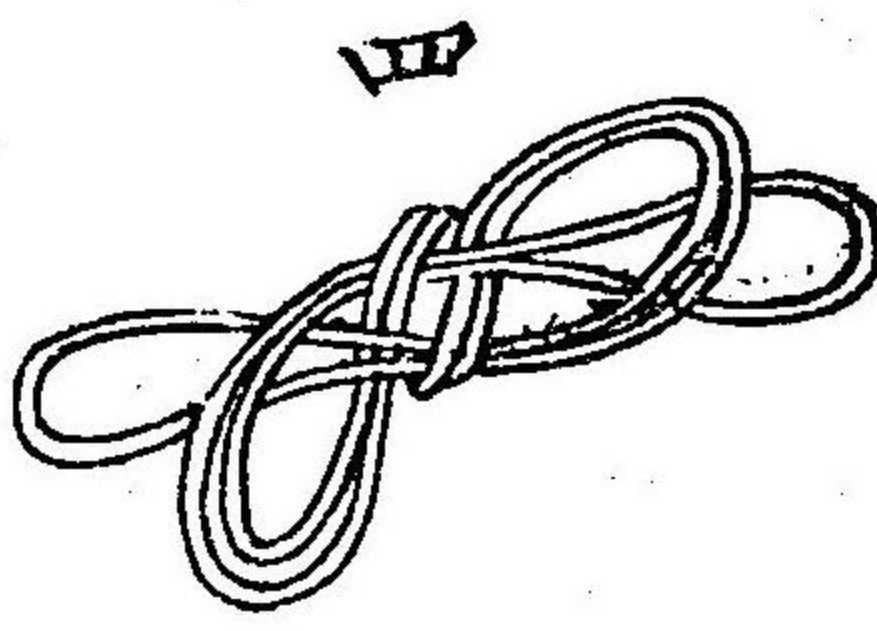
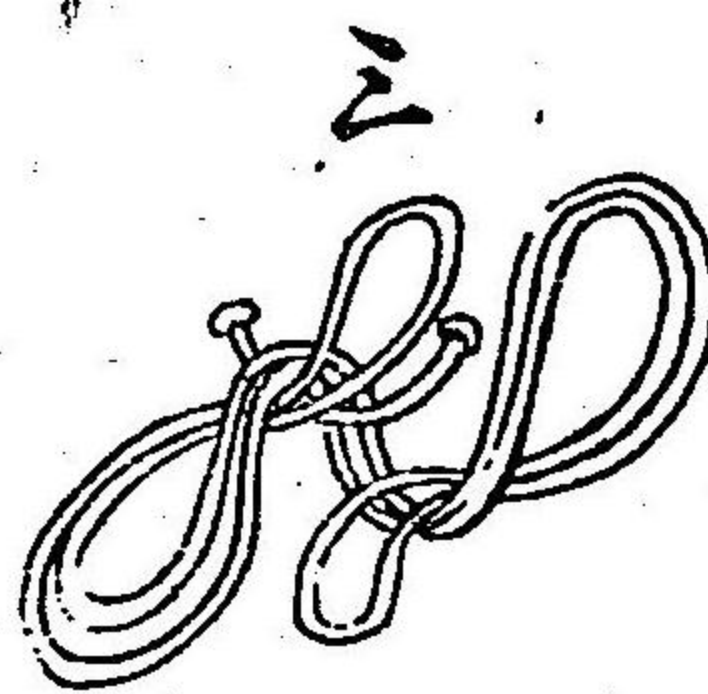
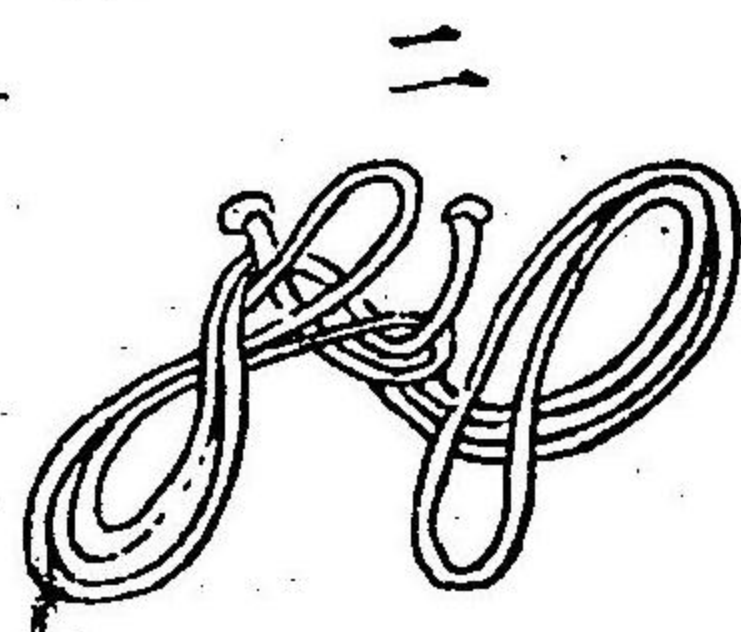
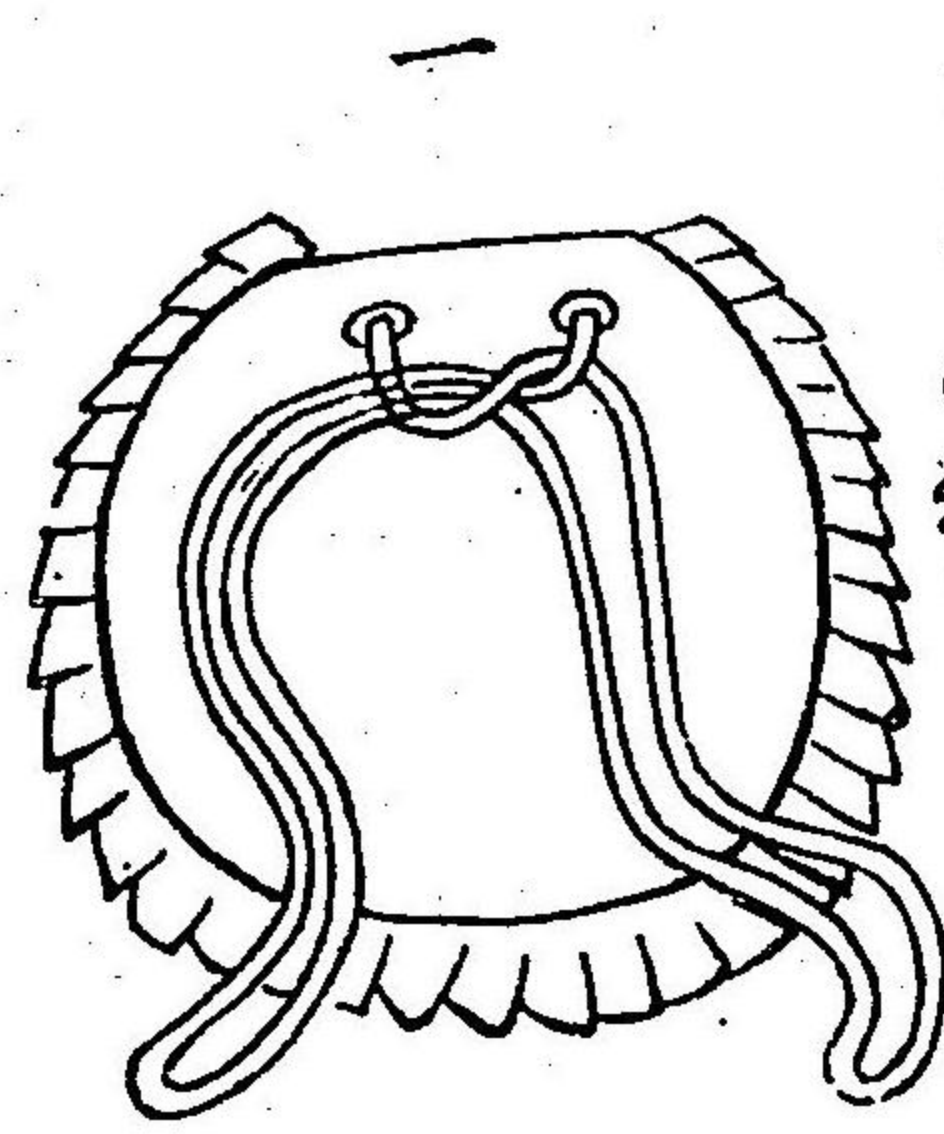


胡蝶結



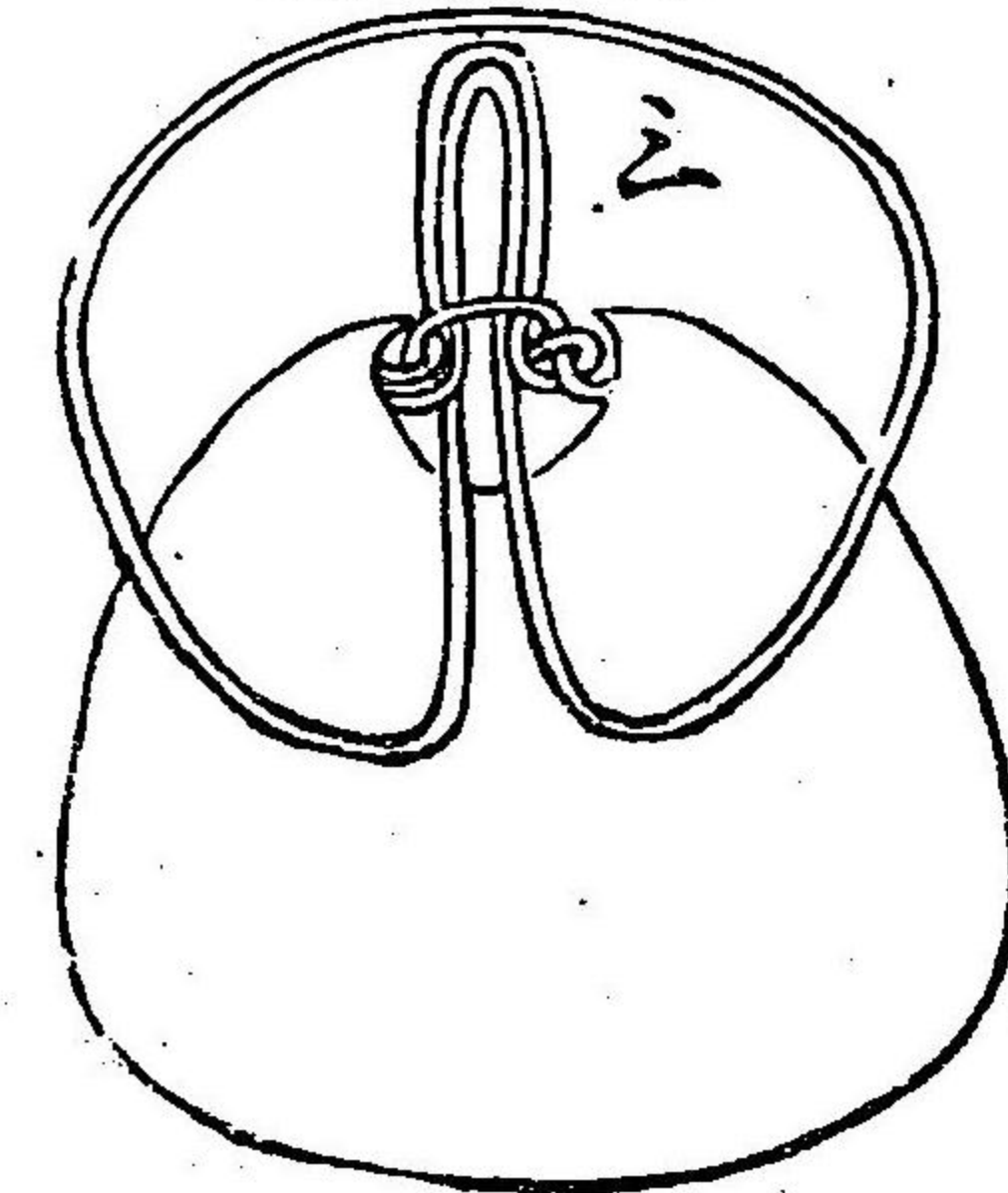
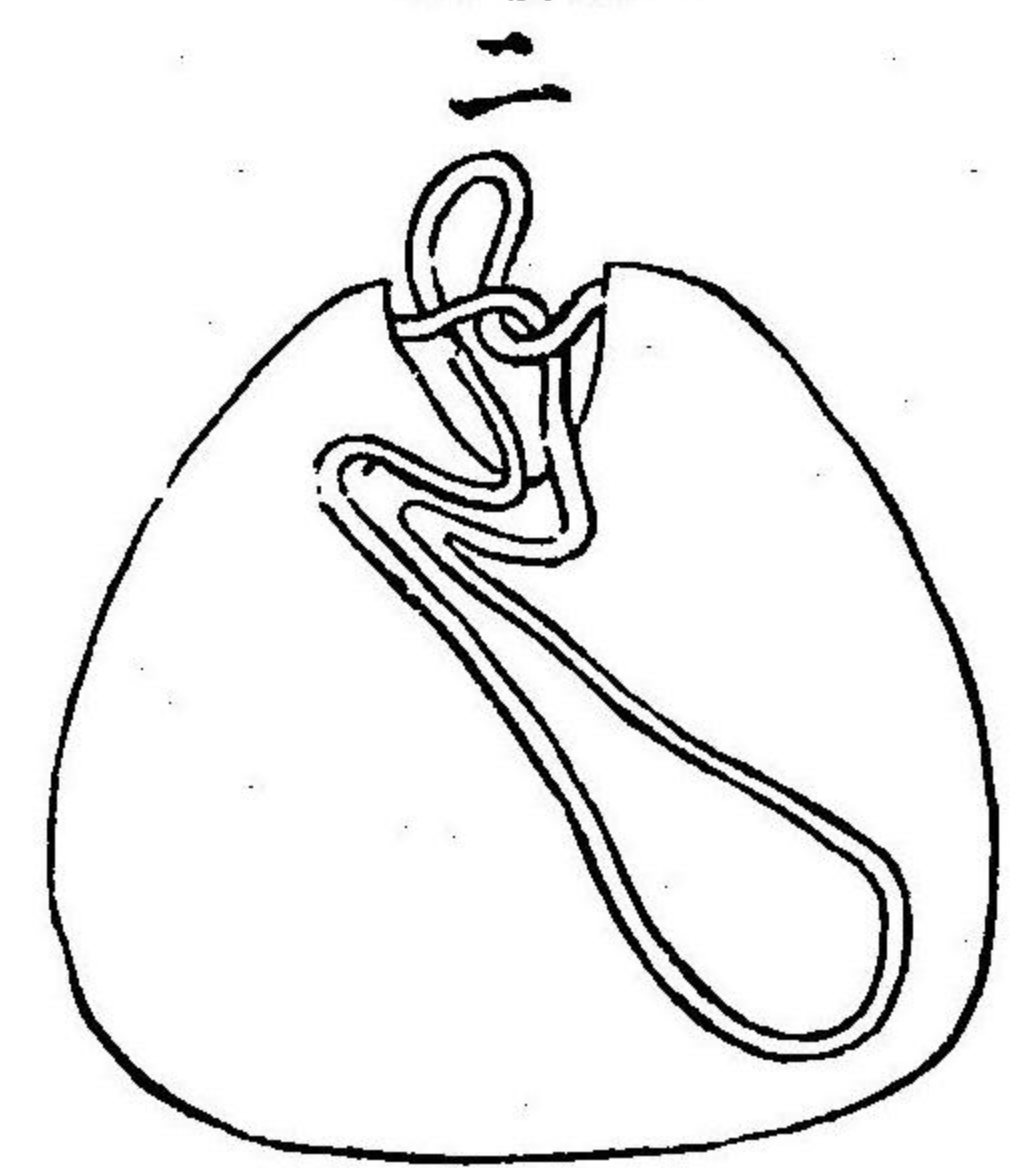
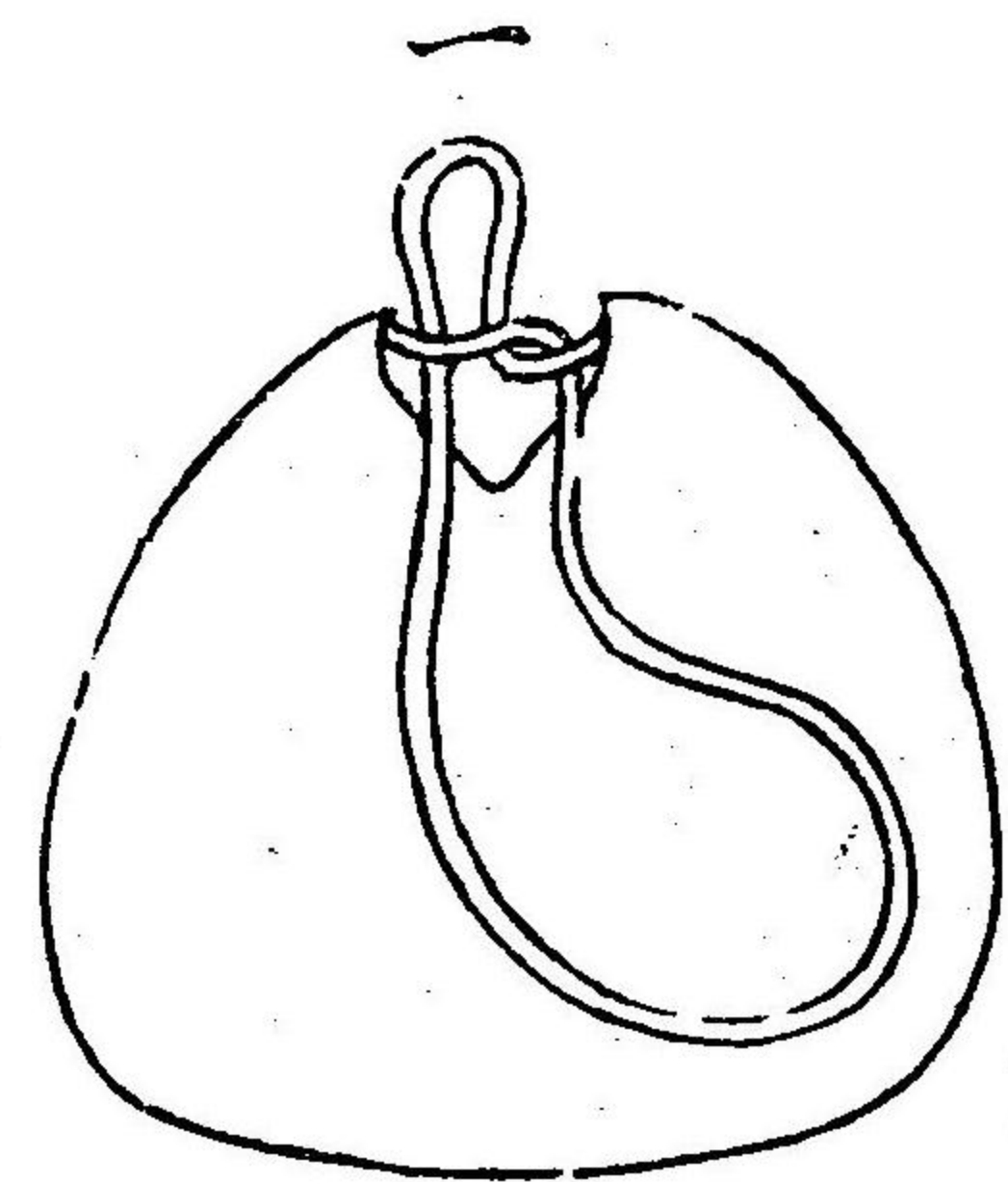
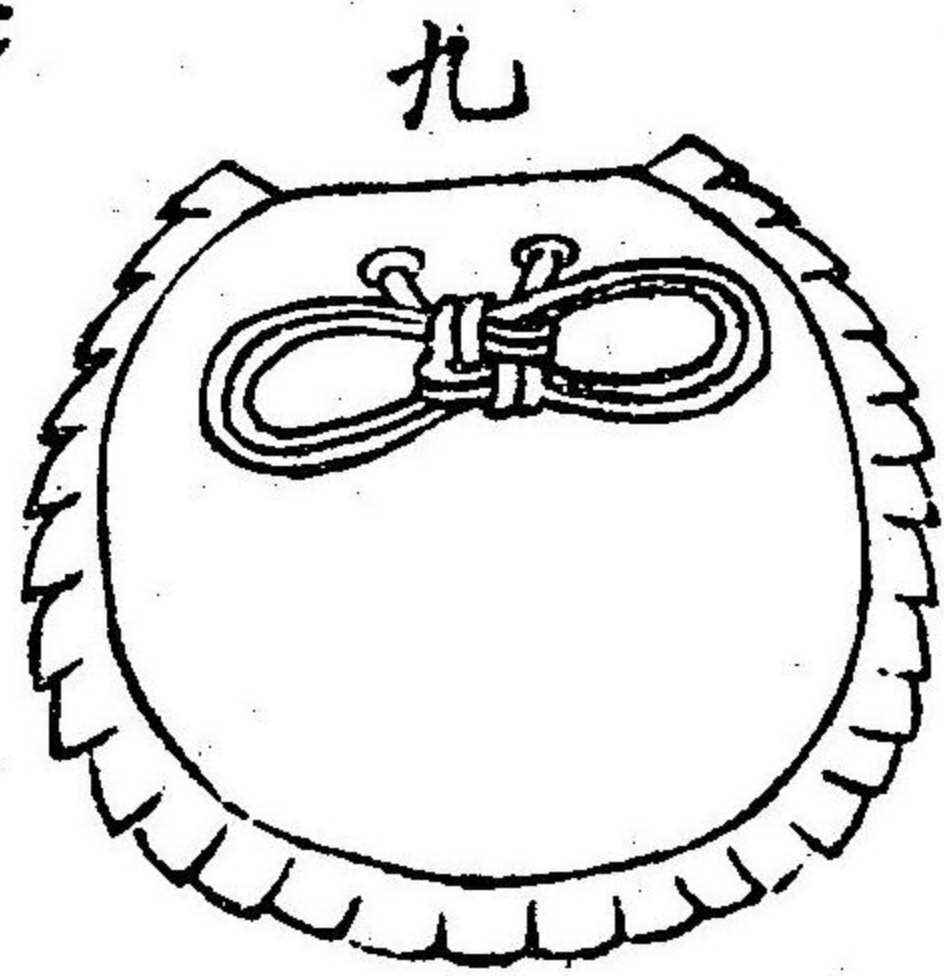
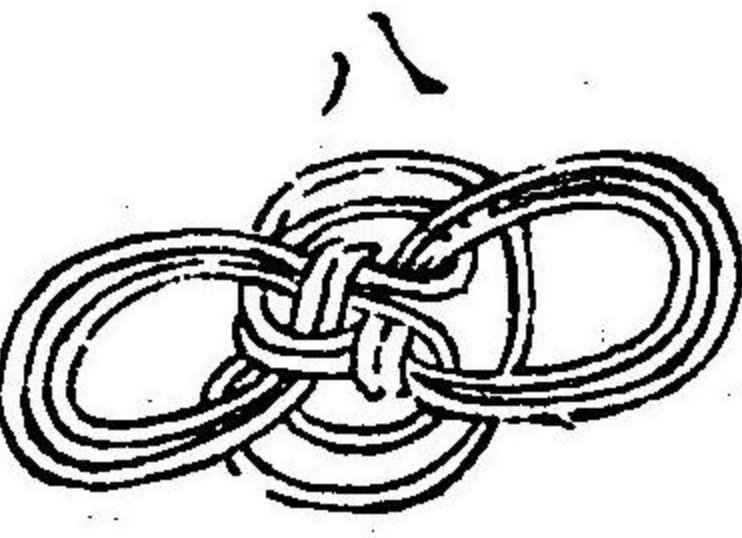
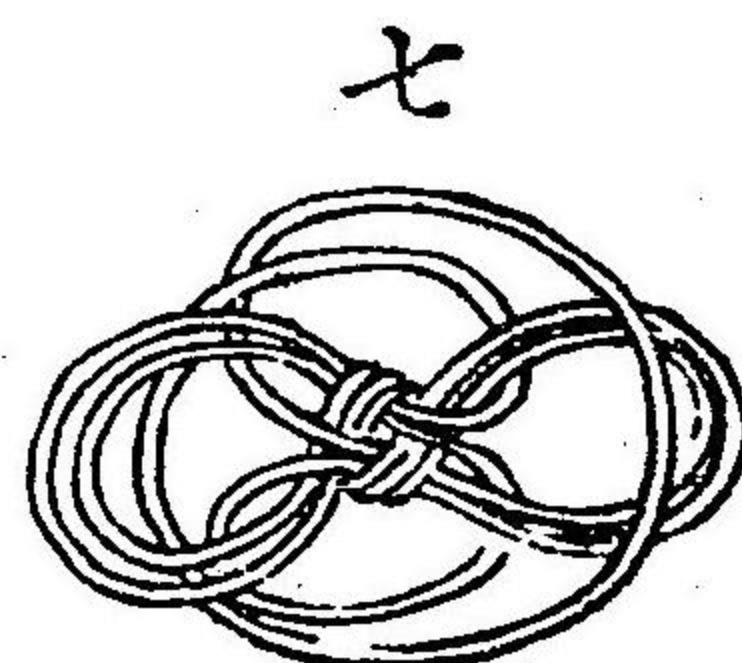
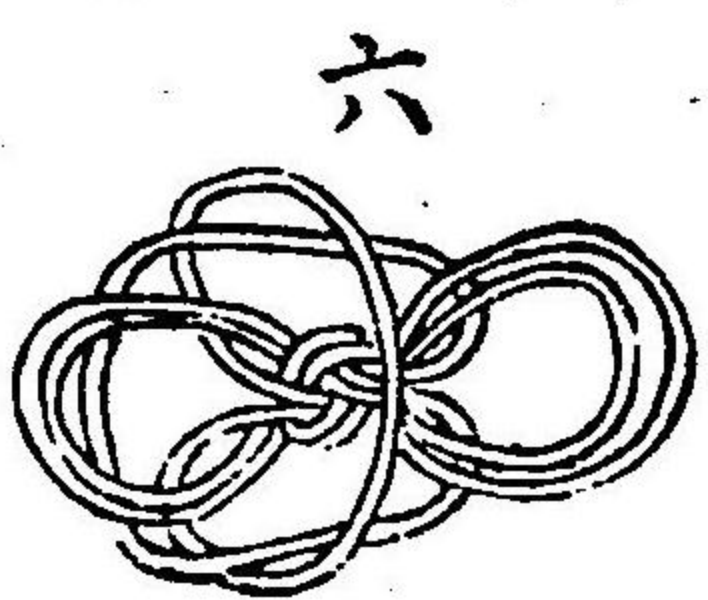
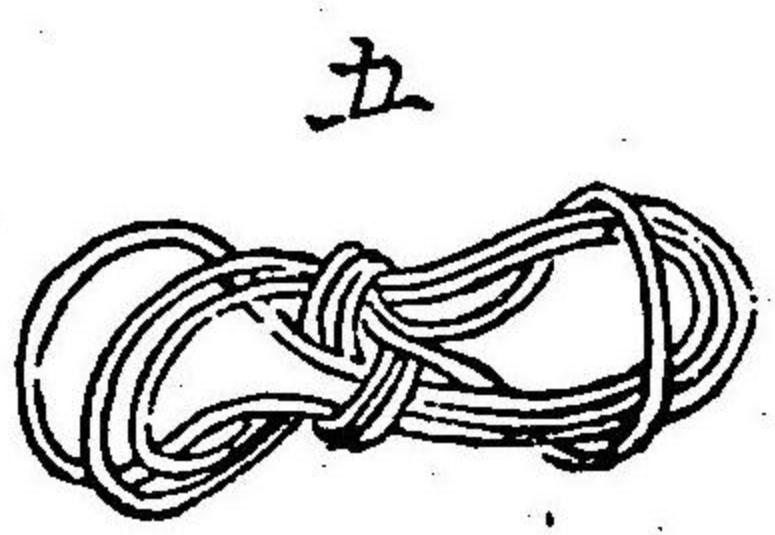
此所を
通して
出次

巾著結



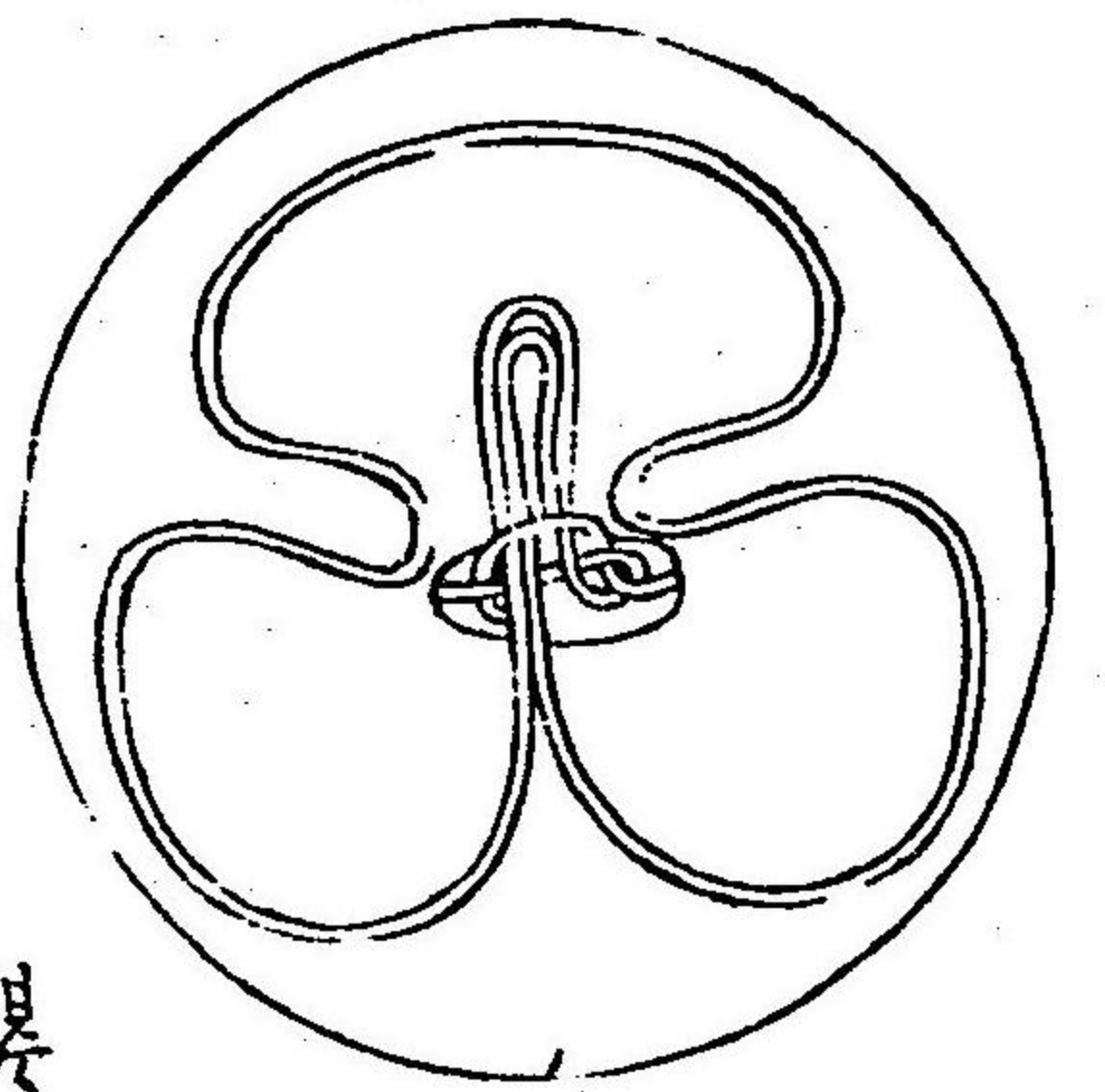
袋乃結

何もかひ子すもこのひは此下結を
志し其上種々結ふべき也



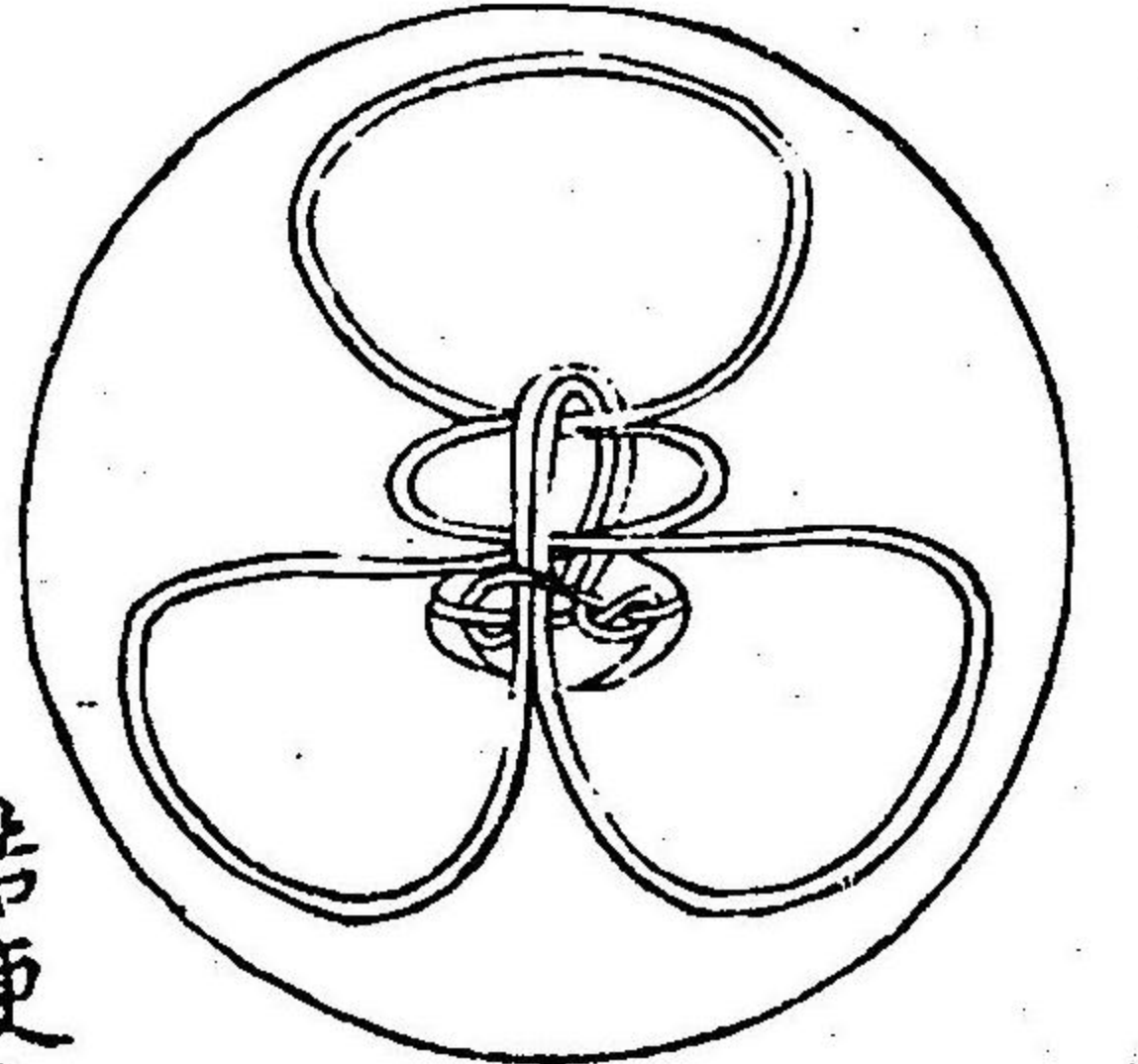
花の形
梅
桜
桔梗

四



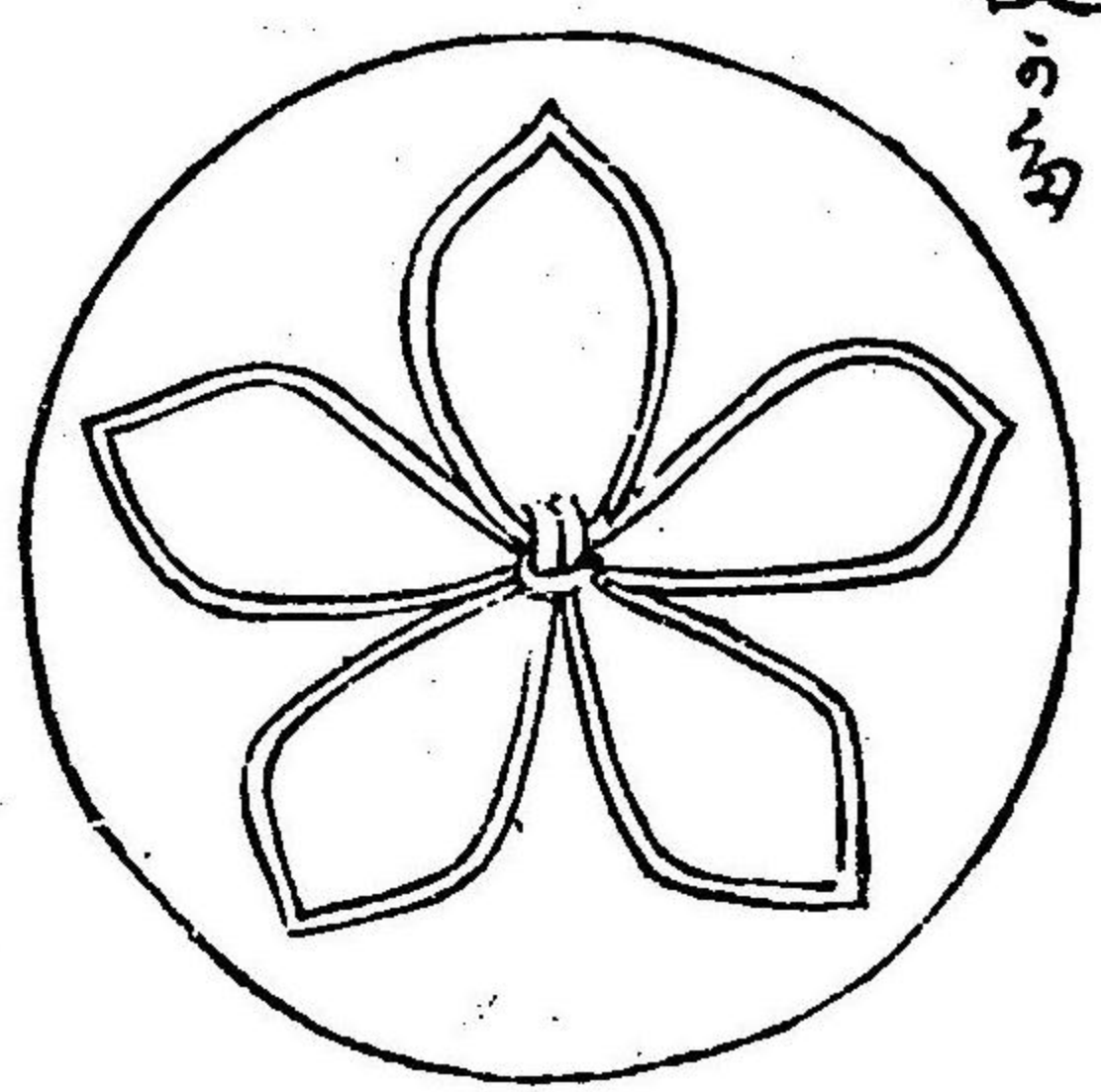
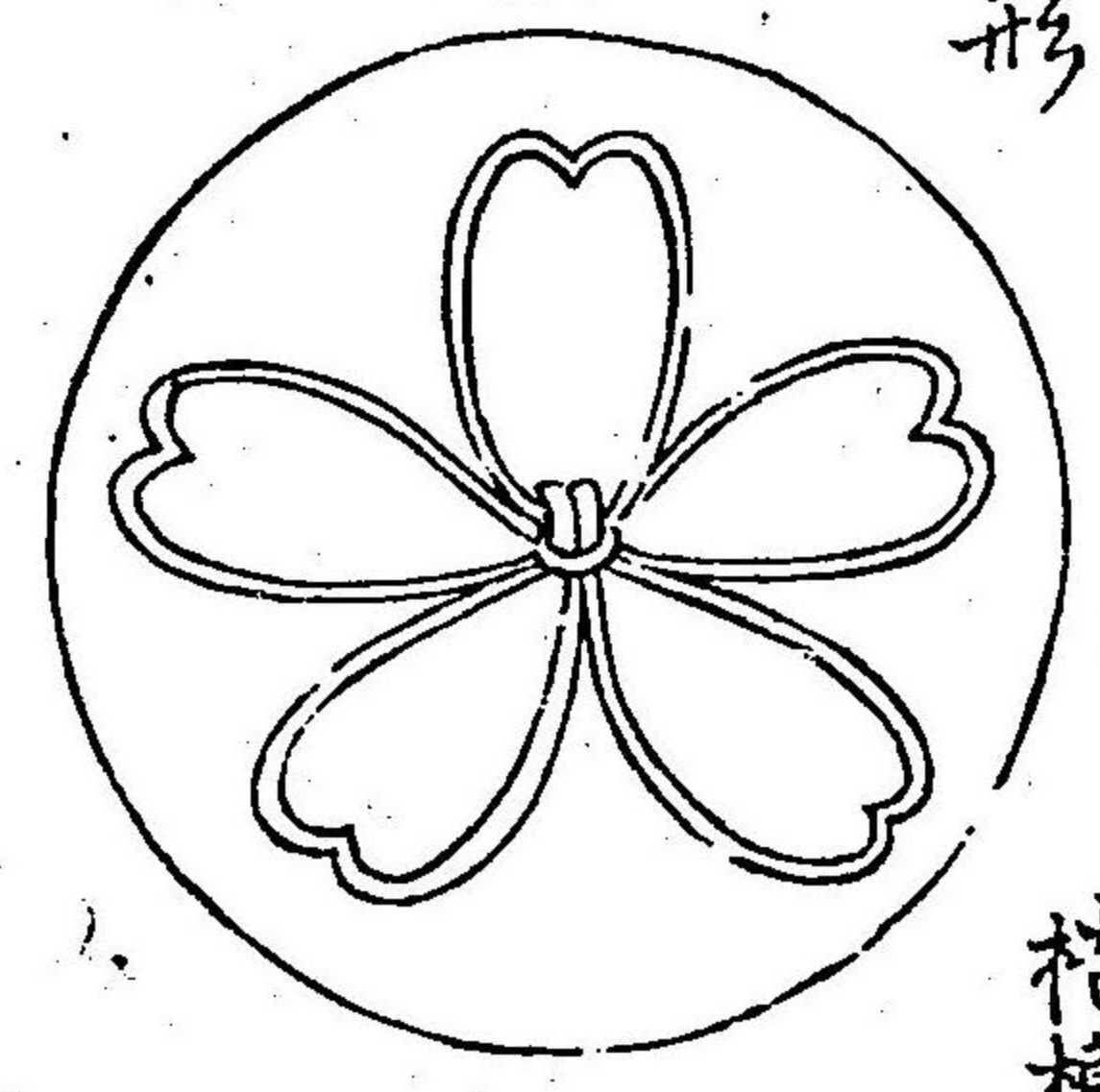
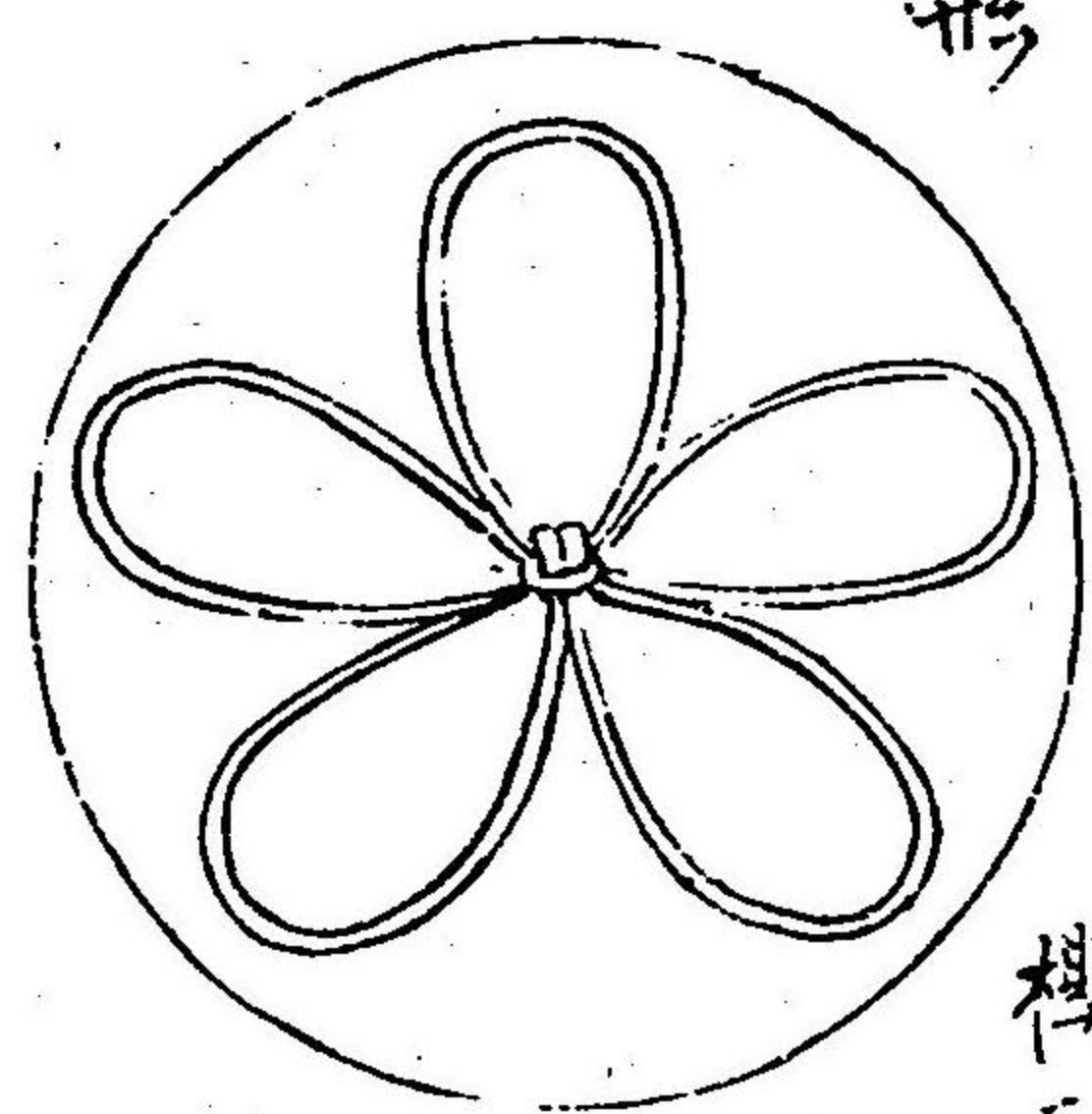
梅形

五



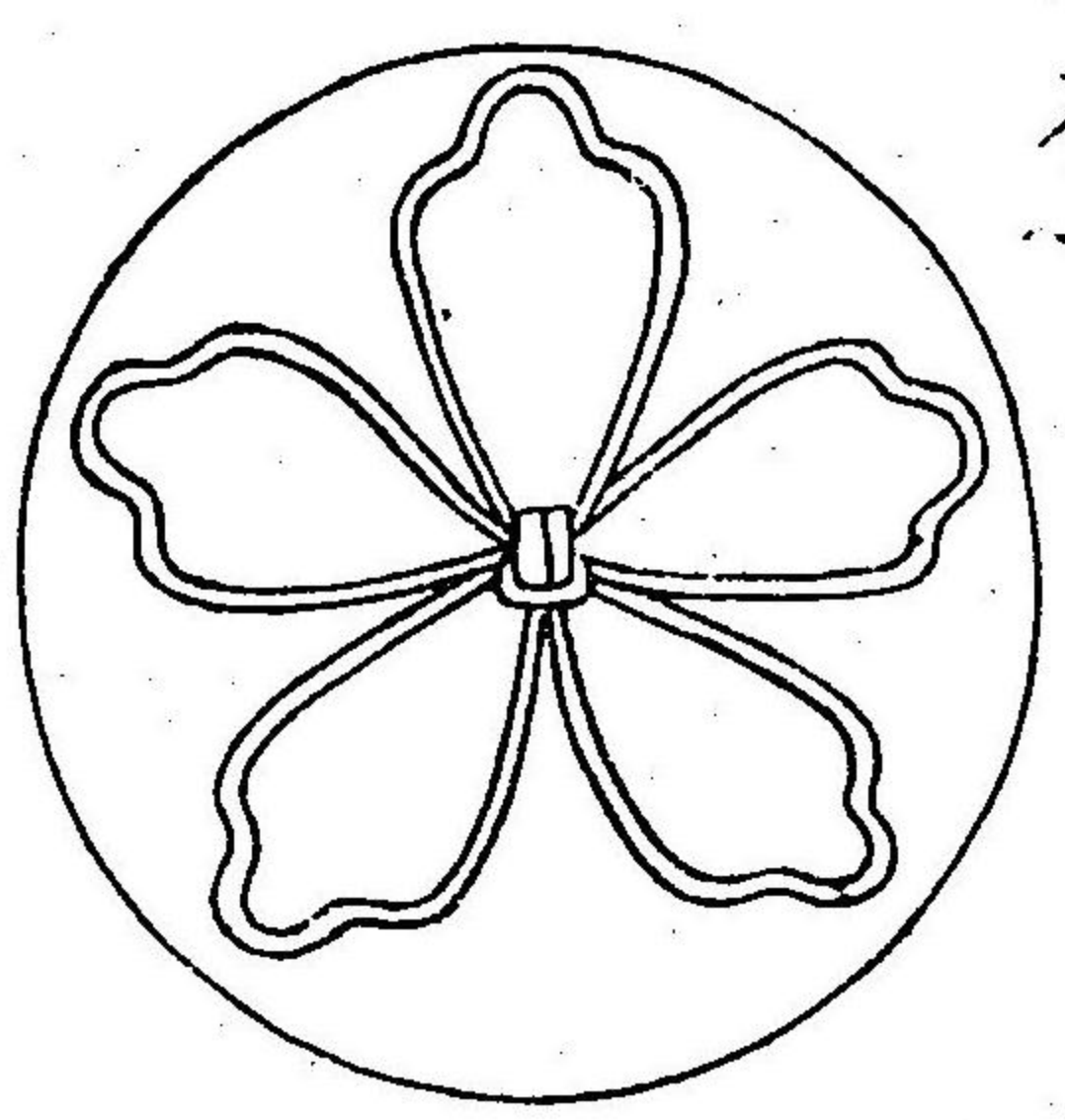
桜形

桔梗の形

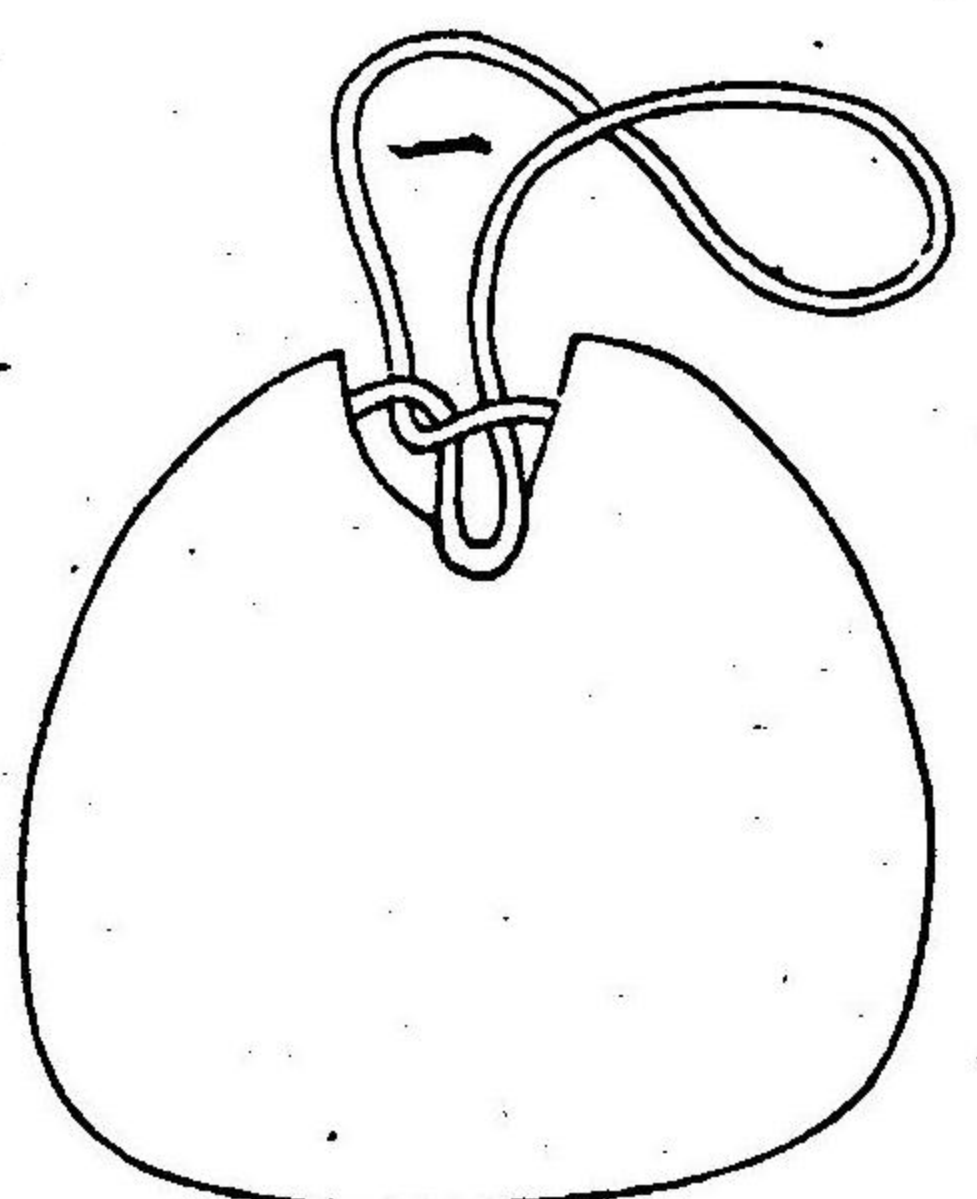


此花如く結ひ下
形を直せば梅櫻
等の花形も形す
るゝまふ

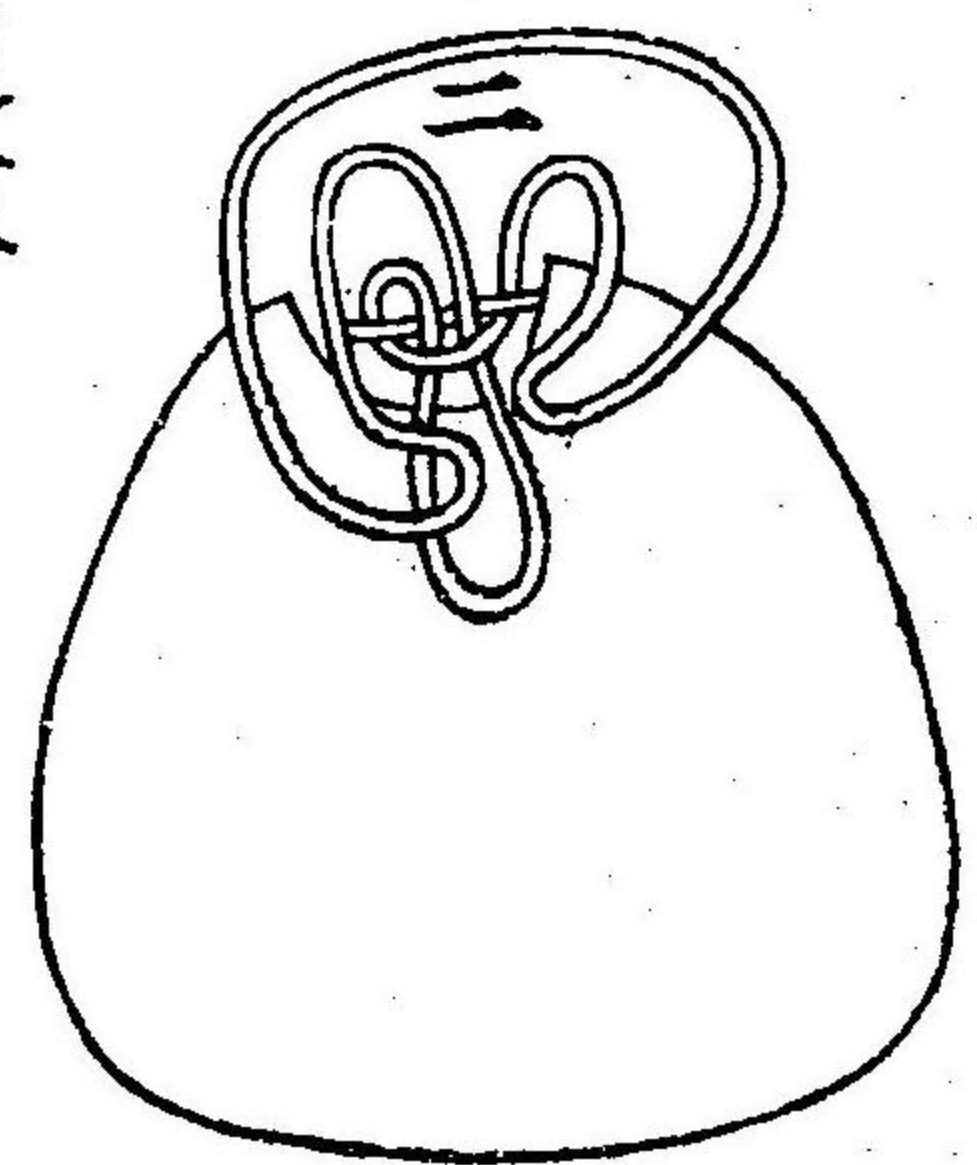
唐花形



三葉酸

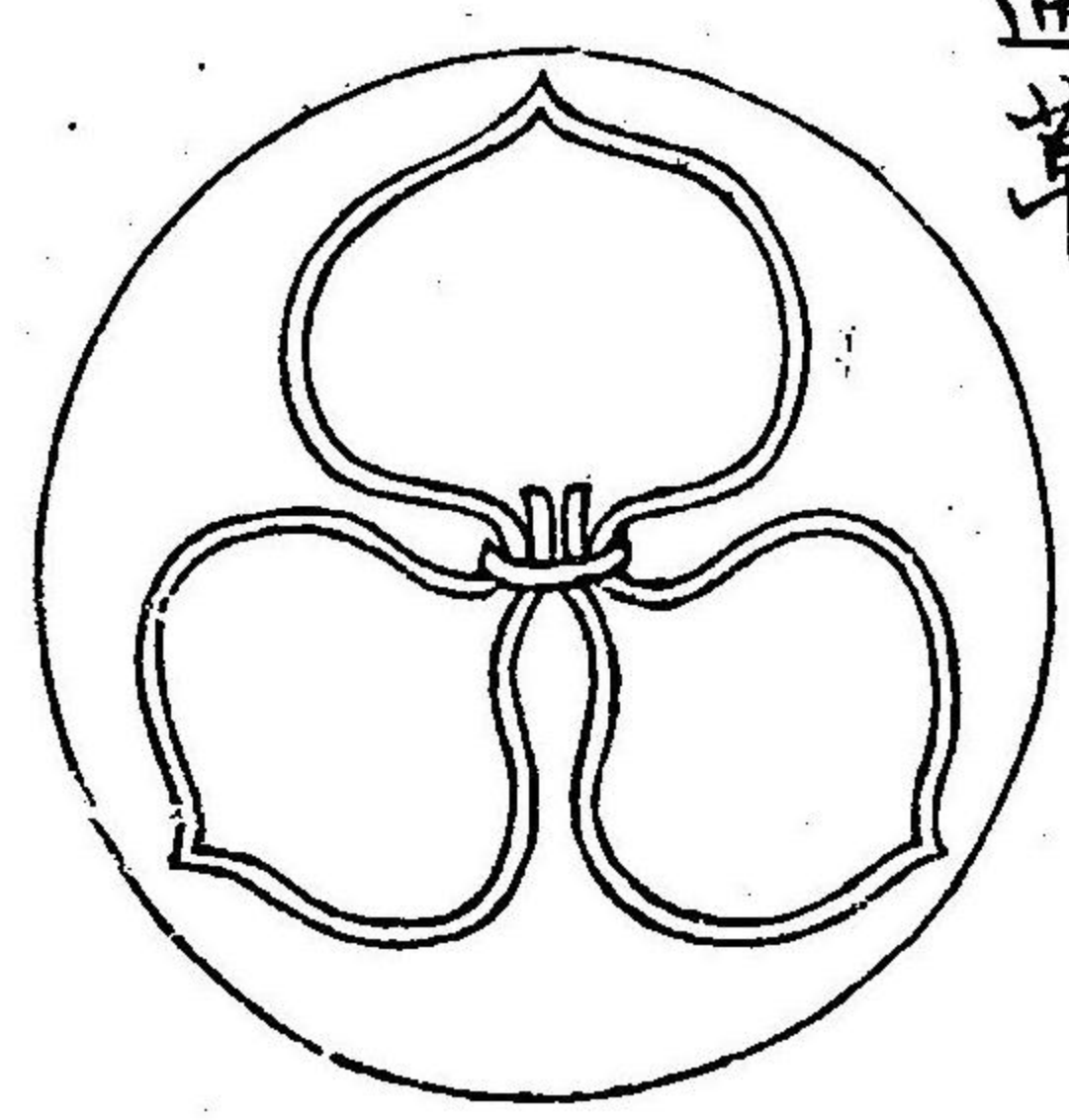
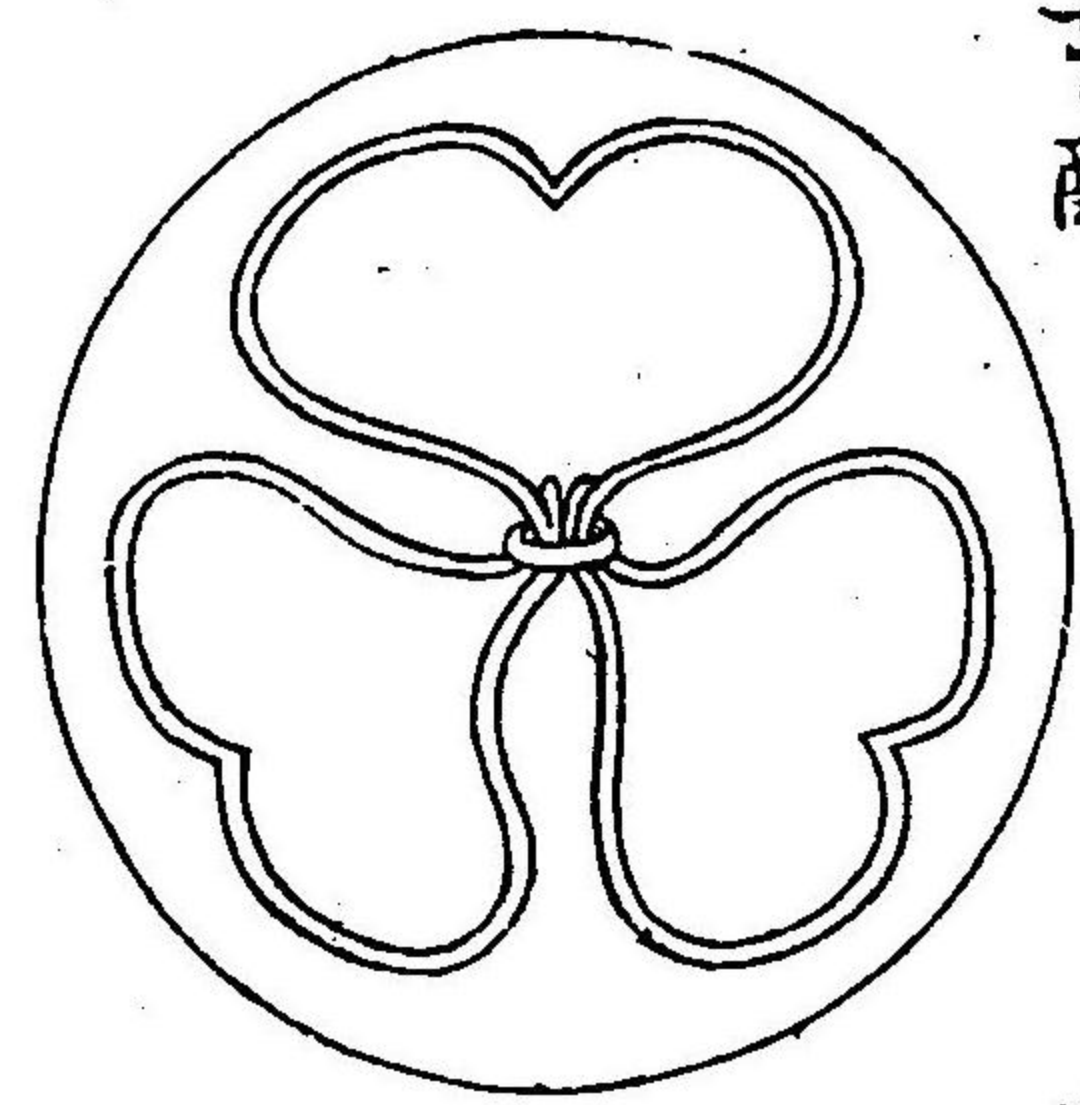
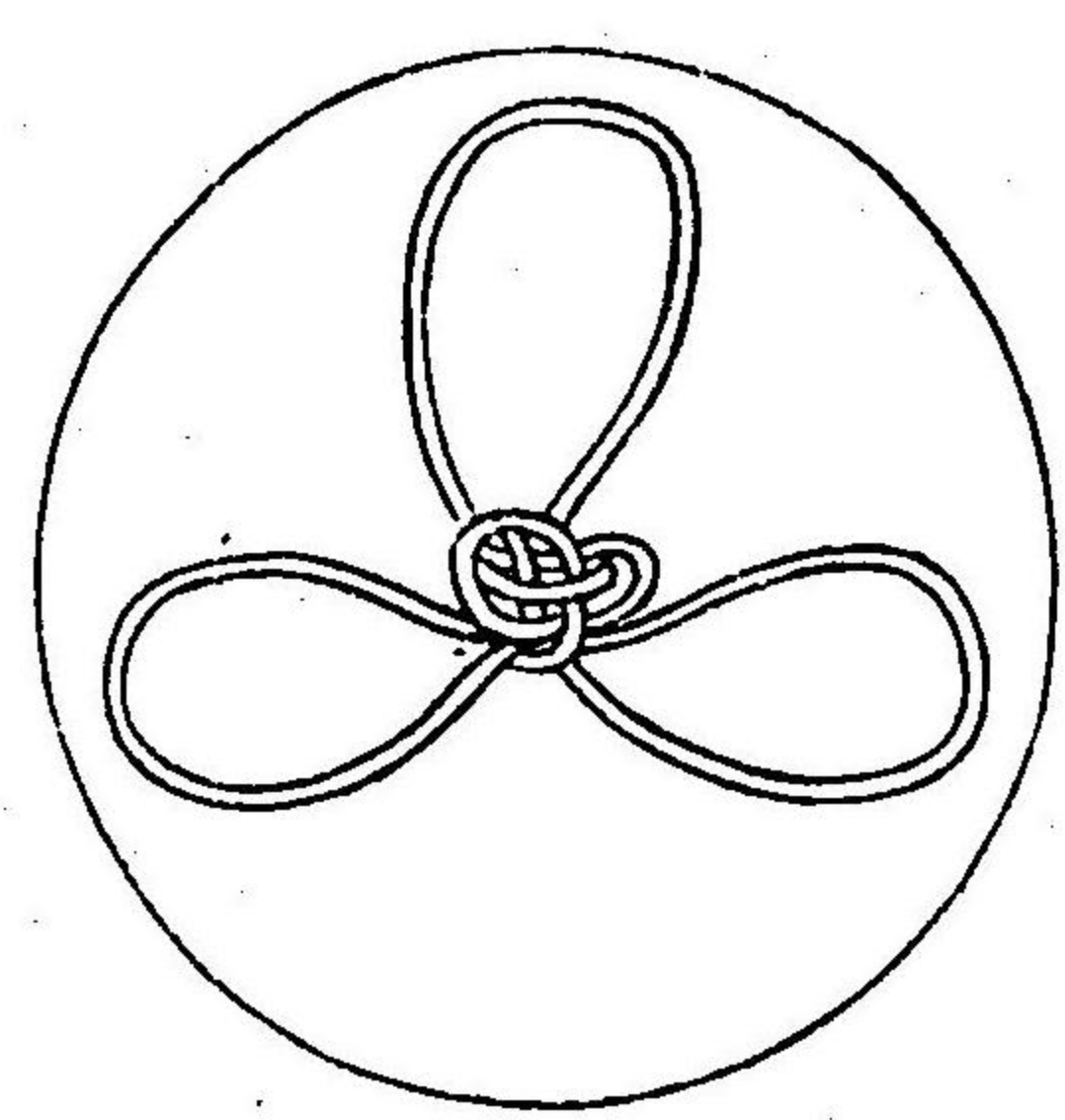


通草



如此下結をよまはは之辨とあり
三葉酸通草も此形とありし

三

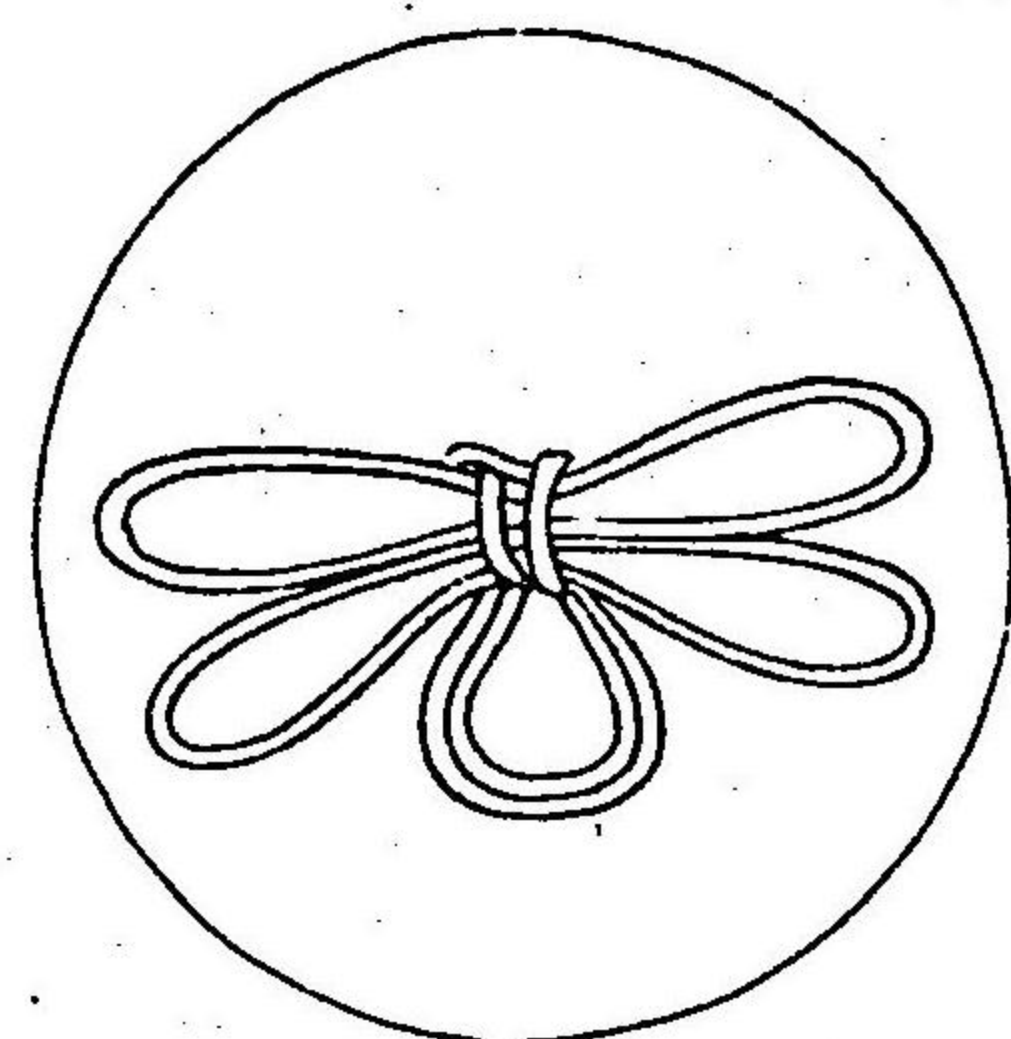


花の形

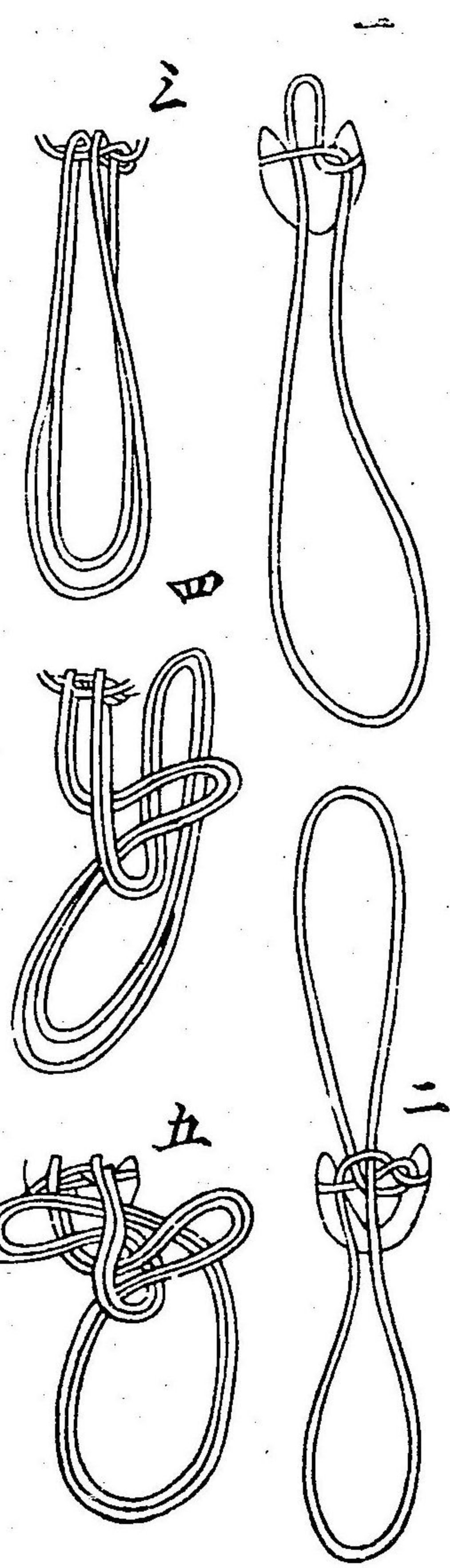
花の形

箱結の結

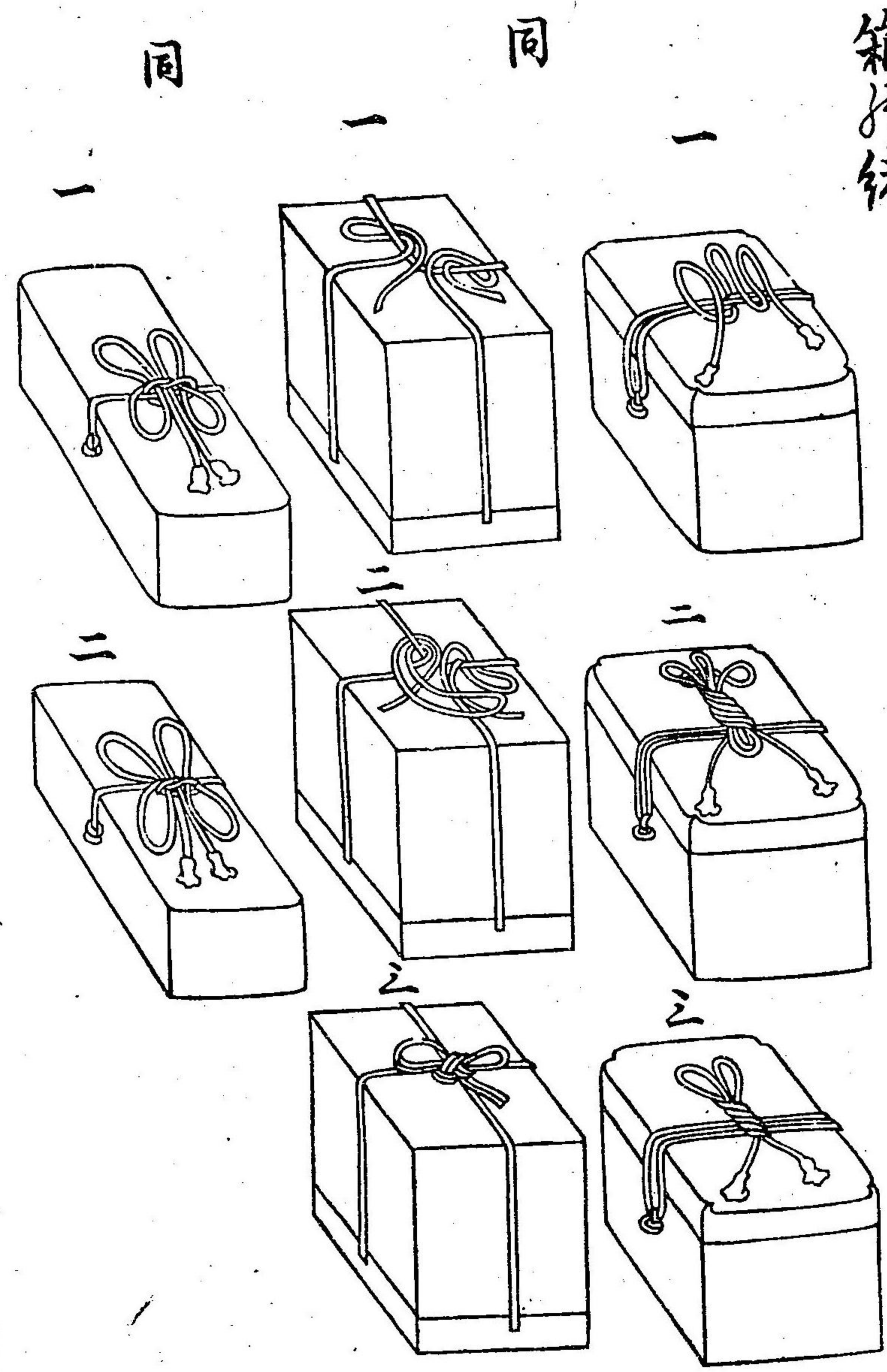
此下結をたて次は糸はゆるくする



此結をたて襟結と云ふ
種々此形をたてし得る
ゆるし尚求むる好の
ゆるしをたてし

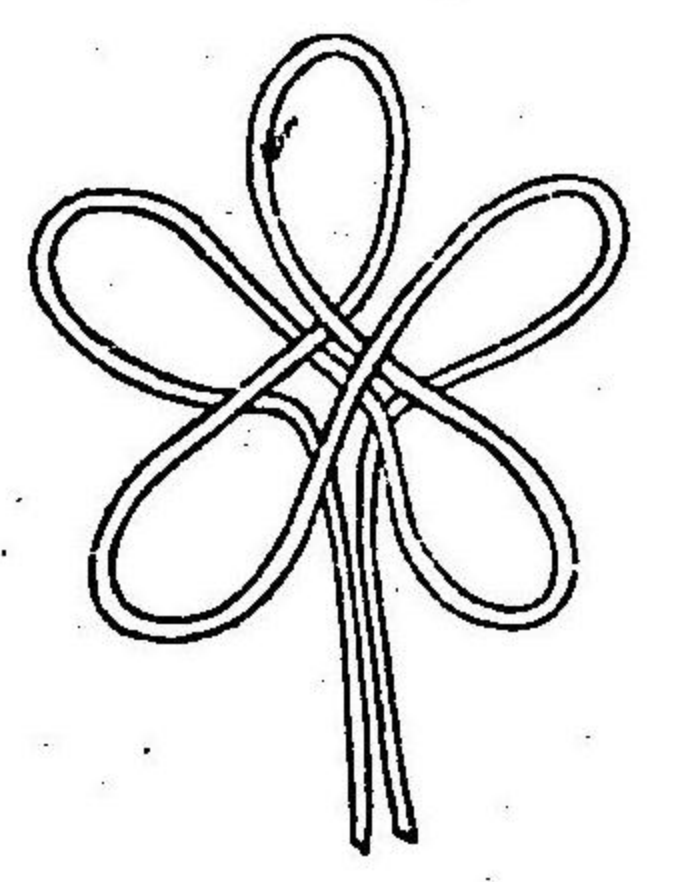


箱結

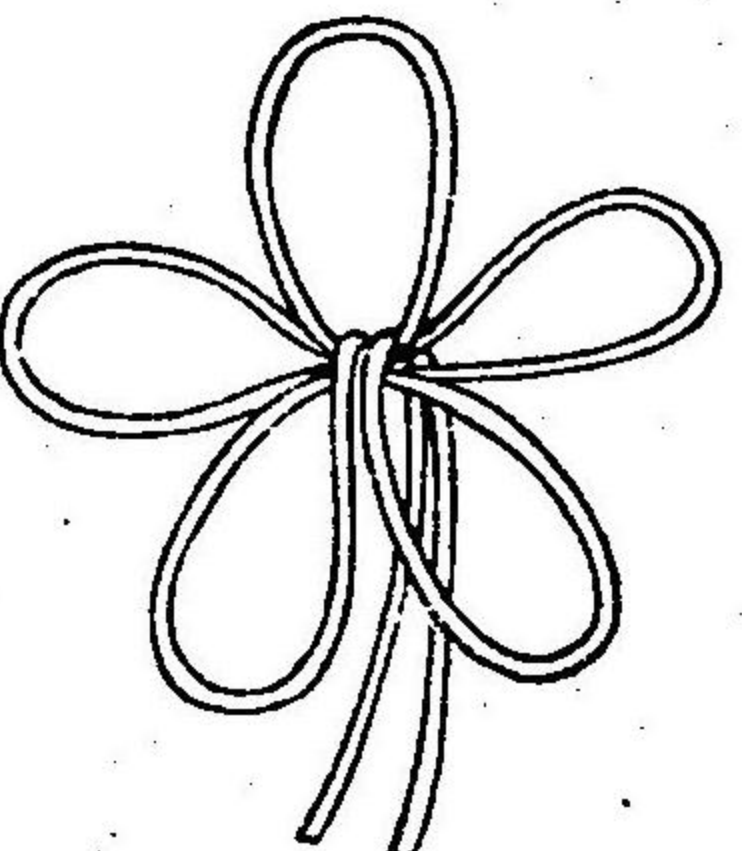


花むすび

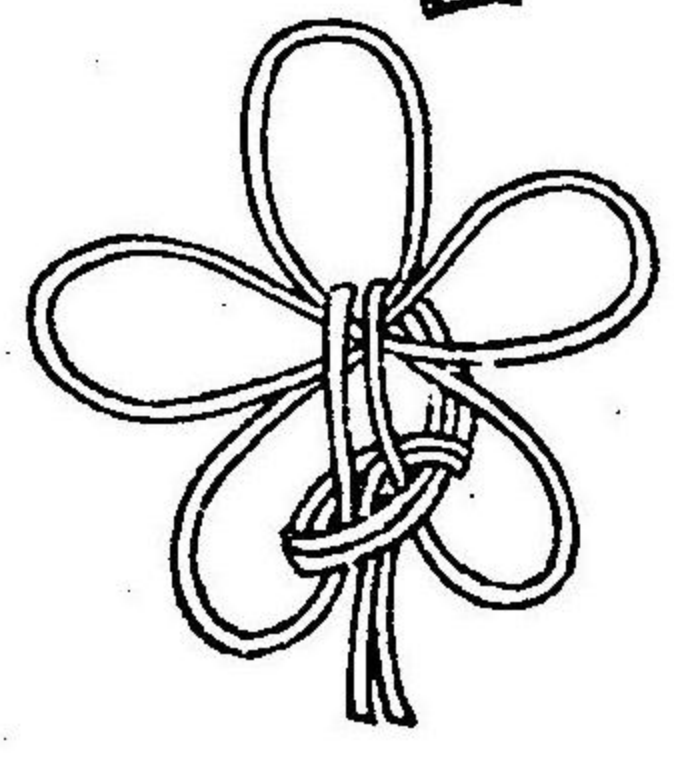
一



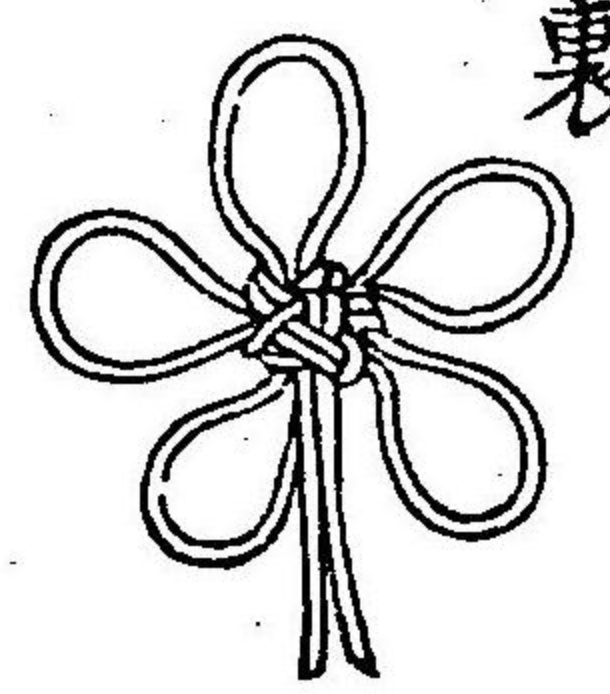
二



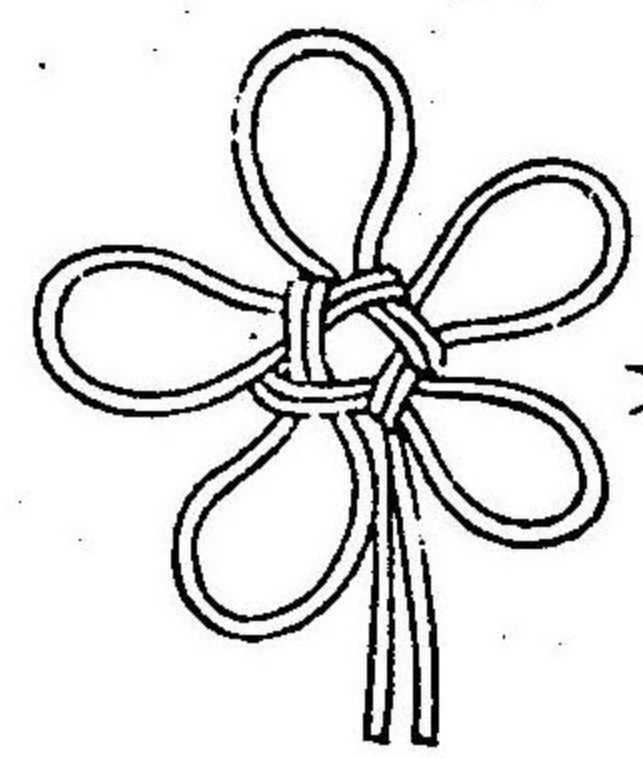
三



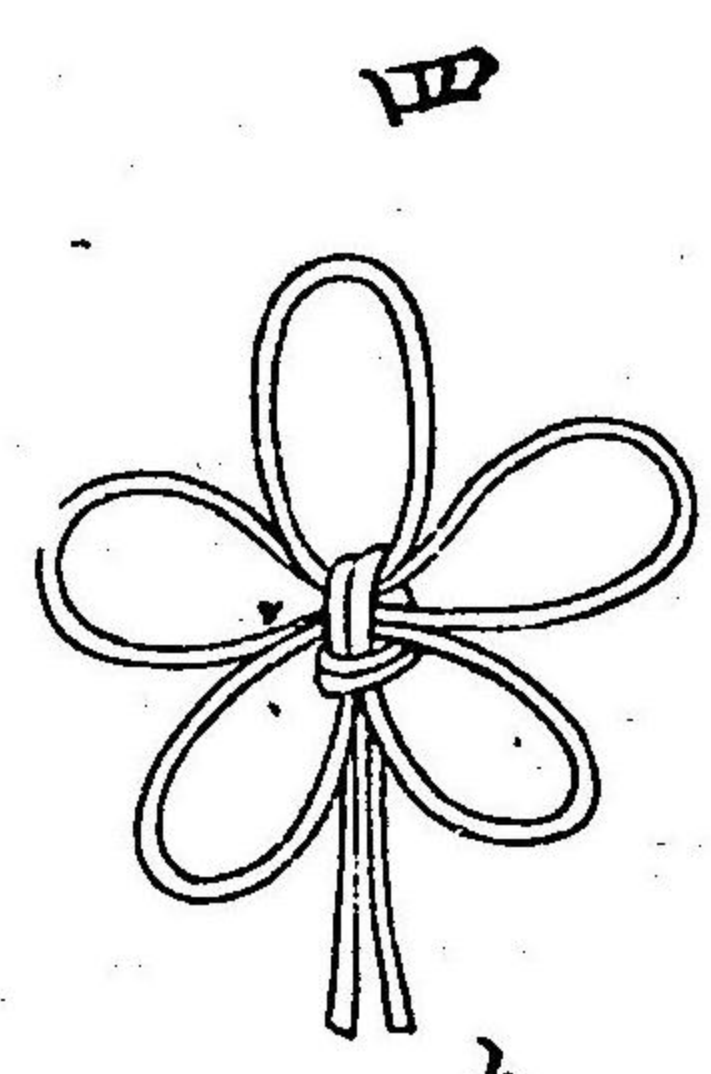
裏



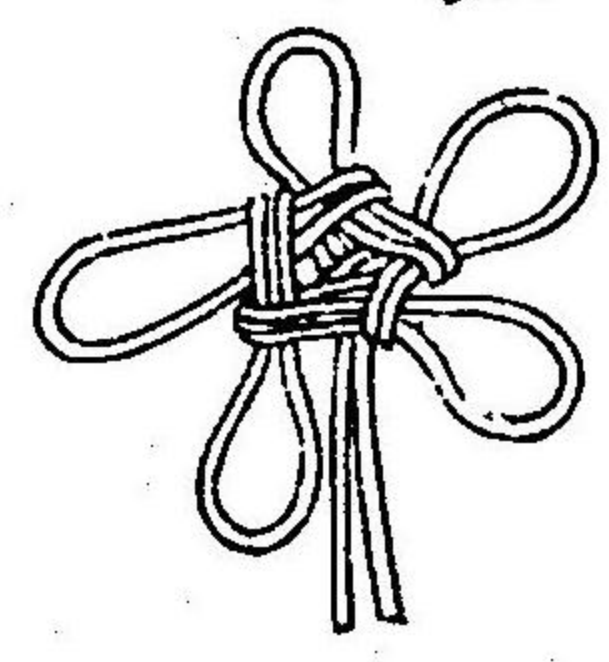
六



表



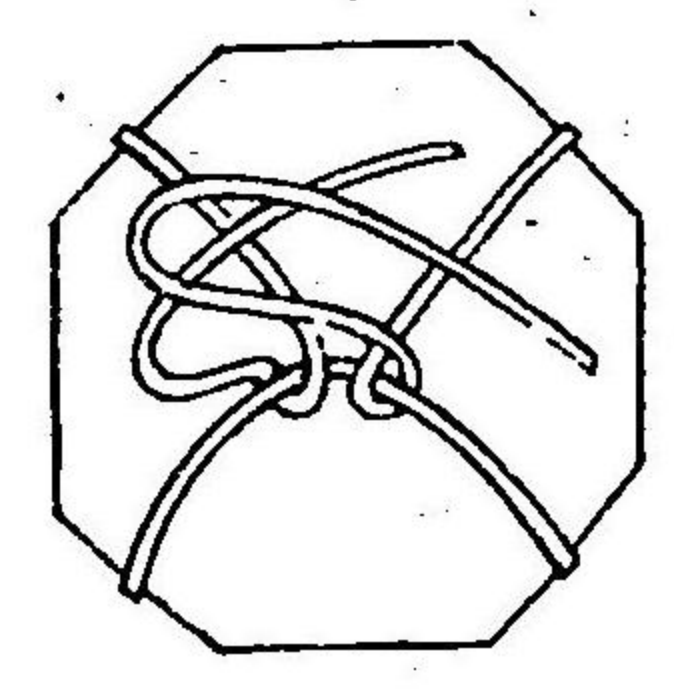
四



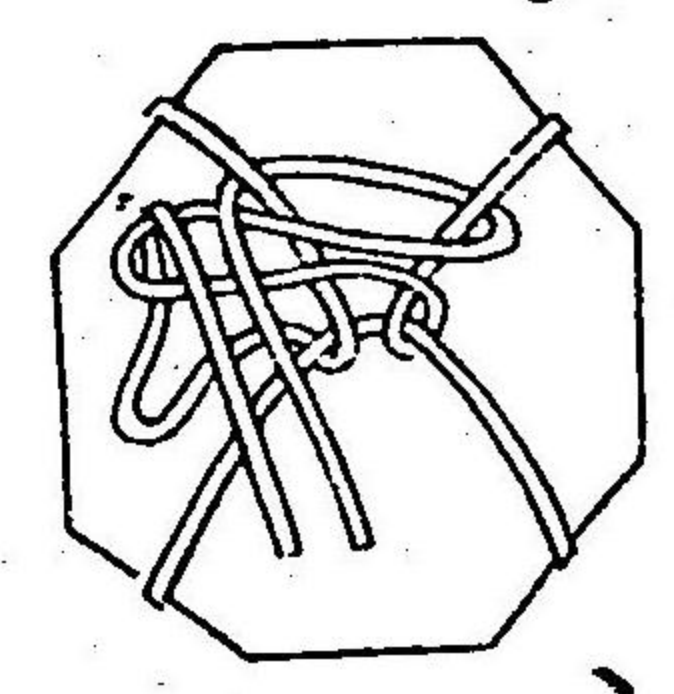
五

食籠の覆ふし結

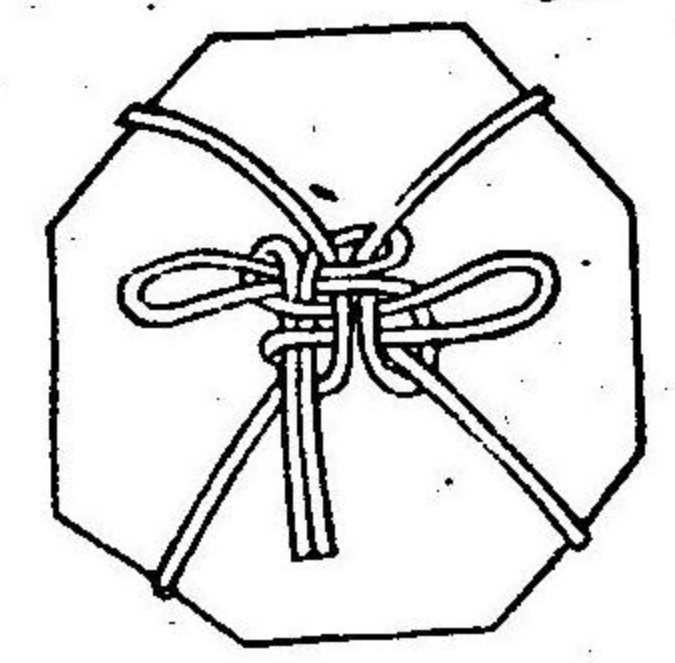
一



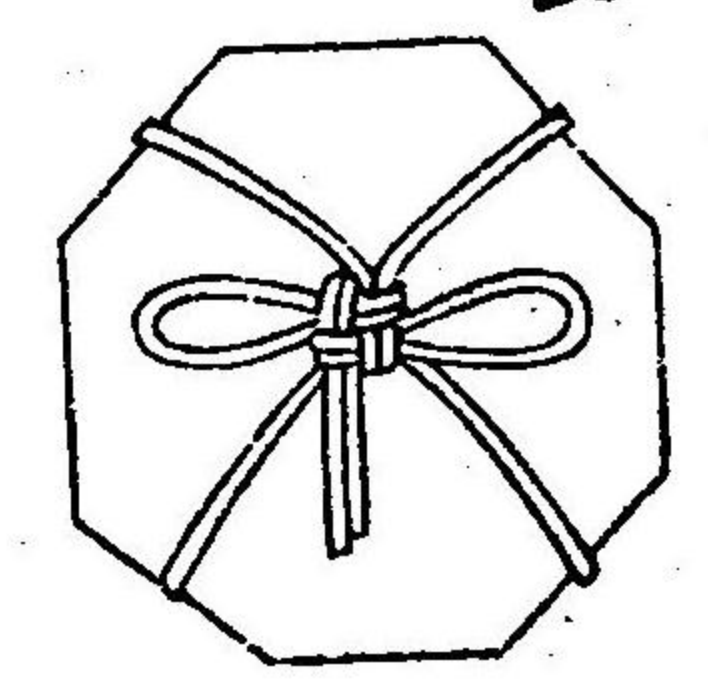
二



三

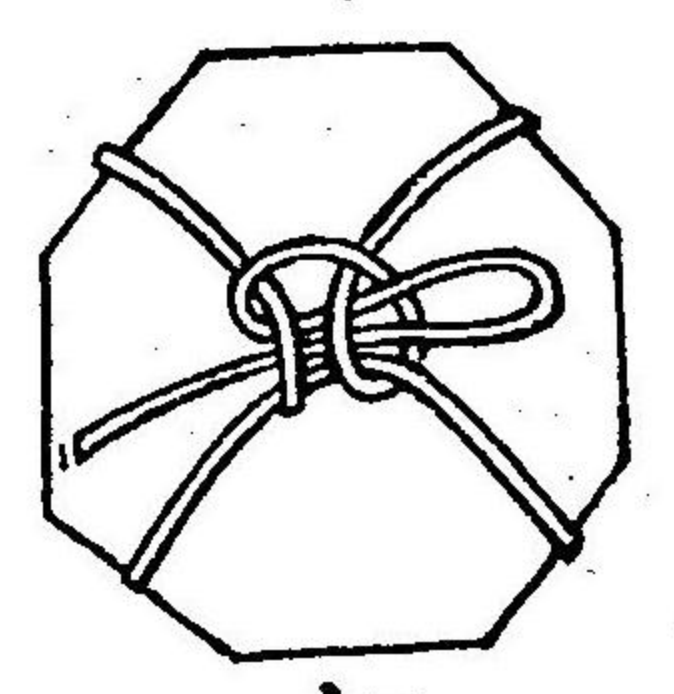


四

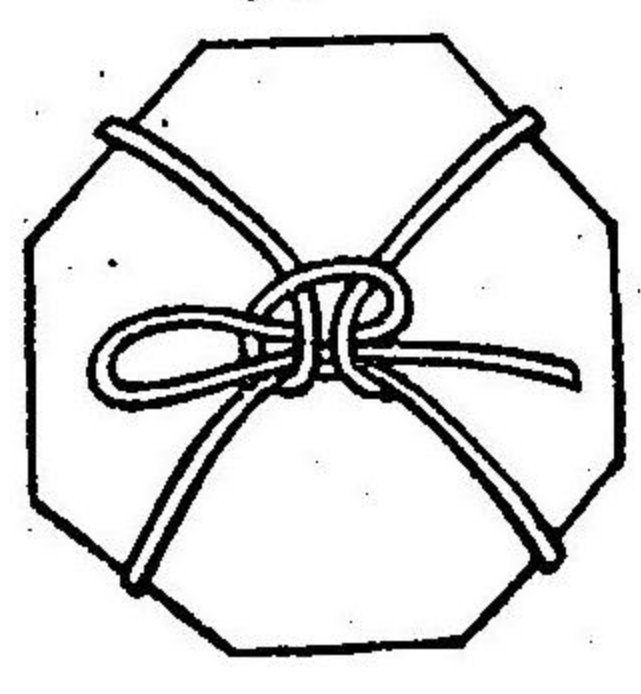


同とんちり結

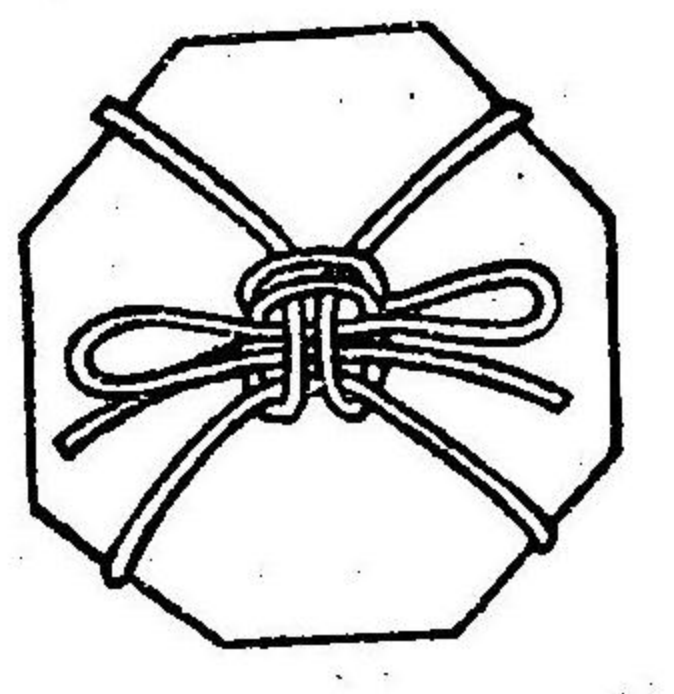
一



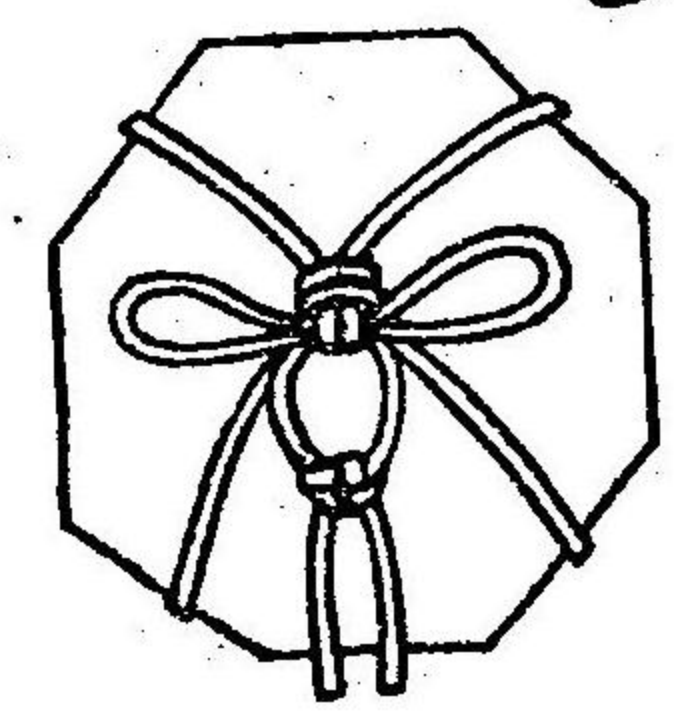
左



二

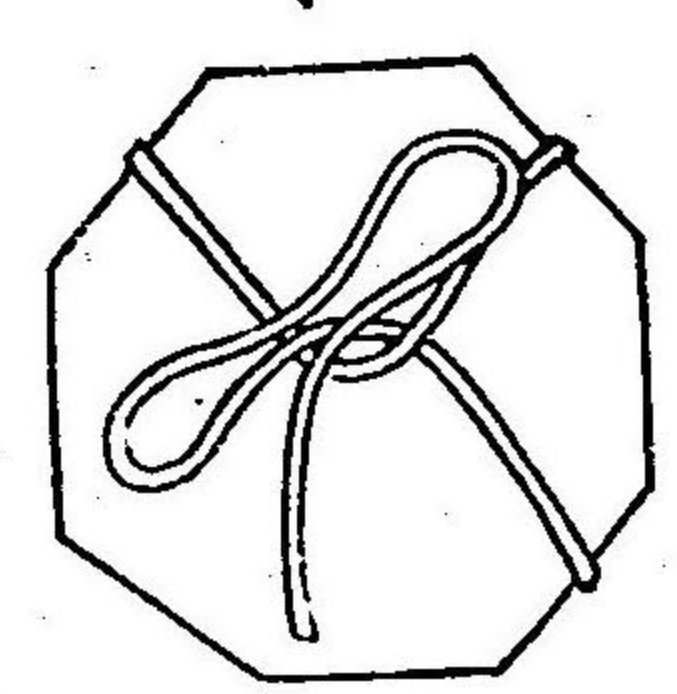


三

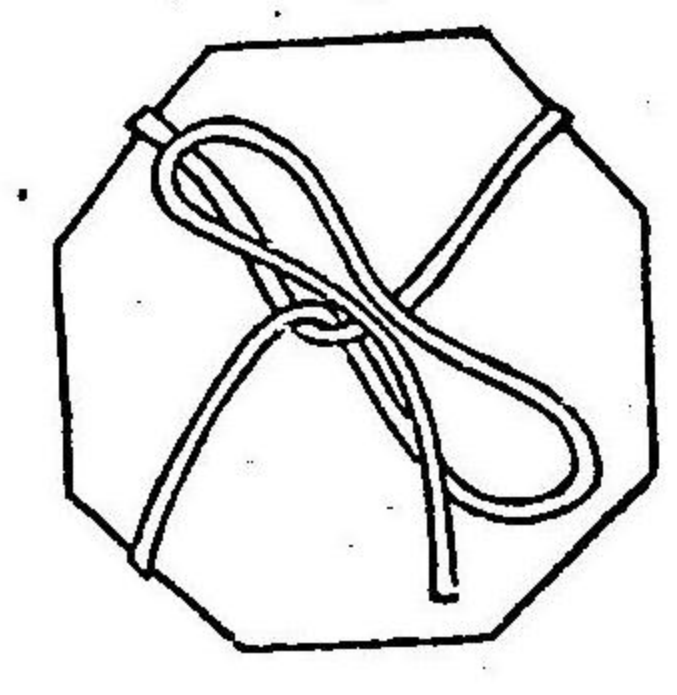


同とんちり結

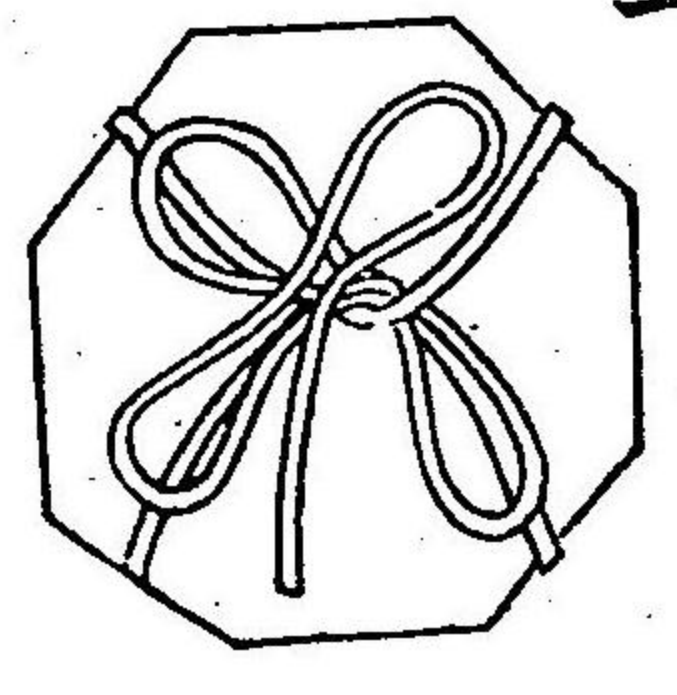
一



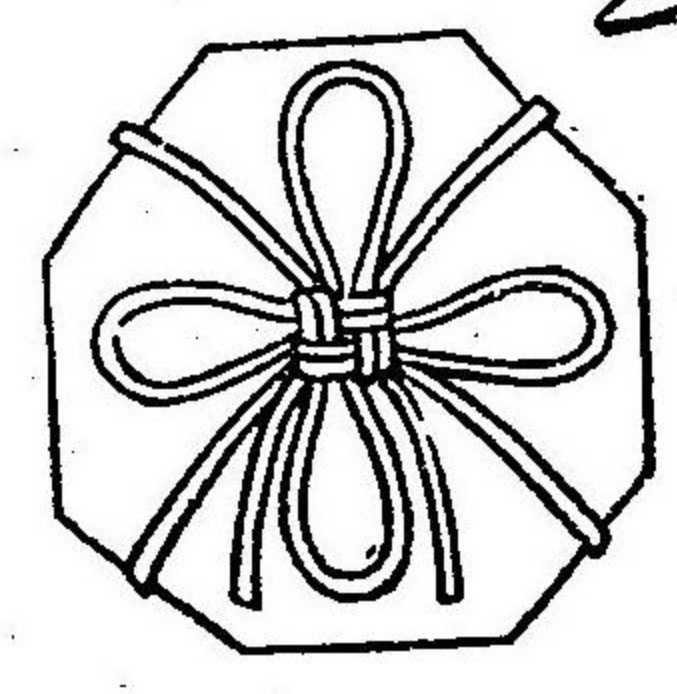
右



二



三



結方は工夫を凝らすと如何にも成し得るはせり

畫を掲げ難し宜しく上の舉ぐるに注意す

とんちり結のしるし

香音

香音

香音

汁

大和鱈

又

胡椒

又

くま

猪物

正魚
志野のきく
くまの海苔
針生美

向

又
志野

又
くま

焼物

丁白焼
鯛

盃

鉦子

重引

吸物

茶受

又
小煮のり片焼

又
小板蒲鉾

又
致漬たし

又
花海苔

又
潮煮

又
徳子

又
露の善

又
骨の玉

又
求肥

又
吉命餅

又
結干瓢

又
煮くま

濃茶

後菓子

淡茶

以上

又
河多平糖

又
金花山

又
玉兔

又
美とり

又
松外梅

又

又
花袋

又
京土産

又
旭北出

又
きくま糖

又
履菓子

又

又
巻松風鏡

又
長生殿

又
翁草

又
唐多門

又
子代乃友

明治十二年七月九日版權免許十三年二月
發兌

編輯 石川縣第一女子師範學校

版主 益智館

石川縣金澤區廣坂通
一番地

金沢區上堤町

同區安江町

中村喜平

近田太平

發行書林

明治十四年

